

肅、寧夏の七省に分たれる。黄土の堆積より成る一望果てしなき大平野は、地味肥沃に非ざれども高粱、粟、玉蜀黍、大豆等の雜穀を主として、小麥、落花生、棉花等が栽培され、雞と豚は殆んど各家に飼養され、山地の方面牧草豊かな地方では羊の牧養が多く、又山東、河南には良牛を産し、殊に河南牛は美肉と良皮を以て名が高い。

雨降れば泥濘車輪を没し、乾天數日に及べば砂塵濛々として、道か河かの區別さえつき兼ねた北支那の惡道路も、戦前國民政府の眞剣な努力と、新交通機關としての自動車の利用から、表通りは兎も角道幅も廣くなり、次第に舗装も行はれて舊來の面目を一新せんとするし、又村落の周邊や河邊に楊柳を見るの外は、山骨到る處に露出して殆んど森林らしきもの、見當らなかつた北支那にも、近年綠化運動が叫ばれて大に植林が奨勵されて居た結果、次第に鐵道沿線等には僅かながらも植込みを見る様になつて來た。

何しろ既に五千年の昔に於て、今日の漢民族の祖先が中亞よりタリム盆地に出で、黄河に沿つて次第に中原に下り、先住の苗族と争つて之を南方に驅逐し、定住して農業生活を營み來つた所であるだけに、自ら文化の發達も頗る古い。勿論中及び南支那に較べると氣候も悪く、土地も瘦せ、物資も亦甚だ乏しいから風物何となく貧弱鈍重の感は免れないが、それにしても人煙頗る密にして、平地には土煉瓦の家が分布し、山間部には石を積んで作つた家が多く、奥地では山の側面を掘り込んだ土窟式の家もあり、高粱桿や玉蜀黍桿の燃料を家の周圍にうづ高く積み上げて、住民は貧しい乍らも屈託のない生活を續けて居る。

### 【河北省】

支那本部の東北隅を占め、面積一四萬方呎にして支那では福建・江蘇・浙江に次ぐ小省であるが、それでも尙ほ北海道を除いた我が本土の約半分に當る。人口は約三千萬にして、其の密度は一方呎につき二二〇人を越え、諸省中江蘇省に次ぐ稠密地である。

住民の主生業は農業で、玉蜀黍・粟・高粱・小麥・落花生等の産出が多く、棉花と馬とは全國第一位にあり、又工業の隆盛は全支中江蘇省に亞ぎ、製絨及び皮革工業、骸炭製造、精製鹽等は全國第一に位し、其他製粉業、紡績業、燐寸工業、電氣工業等、颶風一過の日本占領地域下に於て目覺しき復興の氣運を示して居る。

昭和三年國民政府の南京奠都以來全支政治文化の中心地北京、經濟の中心地天津兩市の重要性は南京・上海に移り、河北一帯は往年の殷賑を中支に奪はれ、北支經濟も次第に中支の植民地化しつゝあつたが、今次の支那事變によつて國民政府の敗退と共に、此の状態は根柢から覆され、今や日滿支三國の互助連環の結成によつて、本省は再び政治・經濟・文化の全部門に亘り、新興の生氣を取戻す様になつて來た。

【北京】元・明・清三代の都で、中華民國になつてからも十七年間、即ち昭和三年國民政府が南京に奠都する迄は、支那の首府として殷盛を極め、今の河北省も其の頃はも膝下の意味で直隸省と呼んで居たのである。



市街は内城と外城の二つに分れ、内城は宮城を中心に街路東西南北に整然として走り、内外の諸官衙、貴紳の邸宅が多く、外城は商店街で、正陽門外大路の兩側には富商老舗軒を連ねて頗る賑やかである。共に堅固な城壁で圍まれて居るが、殊に内城の城壁は延長一三哩餘、高さは三七呎に達し、基礎の厚さは六四呎、壁上軍道の幅が約五〇呎で、よく數個の車を同時に連ねることが出来る。構造の頑強堅固な事は全く驚嘆の外なく、堂々たる樓門の建築美に至つては天下の偉觀で、然も其の規模の如何に廣大であるかは北京の人口約百八十萬の大衆が、此の内外城郭内に住んで居る事からでも推測される。

舊皇城紫禁城は壯麗無比にして、殿堂樓閣は善美を盡し、郭廊階段には大理石を鏤め、其の壯觀豪華は全く筆紙の及ぶ所にあらず、支那の主權者が自ら天子と號し、四百餘州に君臨して中央の威嚴を示し、四隣を威服せしめたる昔が偲ばれる。然し此の帝城としては東洋第一の廣袤と壯觀とを以て、老大國を象徴したる善美無比の紫禁城も、世が民國と革つて以後はあはれ沈黙の故宮と化して、幾多の巨殿高門は唯北京滿街を壓してそゞり立つのみ。支那民族の誇りである美しき殿堂御苑も、或は博物館として公開され、又は民衆的公園として開放されて、嘗つては文武百官が北面して天子に拜謁したる内庭も、美しき敷石の間に夏草の茫々たるを見る状態である。

政治の中心から離れて以後の北京は、恰も我國の京都が辿つたと同じ様に、觀光都市としての更生を期して努めて來た。昔は支那四百餘州の名物名品は悉く北京に集つて來て、金銀細工・寶石・古玉・翡翠の

類から文具、織物、陶磁器類等、凡そ高價な貴重品は北京でなければ求められなかつた程であるが、政治の中心が南京に去ると同時に北京は俄に寂れて、此の特色さえも次第に失はれ様とする悲境に落ちた。

衰頹一路の窮境に立てる北京をして、復興再生の機運を得しめたるものは今次の支那事變である。國民政府の北伐完成を記念して「北平」と改稱せられ、邊僻の大都として僅に往時の名勝史蹟を命の綱に、觀光都市として更生の牛歩を續けて居た北京は、今や皇軍の翼下に歴史に床しい舊名を取戻したるのみか、資源豊かな北支蒙疆の大中心地として、又日滿支經濟提携の大根據地として、至便なる其の交通的位置と相俟つて、不動の基礎を確立しつゝある。

【天壇】 外城の永定門内にあつて面積數萬坪に亘り、北京では紫禁城に次いで規模の廣大なものである。千古の雨露を凌いだ老柏の大森林を以て掩はれ、其の中央部には大理石造り圓形の大祭壇があつて、圓頂の廣場で犠牲を捧げて親祭が營まれる構造である。祈年殿は碧い琉璃瓦で葺いた圓錐形三層樓の大殿堂で、廻欄には全部大理石を用ひ、その華麗な色彩と精巧な彫刻とは、北京有數の建築藝術品として名が高い。清朝時代には聖苑として容易に近づくを許されなかつたが、今は國慶紀念園として開放されて居る。

【萬壽山】 北京の西北郊外、西山に近く萬壽山がある。初め乾隆帝が天然の地勢を取入れ、玉泉山麓に大報恩寺及び延壽寺を建立し、人工的に杭州の西湖の勝景を寫して、昆明湖と呼ぶ周圍數里の大湖を穿ち、此處に頤和園の大離宮を築造された時は、金碧輝き、清麗其の極を窮めたのであるが、其の後一度英佛聯合軍の爲めに燒かれ、次いで清朝の末年西太后が大に土木を加へて復舊されたのが現存のものである。往時に比して規模稍々小なるも、殿樓の宏壯、泉水の美



觀、今も尙ほ當年豪華の面影を傳へ、北京第一の名園として内外人の來訪するものが常に絶えない。

【盧溝橋】 北京の西方永定河に架せられた石造の橋である。夙に京師八景の一として知られ、「盧溝曉月」の名は文人間に著聞して居たが、昭和十二年七月七日橋畔に發する一發の銃聲が、日支大事變の導火線をなすに及んで一躍世界的に有名となつた。

橋は金の大定二十九年の起工に係り、三年の歳月を費して完成したが、其後元・明・清等の修理を経て今日に及んで居る。長さ一三三間餘、幅は四間、橋の兩側には約百四、五十の欄干あり、柱頭には瓦匠の手に成る色々の形をした獅子の彫り物が踞踏して居る。マルコ・ポーロの東方見聞録にも此の橋の事が記されて居るので、歐米人は之をマルコ・ポーロ橋と呼ぶと云ふ。

【通州事件】 通州は北京の東方に位して白河に沿ひ人口二萬餘、往時は大運河航路の終點として、北京の咽喉に當り、人馬の往來頗る頻繁なりし處である。

昭和十二年七月日支事變が勃發するや、冀東政權の所在地たる通州に二十九軍の一部が駐屯するのは、不祥事惹起の虞ありとして、我が駐屯軍は其の武装解除を要求したが應じないので、七月二十七日之を空襲撃滅した。然るに七月二十九日に至り、通州駐在の冀東政權に屬する保安隊數千は、我が守備隊の僅少なるに乘じ、突如我が居留民二〇〇を包圍し、特務機關長細木原大佐を始めとして、老幼婦女に至る迄之を虐殺し、我が朝野を憤激せしめたのである。我が軍は直ちに空軍を送つて之を爆撃すると共に、援軍を派して之を攻撃して、保安隊の武装を解除するに至つたが、次いで十二月冀東政權代表の陳謝、並びに賠償金百二十萬圓の支辨によつて事件の終末を告げたのである。

【天津】 人口一五〇萬、白河河口から三五哩の上流に位し、北支經濟の心臓である。大運河を始めとして天津で白河に會合する幾多の河川運河は、河北省の各部から西は山西の境に到り、南は山東西部にかけて

盛んに民船を通じ、又鐵道は東は山海關を経て滿洲國に達し、北は北京を経て察哈爾、綏遠の奥地に、南は南北連絡の幹線津浦鐵道が山東の要地を縫つて南京の對岸浦口に至る。斯くて水陸交通の發達から、天津の商勢力は著しく擴大されて、北支經濟の中心地として中支那の上海に匹敵するものあり、石油・麥粉・綿絲・綿布の輸入、羊毛・獸皮・棉花の輸出を主として、外國貿易では上海に次いで全支の第二位を占め、天津を制すれば北支那を得とさえ云はれる程の繁榮振りである。

更に天津は北支工業の要樞にして、紡績・製粉・燐寸・製革等の大工場あり、又金融機關も多く此處に集つて、北支の財源をなす。在留外人も支那全土中上海に次いで最も多く、白河の兩岸支那街の下流に位する日・英・佛・伊の諸國百餘萬坪に達する租界には、約一萬七千の外人が居住して、治外法權下に國際都市を現出して居るが、中にも日本人は進出最も目覺ましく、事變前天津を中心として、北京と山海關に至る沿線の一帯に居住するもの約二萬人と稱せられたが、今日は其の幾倍に達する盛況で、天津の紡績業は殆んど其の手にあり、工業界に於ても貿易に於ても斷然優位を誇つて居る。

【大沽と塘沽】 天津は貿易港としては上海に次いで支那第二に位するが、貿易額は上海が支那全貿易の半を占めるに對して、すつと段が落ちて全貿易額の一割餘に過ぎないのは、白河の吐き出す泥砂の堆積によつて、港としての機能を十分發揮出来ないからである。事實今日では河川用として特に吃水を淺くした二千噸位の船が、潮流を利用して遡つて來る位で、河川の淤滞によつて天津港を復活する事は、今の處では絶望と見られて居る。

そこで天津の外港として活躍して居るのが大沽と塘沽の兩港で、大型汽船は河口八浬沖の大沽錨地で荷役し、中位の



船は河口から四漕半上つた塘沽にかゝり、小さい船だけが天津港に遡る。白河は年々吐き出す流泥に埋められて、河口から七八漕沖迄デルタが發達し、干潮時に水面に現れる部分だけでも相當に廣い。之が即ち大沽バーで、この地帯は水深が僅に數呎で全く船が通らないから、長さ約一萬四千呎の間に幅百五十呎、水深滿潮時に一五呎半の水道を設けて、辛うじて上下の汽船が行違ひ得るだけになつて居る。以前は大沽バーを越した船の大部分は天津に入港したが、今では大部は塘沽で荷役し、又大型船は大沽沖で荷役するが、浪の荒い時は全く手も足も出ない。近年大沽沖築港の計畫があるが、十哩位迄埋立てるとすれば一億以上の金を要するので、資金關係から實現容易ならず、秦皇島は良港としての資質はあるも、餘り位置が離れ過ぎて居るので利用價值少なく、今や港灣問題は北支の發展上惱みの種である。

### 【山海關地方】

開平は元の忽必烈が始めて帝位に即いた古への上都で、又元朝最後の順帝が蒙古に逃げ出した舊蹟であるが、今日では炭坑と汽車工場、及び硝子・セメント工場の所在地として知られる。

開平から灤州にかけての開灤炭田は、英支合辦の開灤炭礦會社の採掘經營で、優秀なる無煙炭の埋藏量約三億二千萬噸、一ヶ年の採掘量六〇〇萬噸に近く、ヨークスに適するので盛んに我が國にも輸入される。渤海の北端唯一の不凍港たる秦皇島は、炭礦會社が運炭の爲めに鐵道を敷設し、棧橋を建設したるもので、今では冬期結氷期に於ける天津の補助港として利用されて居る。

山海關は前に渤海を控へ、後に峨々たる高嶺を負ひたる水陸の要害地で、萬里長城は此處を起點として蜿蜒西に連る。名高き關城は明の永樂帝の時の築造にかゝり、城門の樓上には明の蕭顯の筆に成る「天下

第一關」の美事な扁額あり、古來此の關を境として關内・關外を區別し、又以東の地域を關東地方と呼ぶ。奉山線と京山線の國境驛として有名であるが、市街は割合に淋しい山麓の驛路で、干からびた空氣と水氣のない黄土の上に、平べつたい屋根の支那家屋が並んで居る。

【萬里長城】 山海關の渤海沿岸白砂の間から起り、滿洲と支那の國境を西に走り、察哈爾、綏遠・山西及び陝西の省境を経て寧夏省を横ぎり、遠く甘肅省の嘉峪關に至るまで、山を越え谷を渡つて蜿蜒實に五二四里、其の間には幾多の支壁、重壁があるので、其の長さを加へると優に七一七里に及ぶ。壁の高さは所によつて同一でないが、概ね一五尺から三〇尺に上り、厚さは底が二五尺、頂上が一五尺、壁上には約一町毎に烽火臺の設けあり、又所々に通道と稱する暗路を穿つて壁外への通路とする。北方塞外民族の侵入に備へる防禦の長壁として、秦の始皇帝が築造を始めたもので、支那本土の牆壁として彼の大運河と共に、世界稀に見る大工事である。

始皇帝は西曆紀元前二百二十一年天下を統一し、從來の封建制度を廢して全國を三十六郡に分ち、又盛んに土木を起して帝王の豪華と威嚴を中外に宣示した。彼が皇都に築いた所謂阿房宮は、優に一萬人の群衆を容るゝ程の大宮殿であり、又彼が三千に上る後宮の爲めに設けた大森林公園は、星座に似せて布置されてゐたと云ふ。之等の造營が完成すると共に、彼は北巡して徐ろに朝業の大成に努め、遂に北方匈奴の侵略を防衛せんが爲めに、長城造營の計劃を樹て、國民に總動員を命じ、貴賤貧富の別なく全國民の來り助くべき事を令した。

而して當時の學者が其の無謀を罵つて起つや、彼は農業、醫藥、巫術に關する書籍を除き、其他の諸子百家の書を焚き、更に諸生を坑に投じて一切の群議を排し、只管長城の完成を急いだのである。學者も詩人も、政治家も美術家も、悉く鋤を持ち斧を携へて長城の建築に従事した。怠けるものは容赦なく鞭打たれ、命に叛くものは直ぐ殺されて、屍體



は長城の坑に投げ込まれた。支那人は今に至る迄、長城を世界中で「最も大きな長い墳墓」として語り傳へて居る程に、多數の人々があの長城の中に、悲痛の恨を呑んで埋まつて居るのである。

始皇帝は即位後十二年沙丘で死んだ。彼は在位中一日と雖も怠らずに長城の完成を急いたのであるが、それでも尙ほ豫定の通り進捗しなかつた。次いで二世、三世皇帝はもとより、漢の高祖までも歴代政府の傳統的政策として、専ら其の完成を期したのであるが、然し實際から見ると萬里長城は、始皇や歴代皇帝の豫期に反して、成吉思汗の侵入を防ぐ事も出来ず、滿洲人の攻撃を喰ひ止める事も覺束なかつたのである。之は元來支那人は戦争を好まぬ國民で、何時の場合にも戦争するのは、一二野心家が勢力を争ふに過ぎない。何れが勝つても負けても、國民は一向關係しないのであるから、支那の兵士は何時でも景氣のよい方へ寝返りを打つ。北方の匈奴を恐るゝものは唯だ皇帝の一族のみであつたから、折角の長城が出来ても、此處に配置された兵士には聊かの戰意もなかつた爲めに、漢は遂に匈奴と和睦せざるを得なかつたのである。

尙ほ長城の築造法は、先づ山の頂上に二五尺の間隔を保つて二條の溝を穿ち、其の中に大きな岩石を投じ、其の上に粘土で製した煉瓦を積み、更によく撞き固めた土で覆うたもので、之等の材料の運搬には主に野牛を使用したが高、高い處へ持ち上げるには凡て人力によつた。本壁を築く外に、二重三重の外壁を築いて、吹き寄せる砂塵を防ぐ必要にも迫られたし、又北京の西北部の様に、重要な防禦地點には全部二重の長壁が作られたが、荒廢せる無人の山嶺に造營された此の大工事の困難さは容易に想像される。始皇が建てた阿房宮や、星座に則つた後宮宮殿は、今は跡方もなく消え失せたが、萬里長城のみは數千年後の今日迄も、尙ほ嚴然と在りし昔の姿を傳へて、附近の土中からは往々錆びた矢の根の發見されることあり、胡砂吹く風にも古戰場の跡が偲ばれる。

更に斯うした歴史上の事實から、支那人の頭には長城を國境とするる感じが深く刻み込まれて、山海關を境として關

内と關外とを區別し、關外で起つた出來事は家の外の出來事と見るが、關内で起つた事は家の中で起つた出來事として騒ぎ立てる。滿洲問題と北支の問題とは、支那人の考へが全く違つて居るのであつて、滿洲問題だけではさほどで無かつた抗日が、北支問題から急に全國的に波及したのは、支那人の頭に長城が、長い丈夫な家の關と考へられて居る事を注意せねばならぬ。

### 【山東省】

古への齊、魯の國として、日本には古くから知られた土地である。山東半島と黃河下流の平野とを含み面積約一五萬方呎、人口三八〇〇萬、其の開發が支那でも最も古いだけに人口頗る稠密にして、産業發達し、農産物では大豆、落花生、葉煙草は産額各省中第一位を占め、畜産物では山東牛で有名な牛は全國總頭數の七分の一に上り、又沿岸一帶の鹽と魚、膠濟鐵道沿線の石炭、鐵鑛等も産出が極めて多い。住民の八九%迄は農民であるが、山地が廣くて人口が多い關係から、農家一戸當りの耕地面積が他省に較べて狭い上に、土地は又數千年來の耕作で地力著しく減耗して居るから、山東では人口の過剰から出稼ぎや移住が多い。滿洲住民の大部分は山東出身であるが、今でも農繁期には盛んに大群が押出して來る。所謂山東苦力と稱せられるもので、滿洲から天津・北京、更に上海方面に迄も及んで居るが、體力が強くて勤勉な事驚くばかり、而も其の生活は飢ゑては喰ひ渴しては飲み、疲れては道の傍でも木蔭でも、草を枕に青天井の下に平氣で眠ると云ふ簡單極るものであるから、到る處に根強く發展して行く。彼等は郷土毎に一團とな



つて苦力クワリ幫を作り、夫々頭目に指揮されて居るが、其の團結は非常に鞏固であると云ふ。

山東は又其の位置が北支那と中支那の中間を占めて、一葦帶水の渤海海峡を隔て、滿洲國と相對し、更に朝鮮及び日本内地とも近く、北支の關門として極めて重要である。即ち山東を制すれば容易く支那中原を控制し得られるので、古くから南北勢力の相衝激する要樞であり、又我が國との關係も深く、大正三年日獨戰爭による青島の領有によつて素地を造られた彼我の特殊關係は、之が返還後も山東の地理的事情から當然持續され、今次の支那事變を一線として山東の對日依存性は愈々深められつゝある。

### 【山東の日本利權】

支那で日本人の事業投資の最も多いのは上海で、之に次ぐのが山東である。上海では一ヶ所に集つて居るが、山東では青島を中心に、膠濟鐵道の線路に沿うて濟南に至る間に廣く分布して居る。

邦人事業の主なるものは紡績工業と鑛山事業で、事變前其の投資額は青島にある紡績工場の七千五百萬圓を筆頭に、同燐寸工場、製油工場等の千五百萬圓、淄川炭田の石炭と金嶺鎮の鐵鑛を經營する魯大公司を始め、沿線各地で行はれる鑛山事業の二千四百萬圓等、合計一億二千四百萬圓で、山東外人投資總額の約七〇%餘を占め、邦人は斷然優勢を示して來た。其他山東には鹽の生産が多いので、日本は青島還附當時の協定によつて、大正十五年以來毎年最低一億斤から最高三億五千萬斤の青島鹽を、日本に輸入し得る利權を收めて今日に及んで居る。

斯く山東に於ける日本人の事業は青島を中心に、山東沿線に亘つて散在し、隨つて邦人も多數此の沿線各地に居住して居るが、何分沿岸の開港場と違つて、一本の鐵道を唯一の連絡線として居るだけに、一度此の沿線が不安になると營業も居住も安全を脅かされる。今迄山東出兵が屢々繰返されたのも、全く之が爲めである。今次の支那事變には、山東各地の紡績工場は兵火に焼き拂はれる、鑛山は採掘施設を擧げて破壊される、其の打撃は誠に甚大であるが、既に颶風

一過して、經濟建設の氣運各地に澎湃たる今日、長き歴史的關係に鑑み、所謂雨降つて地固まる譬の如く、日本が山東諸産業の指導者として、舊に倍する進出を見るべきは疑はざる所である。

### 【山東の移民】

滿洲三千萬の住民の大部分は漢人であるが、其の大部分は最近數十年間の移住者で、而も其の大半は渤海海峡を越えて渡來した山東人である。山東は支那南北勢力の衝突點であるだけに、連年兵禍に惱まされ、大軍が駐屯して軍費の誅求が甚だしく、農民は年に三、四回も地租を取られ、收穫の大部分を取上げられるので、赤貧洗ふが如くにして食ふに途なく、住み馴れた家を捨て田畑を捨て、新天地を求めて逃げて行く。戰場になつた所は牛馬車輛は徴發される、衣類夜具は取り上げられる、燃料として村の樹木は伐り倒される、家畜は奪はれる、村は荒れる、若者は人夫として掠はれる、婦女は辱められる、之では民衆は留つて死するか、逃れて活を求むるかの外はない。

殊に山東は久しく土匪の本場で、大小の土匪團が到る處に割據し、十數年來跳梁を恣にして來たが、それに又戰爭で負けたものが潰兵となり、鐵砲や機關銃を持つた儘土匪の仲間入りをするので、大は數千の兵力を有する恐ろしい土匪團まで現れて來た。而も之が始めは金持だけを襲うて居たが、金持が安全な都市へ逃れた後は、中産階級を襲ひ、次いで一般農民を苦しめ出した。牛馬や食糧に迄も手を着ける世智辛い状態となつた上に、黄河の水害があり、蝗の害があり、人民は樹皮を食ひ石の團子食つて忍んで來たが、迎も堪えられなくなつたので、壯者は土匪に投じ、家族のあるものは土匪にもなれず、乏しい財布を擲んで滿洲へと逃げ出した。

斯くて山東人の滿洲逃避行は昭和元年頃から始まつて、年々其の數は百萬人以上にも上り、今では北滿から遠く内蒙古に迄も及び、素晴らしい勢ひで發展して居るのである。今日では山東の政情も安定し、滿洲の方でも移民を制限して居るので、約三、四十萬の出稼苦力が往復するだけとなつたが、何にしても滿洲住民の大半は山東移民であるから、今日でも山東に起つた色々の變化が、直ちに滿洲に影響することは注目すべきである。



【濟南】 山東省の中央に位する要都にして人口約四〇萬、津浦・膠濟兩鐵道の會點に當り、商工業盛んにして、棉花・大豆・落花生・牛皮等の集散多く、又綿布・燐寸・製糖・製紙等の大工場がある。一九〇四年支那自らが開市せる處であるが、現在は外國との通商貿易は主に天津・青島の二港を經由して行はれる。市街は内外二城から成り、外城は周圍六里半、壁の高さ二五尺、内城は周圍三里半餘、壁の高さ四〇尺厚さ二四尺、明朝初期の建築にして、樓門の如きは堂々たる偉觀を呈したが、先年の濟南事變に破壊されて今は昔の面影がない。城内には學校・官衙多く、商賈軒を並べて殷賑を極め、又城西の商埠地には日本人の在留するもの三千に近く、青島と共に山東省に於ける日本人活動の根據地として、邦人經營の工場、病院、學校等も建てられて居る。

尙ほ濟南は又水郷として知られ、「泉の都」の名あり、周圍二里餘、内城の北部約三分の一を占むる大明湖を始め、七十二泉の湧出あり、官衙公館多く水に臨んで優雅の姿あり、風物殊に古き都に適はしきものがある。

【曲阜の孔廟】 世界三聖の一人として、遺訓を萬世に垂れたる孔子も、孔教の宣傳に一世を捧げて、之を世界的の倫理教に育て上げた孟子も、其他論語によつて名を識る孔門の十哲も、大抵は山東出身の人々である。

大聖孔子の故郷は津浦鐵道の曲阜驛から東方約五哩、泰山南麓の曲阜城で、今でも此の地には過去二千餘年の間、代名門として優遇されて來た、孔子七十七代の後裔一門が住んで居る。孔子は在世中は魯の定公に仕へて一微臣であり、道を説いて六國を遊歴しては到る處で冷遇され、偶々私塾を開いても弟子は漸く七十二人に過ぎず、門弟三千人とは全

く後人の吹聴で、誠に不遇の間に一生を終つたが、其後孟子が出で、遺訓を組織的に纏め、之を實踐倫理教として中外に宣布したので、聖教忽ちにして一世を風靡し、永く極東民族の思想を支配して今日に及んだのである。

曲阜にある現存の孔廟は明の萬曆年間の改修にして、正殿を大聖殿と稱し、北面して高さ七丈八尺、奥行八丈四尺の大殿堂にして、正面には巨大なる孔子の聖像を祀り、其の兩側には顔淵、子思、曾子、孟子の像を安置する。廟後の墳墓は此の黄色人種の生んだ極東第一の巨人、大聖孔子の靈永へに眠る處にして、南面して巨大なる墓碑を立て、碑面には「大成至聖文宣王」の文字が大書してある。道の兩側には漢代の遺物と稱せられる石人、石獸、石柱が並立し、門あり殿舎あり、境内には千餘年の星霜を閱したる老松巨柏鬱蒼として生ひ茂り、壯嚴の氣自ら胸を衝く。建築の大規模、殿堂の金碧燦爛、古色蒼然たる其の様相は人をして襟を正さしむるものあり、誠に大聖孔子を祀るに相應はしき聖域である。

【青島】 山東半島の頸部、膠州灣岸に位して人口四〇萬、明治三十一年獨逸が膠州灣を租借するや、物價低廉の當時五千萬馬克の巨費を投じて市街を建設し、築港を完成し、背後の連絡線たる膠濟鐵道を敷設し、沿線の鑛山を開發し、山東全省を殆んど其の勢力範圍に收め、青島を東洋發展の策源地として、海には優勢なる東洋艦隊を置き、陸には前後左右に堅固な要塞を築き、難攻不落の金城として經營したる處である。

偶々大正三年歐洲大戰勃發するや、日本亦聯合國に參戰し、兵を進めて青島を陥れ、鐵道、鑛山を占領し、多年東亞に扶殖したる獨逸の勢力を全く掃蕩し、次いで講和條約の結果獨逸の山東に於ける利權の全部、即ち膠州灣の租借權、鐵道・鑛山・海底電線等一切の權利を繼承したが、我が國はかねての聲明に基づ



いて、膠州灣を支那に還附し、膠濟鐵道は賠償を得て讓渡し、又鑛山は日支合辦で經營することとした。斯くて青島は今や商埠地として完全に支那政府の支配下にあり、市政廳を置いて市政を司らしめ、港務局を設けて港務を處理せしめて居る。

【市街】 市街は小高い丘陵地と海岸に沿つて建てられて居るが、舊獨逸經營時代に邸宅の三分二は、庭園として樹木を植えることを強制したので、綠樹鬱蒼と生ひ茂り、黃塵と禿山の荒涼茫漠たる北支の風物に對比して、全く別世界の觀がある。アスファルトを舗きつめた坦々たる車道の兩側には、整然たる街路樹が茂り、之に沿ひたる歩道に面して三、四階造りの歐風建築が清楚な姿を以て連つて居る。山間を開いて設けた三十萬坪の大公園には、世界各國から集めた二十餘萬本の珍樹名木が植えられ、白砂數哩に亘る海岸には、黃海沿岸第一の海水浴場が作られて居る。壯大な病院、教會堂等にも、東洋唯一の根據地として、如何に獨逸が期待を持ち努力を續けて來たかが窺はれる。

【港灣】 青島港は外港と内港とに分れ、外港は市の南側青島灣を形成する廣濶な錨地で、又内港は、大港、小港、船渠港等に分れ、殊に大港は三方に防波堤を繞らして、港内の面積約一二〇萬坪、六千噸級の汽船を一八隻、三千噸級の汽船を二六隻同時に繋留し得る能力がある。貿易は開港以來次第に發達して、今では上海・天津に次いで第三位を占め、全支貿易總額の約五・三%に上る。輸出は麥稈眞田・生牛・落花生及び其の油を主とし、輸入は綿布・紙・砂糖・マツチ・染料・石油等で、取引先は日本が斷然優位を占め、出入船舶の三分の一は日本汽船であり、貿易額の半ばは對日關係である。

【日本人の活動】 青島は約八ヶ年の長日月の間我が軍政治下にあつた爲めに、日本人の移住して商業、工業、貿易に従事するものが多く、事變前其の數は一萬に達して居た。邦人經營の中學校、女學校、小學校等の施設もあり、附近には

内外綿花會社や日華紡績公司の紡績工場、片倉製絲の絹絲工場、大日本麥酒會社の青島工場、其他多くの落花生搾油工場等もある。青島公園には同胞一千有餘名の忠勇なる將士の遺骨を納めた、高さ七十尺の花崗岩の大記念塔があり、又畏れ多くも天照大神、大己貴命、明治天皇の三柱の大神を奉祀した結構莊嚴な青島神社は、想ひ出深き膠州灣の全景を一眸に收むる、市内若鶴山の西方山腹に鎮座して、遠く故國を離れて住む在留邦人の氏神として、崇め祀られて居る。日本軍の青島撤退と共に、忽ち支那人の横行跋扈となり、現に今日青島の日本領事館の面前海濱には、堂々たる青島還附記念塔が建設せられ、支那人はワシントン會議に於ける日本の屈辱を、後世に永く傳へんと試みて居る程で、在留日本人も少なからず壓迫されて、嘗つては二萬を算したる邦人も次々に引き揚げて次第に落莫たる状態となつたが、事變後は、我が對支政策の重要根據地として、現状は著しく變化するに違ひない。皇祖及び明治大帝を奉祀したる青島神社の所在地であり、又各種の工業及び鹽田には數億の巨資を投じたる緣故深き土地であるから、苟も帝國臣民たるものは時と場合には、一身を賭して英靈眠る此の地を守護する覺悟がなければならぬ。

【芝罘】 山東半島の北岸に位する港市にして、人口七萬、旅順・大連と相對し、又朝鮮・日本に到る要路に當る。港内水深く自然の良港をなし、從來は山東奥地に對する物資の吞吐、南滿洲に對する貿易の中繼等總て此の港を介して行はれたものであるが、近年青島の開港、威海衛の自由港建設等から繁榮を奪はれ、僅に柞蠶製絲、絹紬製織等の工業と、滿洲にある支那人向物資の輸出を主として、其の命脈を保持して居る。尙ほ芝罘は北支では珍らしく氣候溫和の地で、冬暖く夏涼しく、而も物價は對岸の旅順・大連に較べて三分の一に足らず、誠に生活の理想郷であるから、米國東洋艦隊が避暑地に指定して居るのを始め、北支那駐在の外人や其の家族達は、芝罘の海水浴場で夏を過すのが例である。



【威海衛】 芝罘の東方約二二軒の地に位して、人口一五萬、天然の良港にして、背面及び南北の兩腕は高山を以て圍まれ、東に向つて港口を開く。清朝時代には一大軍港として、定遠・鎮遠の精銳を擁したる北清艦隊は、此の地を根據として、我が西海を脅威したるが、日清戦役に潰滅して以後は振はず、明治三十一年英國は露國の旅大租借、獨逸の膠州灣占領を見て、東洋に於ける勢力の均衡を口實として支那から租借し、自由港制度を布いて大連・青島に對抗した。

四邊は風光頗る明媚にして、殊に城市の東門外には温泉の湧出あり、灣内には周圍約八軒餘の劉公島が横はつて、英國北支那警備艦の根據地となり、其の對岸一帯にかけて官衙・公館・商店が多く、英國官吏が駐在して行政を指導して居たのである。

大正十一年ワシントン會議に於て、英國は威海衛の還附を聲明し、支那と幾度か交渉を繰返したる末に澁々之を實現したが、次いで英國人の土地永代租借權も、最近東亞に於ける英國勢力の凋落に伴つて、英吉利は嫌やでも手離さなければならぬ情勢にある。

### 【河南省】

河南省は昔の所謂支那の中原の地で、一望千里の際涯なき大平野には、大小無數の水流が縦横の網目をなして、遠く安徽・江蘇の彼方に迄連つて居る。太古は渤海の灣入する海であつたものが、幾百萬年の星霜と共に、上流から流下する黄土の沈澱と、吹き嵐した黄塵の堆積とで、遂に沃土千里の大平原を形成し

たものであると云はれるだけに、處々に鹽澤が多く、所によつては春秋二期の乾燥季に、地帯一圓より眞白く吹き出す鹽分を黄土と共に掻き集め、水中に溶解して泥土を除き、鹽分のみを乾燥凝固せしめて、工業用の天然曹達を製造するものがある。

「天は己れの民を禍せず」との聖賢の遺訓空しからず、幾萬年の間絶えず氾濫を繰返へして、村を埋め人を殺し、害惡擧げて數ふべからざりし暴君黄河も、一方では其の都度莫大なる天然肥料を齎らして堆積せしめたので、河南には棉花・雜穀・麻・胡麻・甘藷・葉煙草等が豊かに産出する。古來「中原の鹿」を射止めたるものは天下を取ると稱せられ、群雄爭奪の的となり、天下別け目の戦が幾度となく、此處を舞臺として繰返へされた。

今日でも支那の東西南北を連ねる鐵道の大幹線は、實に河南省の鄭州を交叉點として走つて居る。即ち京漢線は北京から武漢を経て、最近廣東に迄開通した唯一の南北縦貫鐵道であり、又隴海線は東は連雲港と結び、西は今日は西安の西の咸陽まであるが、更に將來は甘肅から新疆を経て、中亞のトルキスタン鐵道に連絡する支那の大横斷鐵道で、随つて河南は東すれば山東・江蘇の平野に出で、西すれば陝西・甘肅の奥地に入り、又北は北京から天津に入り、南は中支那の武漢に至る、南北勢力の交錯する要地である。中華民國以來河南の地が恰もテニスの球の如く、北から投げ飛ばされ、南から撲ち返され、北伐と南伐何れの場合にも激しく揉み立てられたのは全く其の位置的關係からで、今次の支那事變に信陽と云ひ鄭州



と云ひ、河南の経略に忠勇なる我が將兵が、屍山血河の大激戦を屢々繰返へしたのも亦之がためである。

【河南】 黄河の支流洛水の北にあるので洛陽の名あり、水を控へ山を繞らし、地勢難攻不落の天險をなすが爲めに、周の幽王が都を此處に遷して以來、東漢、晋、魏、隋、唐を通じて數百年間、歴代帝都の地として隆盛を極め、今も往時の繁榮を偲ぶべき史蹟が附近一圓に現存して居る。

【四近の名蹟】 古への詩人が「洛陽城東桃李花、飛來飛散誰家落」と吟詠した様に、今も河南の東門外には依然として桃林が多い。東門遙かの白馬寺は後漢の明帝が、印度から布教僧を迎えて建てた支那最初の寺で、佛教傳來の記念營造物として名高い白馬寺の佛塔がある。

南門外の龍門千佛崖は山西の雲崗に次ぐ靈窟で、伊川の兩岸殆んど絶壁をなせる處に石窟を作り、無數の石佛が刻まれてある。後魏から初唐にかけての刻出で、偉大なる宗教藝術の紀念物として世に知られる。郊外の北邙山には漢代以降、六朝、隋、唐歴代帝王の陵墓が累々大群をなし、荒廢の間に往時の盛觀を偲ばせて居る。東南遙に望む嵩山は支那五山の一にして海拔二千餘米、巍然として中空に聳え、山頂には達磨大師の開基にかゝる禪宗の本山少林寺がある。

【函谷關】 河南を一路西に進めば函谷關に至る。屏風を立てた様な黄土の層は高さ六〇〇餘米、其の間を僅に一條の隘路が通ずる處、即ち昔の函谷間の跡である。「一夫關に當れば萬夫も通ずる能はず」と云はれる程の險所で、孟嘗君は鶏鳴を眞似て關を出で、秦の魔手から逃れ、項羽は己れに先立つて關を越えたる劉邦の兵を追つて、名高き鴻門の會となつた。千古の史蹟も今は關扉固く鎖して語らず、徒らに遊士の心を傷ましむるのみである。

【開封】 黄河平野と西方山地の接續點に位し、又支那南北交通の要路に當る。五代諸王朝以下宋、金の帝都として聞えたる所で人口約二〇萬、棉花の取引が盛んで、又四近には往時の繁榮を偲ばしめる名勝古蹟

多く、河南省第一の經濟商業の中樞である。市街は黄河の河畔を去る事約五軒、黄河の河床より二米も低くなつて居るので、古來大氾濫に悩むこと稀ならず、有史以來十五回も大洪水に破壊された上に、一方位置の關係から外敵の襲撃を蒙る事多く、殊に往年の中華民國南北軍閥の爭覇戦には最も深刻なる損害を蒙つたが、それでも尙ほ今日の繁榮を維持して居るのは、全く中原平野の限りなき天恵に基づくものである。

### 【山西省】

東は大行山脈によつて河北平野と境し、北は萬里長城によつて察哈爾、綏遠と接し、西から南にかけては黄河を繞らした南北に長い一面の山國で、中央部は汾水に沿うて細長い盆地になつて居る。南方は中原一帯と、又東方は河北方面と、全く隔絶された其の地理的關係は、政治的には半獨立的な所謂山西モンローを形成する所以である。山嶽地帯だけに農業には不向きで、農産物は小麥・高粱・粟・棉花等を主として、省内の自給も覺末ない程であるが、礦産物には大に恵まれて、殊に石炭は優秀なる無煙炭の埋藏五〇〇億噸と稱せられ、又鐵の埋藏も少くない。唯礦物運搬の便がなく、正太線は狹軌であるし、京包線も輸送力が乏しいので、省外移出が非常に困難な爲めに、天恵空しく地中に棄てられて居るのは誠に惜しい。山國で産業に乏しく、雜穀を食つて何とか生きて居る山西では、今日省内一千百萬の大衆を支へて行く事は容易でない。窮乏の結果は産兒制限となり、昔から「山西の溺女」と稱して、女は育てるのに金がかか



るし、嫁入らすにも金がかゝつて不經濟だと云ふので、女の子が生れると隣の部屋に鹽に水を汲んで、其中で子供を溺死させる悪風があつた。今も地方の青年達は盛んに他省に出稼するが、彼等は困苦缺乏に慣れて居るので、頗る勤勉で且忍耐力が強く、粗衣粗食に甘んじて蓄財する。此の慣習が長い年月を経て地方の民風となり、山西商人は滿洲や外蒙古から、遠く新疆方面に迄も手を伸ばして、到る處金融界の覇權を握るものが多い。久しく山西省の獨裁者たりし閻錫山は所謂山西建設十年計畫なるものを樹て、一方では過剰の人口を綏遠及び察哈爾の京包沿線に送つて未耕地の開拓に従事せしめ、省民生活難の緩和に資すると共に、他面には製粉、紡績、毛織、皮革、燐寸、製紙等の製造工業に力を注ぎ、實績大に見るべきものがあつたが、次いで事變後は皇軍の占領下に、日本各大會社の管理によつて早くも復興の實を擧げつつある。

【太原】 省の中央部に位して汾水に臨み、周圍に山を繞らした眞四角な城市である。附近には鐵、石炭、岩鹽等の産出が多く、正太鐵道開通以來急激に發達した町で、人口約一五萬、閻錫山が山西の主人公となつてから茲に約三十年、彼の山西モンロー主義の根據地で、拮据經營の牙城であり、又西方赤色人民戰線の前衛基地である。

## 【陝西省】

古への秦の地にして「三秦を得るものは以て天下に主たるべし」と云はれたる陝西省は、省境何れの方

面を見ても山また山で圍まれた、恰も囊の中を見る様な所である。囊の東の口には函谷關と潼關の固めがあり、南にも蜀の棧道の嶮があり、西と北は六盤山脈の峻峯連嶺によつて匈奴・西戎の侵入を防ぎ、東は黄河の濁水を以て山西と境し、中には省内を東西に連ねる渭水の盆地、南北に走る洛水の盆地あり、誠に守るに易く出づる便なる嶮要の地である。

即ち力足らざれば囊の口を閉めて靜かに時を待ち、力餘れば出で、直に中原を制する。蓋し數千年の昔此の地に移り住みたる漢民族は、此の天險を擁して徐ろに力を養ひ、一度蹶起して河南に入るや、忽ち先住民族を驅逐して其の故土を奪ひ、或は之と混住混血して遂に今日の大をなすに至つたもので、即ち陝西は漢民族發祥の地で、堯・舜・禹の古人はもとより、周の鎬京、秦の咸陽、漢・隋・唐の長安と相繼ぎ、玄宗皇帝が河南の洛陽に帝都を移すまで約三千年の間、歷朝此の地を根據として威を振ひ、所謂中華文化の苗床を哺くみたる所である。

然しそれも概ね昔の夢、星移り物變り、中央を幾百軒の山河に隔つる其後の陝西省は、住民に無學の徒多く、民風保守的にして灌溉水利の便を講ぜず、沃土と水流に乏しからずして、而も屢々飢饉の災厄に見舞はれる。棉花・麻・高粱・玉蜀黍等を主産物とするが、其産額はもとより省内八百萬の大衆を養ふに足らぬ程の状態である。

而も古き歴史を誇る陝西省が、今また支那に於ける赤い新時代史の開卷第一頁を飾らんとして、時代



の脚光を浴びて再び東洋史上に躍出せんとしつゝある事を忘れてならぬ。昭和九年江西省の瑞金を棄てた支那共産黨軍は、陝西省に逃れて此處を最後の根據地とした。本省の北部にある延安こそは彼等の中心地で、殊に支那事變勃發以來此處には支那の各地は勿論、遠く比律賓、南洋方面等から男女學生が多數集つて來た。共産黨軍の幹部は彼等に抗日軍事教育を施して黨の中核分子たらしめる爲めに、陝西大學を始めとして各種の學校を開いて居るのであるが、親日政權下の山西省の隣接地域として、我が大陸經營上に重大な關聯性を持つことを注意せねばならぬ。

【西安】 昔の長安の都で、渭水盆地の中央に位し人口約五〇萬、周、秦、漢、隋、唐等約一千年間に亘る帝都の地で、當時の長安城下は人口一五〇萬、萬里の長途を遠しとせずして城下に集まる西方の白人種でも、其の數は常に萬を越えたりと記録され、我が國の遣唐使や留學生も、遙々難路を凌いで此處に來たもので、絢爛たる當時の文化、都市の殷賑は海内無比と稱せられるが、今は其の何分の一にも及ばず、名所史蹟も幾度かの王朝變亂に遭ひ、湮滅して跡を止めぬものが多い。秦の始皇帝が天下に號令したる咸陽城や、有名な阿房宮の遺跡を始め、榮枯盛衰のバノラマを繰り擴げた様な古き歴史の都西安は、昭和十一年の十二月張學良が蔣介石を襲うて監禁したる所謂「西安事變」以來、再び新時代の舞臺に登場して來た。赤色の都として、國共合作の支那事變下にあつては第八路軍や黨員の往來が繁く、又西安から甘肅・新疆を経て、トルキスタンのソ聯トルクシブ鐵道へと連絡する赤色ルートは今や世界の注目を浴びて居る。

隴海鐵路の要驛にして、商業盛んに行はれ、毛皮・羊毛・藥草・絹布・茶等の集散地として名が高い。

#### 【四近の名蹟】

【碑林】 長安附近に散在したる古碑を集められたもので、漢以降六朝、初唐までの巨匠の墨蹟が完全に保存されてある。林立せる巨碑の偉觀は、支那金石の一大寶庫で、殊に唐の太宗の頃キリスト教傳來の紀念碑たる「大秦景教流行碑」は、東洋史の史料として頗る珍とするものである。

【華清宮】 西安東方の小城市臨潼の南門外、驪山山麓には硫黃泉があるので、秦の始皇帝の時から離宮となり、唐に至つて華清宮を造營して輪奐の美を盡した所と傳へられる。玄宗皇帝が楊貴妃を携へ來り、長生殿裡春夢濃かなりし事は人口に膾炙する。今は荒れ果て、唐代の美觀はないが、それでも宮殿高く、池あり亭あり、史蹟に相應はしき體裁を得て居る。

【始皇陵】 焚書坑儒の大暴君秦の始皇も、僅に二世十五年にして脆くも滅んで仕舞つた。西安の東、天然の高地の如くに屹立する小山が始皇陵で、在りし日の極まりなき豪華さは、漢の高祖が此の陵を開掘して、漢室創設の費に供したと口碑に傳へられて居る程である。

【阿房宮】 秦の始皇が天下に號令したる咸陽城は、西安の西方近き處にある。四山を裸にして造營したる壯麗無比の阿房宮の遺蹟は、其の北門外五、六里の地點にあり、渭水の水は萬古に盡きざれども、始皇の雄圖は一夢に歸し、阿房の宮趾も徒らに英雄の歴史を語るのみ、深く人生の儚なさを感ぜしめる。

【漢中】 陝西省の南部、秦嶺山脈と巴山山脈の間を漢江の上流が東に流れて、漢中の盆地を形成する。首邑漢中は盆地の奥に位する城市にして、漢の高祖が未だ劉邦の頃の都である。西安から漢中を經、蜀の棧



道を越えて四川省に通ずる街道は、嘗つて安祿山の亂に唐の玄宗が、楊貴妃の手を携へて巴蜀に蒙塵したる難路であつたが、今は坦々たる道路を自動車を通じて、赤色ルートに據る援蔣物資が成都・重慶へ潮の如くに送られて居る。

**【甘肅省】**

陝西省の西北部、蒙古と青梅の間に横はれる細長き地域である。徐州の西方海州から西に走つて甘肅に伸びる鐵道を隴海線と呼ぶのは、甘肅省が古への涼州の地で、一にまた隴と稱したからである。地勢概ね山地にして、平均の高度は海拔千數百米に及び、河流には黄河竝に幾多の支流があるも、本省に於ては一の舟運を通ずるものもない。氣候は一般に寒冷にして、然も空氣乾燥し、植物の生育に適せざる處が多く、天恵に乏しくて、農産物としては雜穀・煙草・麻・棉花等を産するに過ぎず、省外移出としては南部高山地帯より採取される藥材類、北方の長城沿道より運ばれる羊毛獸・皮革等が稍著しきのみ。人口約五〇〇萬にして各省中では最も少ない。

住民は漢族の外回教族が頗る多く、支那氣分は次第に薄らいで、回教氣分が之に代つて濃厚となる。大體甘肅省の全人口の1/3は回教族であるが、彼等は漢族と同化せず、交際せず、結婚せず、飲食物も回教徒の店でないと食はないし、宿屋も別である。回教徒は豚は穢れて居ると云ふので食はない。羊か牛肉を食べる。清潔好きでよく入浴する。彼等は團結が非常に鞏固で勇敢であり、漢族を嫌ふが、漢族も亦彼等

を回子カイズと呼んで輕蔑するので、互に反目が續いて吏治は容易に圓滑に參らない。赤色ルートの發展と關聯して、今後其の動向は大に注目される。交通上からは古來天山南北兩路の起點であるが、蘇聯と結ぶ赤色ルートの特別なるを除けば、省内は急峻羊腸の峠路が多くして交通は一般に頗る不便である。

萬里長城は省の北境を川を渡り谷を傳ひ、山また山を越えて蘭州から甘州を過ぎ、嘉峪關を経て安西の東方に至るまで約一千餘軒の間、蜿蜒たる雄姿を横たへて居るが、沙漠遠からず、朔風望樓に悲泣して往時を偲ばしめ、寂寞荒廢せる其の様相は頗る遊子の情を傷ましめると云ふ。

**【蘭州】** 省治の中心にして人口十萬、過半は西域より東漸したる回教民族である。西域交通の要路に當り、唐朝の外防節度使が駐劄したる以來、歷朝常に大官を派遣して諸蕃の侵入に備へたる要衝で、往昔天山街道を経て西域文化が横溢したるだけに、邊境蠻界に近き地にも拘らず、今も文化の發達比較的見るべきものあり、城内には羅紗工場、マッチ製造所等さえ建てられて、大煙突からは盛んに黒煙が流れてゐる。

**【甘州】** 漢の武帝が匈奴を撃つて創めたる城市にして、人口十五萬、商業盛んに行はれ、農産物の外羊毛・羊皮・藥材等の集散が多い。

**【秦州】** 省の東南部、渭水によつて西安に出で、漢江を利用して揚子江に出づべき水運の便ある爲めに、昔から商業都市として發達し、殊に長安・洛陽が帝都として繁榮したる頃は、西域貿易商の根據地として、西洋文化の多くは秦州を介して支那に輸入されたと云はれる。

**【燉煌】** 此の地方は古へ高昌園と呼ばれたウイグル文化の中心地で、往昔は西方文明東傳の門戸として燦然たる文化を



誇りたる所である。今は僅に沙漠中の一オアシスに過ぎず、文化の見るべきものもないが、南方三危山麓の仙佛洞は山西省雲崗の石窟寺と同じく、壯麗なる佛像彫鑿の洞窟が存し、英のスタイン、佛のペリオ、我國の大谷光瑞師等によつて附近から發掘された宗教、美術、工藝、文學上の珍品は「燉煌の出土品」として世に知られて居る。

**【嘉峪關】**

西域に通ずる官路に沿へる關城にして、萬里長城は其の西端が略ぼ此の城を繞つて起り、形勢險要、天下第一の雄關として聞え、明朝時代には關を設けて兵を置き、以て西域に對する防衛として嚴重に固めたが、今は城内民戸僅に三、四十に過ぎず、朔風落莫たる荒廢の一寒村として捨てられて居る。

**(2) 中部支那**

主として揚子江の流域に屬し江蘇、安徽、浙江、江西、湖北、湖南、四川、貴州、雲南、西康の十省に分たれる。揚子江は灌域實に一七五萬方籽、豐饒肥沃なる支那平野を作るので農産物が多く、又域内には鐵・石炭の埋藏豊かにして工業が諸所に起り、且つ江水は洋々として二五〇〇籽の上流迄水運の便があるので、江岸には商業が盛んに行はれ、支那の富の大半と人口の大半とは此の地方に集まり、人口五〇萬以上の大都市だけでも九市の多き上る。

住民も北方人が素朴で保守的であるに對して、中支那から以南の支那人は懶巧で新奇を好む。北方人は體格が優れて力が強いから、古來北方の強と呼ばれ、武力では常に南方を制して來たが、頭の戰爭になると南方人が遙に優れて居るので、往年の國民革命では北方人は完全に打ちのめされた。體格がよくて忍耐力は強いが應用の才に缺けて居る北方人は、苦力の様な簡単な體力勞働者としては逃向きで、盛んに南方

でも重寶がられるが、之に反して頭腦の働きを必要とする技術的な職工は南方人に限るとして、北方でも其の方面には多く南方人が使はれて居ると云ふ。

食物も北方が主として畑地農法で、高粱や玉蜀黍・粟等を常食とするに對して、揚子江流域は氣候も暖く、空氣は濕潤で一般に水田が多い關係から大抵は米食である。家屋も北支那は乾燥地で土製の家が多く、家の周圍には土塀があり、數十戸集團して土壁を繞らし、警戒頗る嚴重であるのに反して、中支那では家も藁葺が多く、然も開放的で集團せず、日本の田舎を見る様に三々伍々と散在して居る。

**【江蘇省】**

古への吳の國にして、揚子江の下流に位し、江流が年々吐き出す泥土で段々と海中に延びた所だけに、土地は肥沃にして物産豊かに、交通至便にして工業盛んに、人口の密度は一方籽約三〇〇人を超えて、支那全土中最高と稱せられ、上海、南京、蘇州の三大都市を擁して、特に昭和三年舊國民政府の南京奠都以後は京津地方の殷賑を奪ひ、現代支那の政治、經濟、文化一切の中心地として、支那で發行される地理書は總て江蘇省から開卷される繁榮限りを示して居る。揚子江によつて南北の二部に分れ、特に江南は米・棉・蠶絲の本場として、其の富は天下に冠たるものあり、太湖を始め湖沼多く、溝渠縱横に通ずる水運の便開け、田園の間を往復する帆船の姿、河に面して建ち並ぶ白壁の家、兩岸を連ねて架せられたる眼鏡型の石橋、誠に繪の如き水郷の美を現はして居るが、之れに反して北の地方は稍落莫の感を免れず、土地瘠



せ民貧しく、富も文化も遙に劣つて居る。

【上海】 郵船の連絡船に乗つて長崎を正午頃に出發すると、翌日の晝頃には船は土砂で濁つた黄波を蹶つて揚子江を溯り、渺茫恰も海の如き壯觀に見とれて居る間に、吳淞から折れて支流の黄浦江を溯る事少時にして、午後の三時頃には上海の埠頭につく。一八四二年阿片戦争の後始末として、南京條約の五港の一として開港された頃は、一面泥ばかりの落莫たる平地に過ぎなかつたが、幾多の優越せる地理的關係から急激に發達して、今では人口約三百萬(租界一三〇方、支那街一七〇萬)、在留外人の數は約五萬三千にして、其の國籍は實に三十餘ヶ國に亘ると云ふ、東洋無比の大國際都市が僅々百年の間に出現したのである。

支那第一の大都會にして、政治上、經濟上新興支那の中樞たる事は勿論、支那文化の中心であり、流行の根原である。上海に於ける近代産業の發展は、新興支那の動向を象徴するものである。支那に於ける列國の發展は、上海を根據地として行はれる。嘗つて、南京政府がよく中央集權の實を進め得たのは、支那の各地を制するに足る中心勢力として、大上海の財源を擁したるが爲めで、若し此の大中心が無かりしならば、支那の政治形態はもつと分立的なものとなつたに違ひないと云はれる。世界のあらゆる人種の渦巻く所、享樂の巷、罪惡の坩堝、東洋の掃き溜と呼ばれるところ、十二、三階の大夏高樓が建並ぶと共に、汚穢の支那家屋が櫛比して、近代文明の強烈なる色彩と、昔ながらの原始色とが混合錯雜するところ、誠に上海の發展は地上怪奇な出現として注目されて居るが、それにしても百年前の田舎町上海が、今日世界

の大都としての此の驚くべき發達は、果して何に基づいて然るのであらうか。

【位置の優越】 上海は支那東海岸の略ぼ中央、支那の大動脈と呼ばれる揚子江の出口に位し、豐饒肥沃なる長江の流域を背景とする。揚子江は流程洋々五二〇〇軒に亘り、其の流域には支那四億の人口の半ばと、支那の富の大部分を集めて居る。支那の米も棉花も生絲も、其の大部分は此處から産出するし、鐵・アンチモニー等の鑛産物も産量頗る豊かで、産業盛んにして人口稠密に、民富み家榮えて購買力の大なること他に比肩する所がない。上海の大は實に之に哺くまれたる所が多いのである。

更に上海は又揚子江の出口に位して江洋兩船の連絡點に當るので、内河航路は勿論、南北沿岸航路の起點、歐米遠洋航路の根據地として、出入船舶は頗る多く、毎年支那の各港出入船舶總噸數の約三五%を占め、廣東の一三・八%、汕頭の九%、青島七・五%、厦門の五%、天津の四・五%を遙に凌駕して追隨を許さない。上海今日の大をなすに至つた要因亦此處にある。

【租界の發展】 上海の市街は外國租界と支那街の二部より成り、租界は更に共同租界とフランス租界の二大部に分れて、之が現今大上海の中心街區を形成する。行政は共同租界には工部局(市役所)があつて、國籍の如何を問はず、在住外國人有權者の選出せる市參事會員を以て組織せる、市參事會が議決機關となり、執行機關は工部局の理事が之に當り、又司法は各國の領事裁判に委ねられる。租界人口の大部分は支那人であり、租税も支那人が大半を納めて居るから、近年支那人の發言權は段々増して來て、次第に租界の行政にも參與する様になつて來た事は頗る注目し得る。

尙ほフランス租界にも工部局があつて、其の行政組織は共同租界と大差ないが、專管租界だけに領事の權限が頗る大で、行政・司法共にフランス領事が管轄して居る。街の巷には共同租界では大きな印度巡查、フランス租界では安南巡查が立つて警備に當つて居るが、兵亂の勃發、土匪の蜂起、乃至は不斷の強盜沙汰やらで、誠に物騒極まる上海の警備



を双肩に擔つて、辻々を固めて居る其の物々しい姿は頗る奇異の觀がある。

次に支那街は國民政府に於て上海特別市を設け、中央政府に直屬せしめて行政を行はせて居るが、市政府の行政權は勿論外國租界に迄は及ばない。斯くて上海の中樞は全く外國人の手によつて、其の治安秩序が維持されて居るのである。凡そ近代都市繁榮の爲めには、生命財産の安全確保が何よりも必要であるが、上海は支那の土地でも外人の手によつて、其の安全が保證されて居るから、住民は軍閥の苛斂誅求からも免れるし、又共產黨の破壊や擾亂からも脱れ、戦亂も波及することがない。そこで上海は支那人にとつては好箇の避難場として、亂を避けて租界に入り込むものが續々相踵ぎ、一亂毎に人口を増加し繁榮を加へ、獨立性を強化して遂に今日の大をなすに至つたのである。

【新興工業の中心】 上海は支那新興工業の中心地で、綿工業では紡績の鍾數は全國の約五割、織機は全國の六割強を占め、又生絲工場では廣東と相並んで支那の二大産地であり、其他製粉、製油、煙草工場、電氣工業でも全國で絶對的優越の地位に居り、又近年は製糖、製紙等の諸工業も盛んに勃興しつゝある。

元來上海は支那で最も豊沃な長江下流平野の中心に位して、棉花、繭を始めとして、各種の農産物の生産が頗る豊かで、工業原料に恵まれて居る上に、交通の要路に當るので石炭の供給を仰ぐことが甚だ便利であり、又三百萬からの大人口を擁して居ることは、一方では製品の一大需要地であると共に、他面には勞銀の安い勞働者を得るに頗る好都合である。北支那地方では女が單獨に家庭を離れる事を嫌ふ習慣があるから、女工の供給も主に工場の附近に限られるが、上海附近では遠方から女工が單獨に來て、寄宿舎に收容し得られるから、紡績とか製絲の様な多く女工を使用する工場には誠に都合がよい。

更に上海は外人の保護下にあつて、生命財産の安全が保證され、營業居住の安固が確保されて居るので、支那各地の富豪が生命財産の安全を求めて移住するものが多く、然も安んじて投資することが出来るので、支那の工業で最も困難

とする資金を得るに便利であるし、又江蘇、浙江、安徽の三省だけでも一億近い人口を持つて居るのであるから、販路も廣く購買力も大である。斯くて工業のあらゆる部門を網羅したる全支第一の大工業地上海を現出したのであるが、此處に特に注目すべき事は、之等の工業は多く外國人の經營若しくは其の資本下にあるもので、支那人經營のものは尙ほ概ね手工業の域を脱せず、此處にも半植民地支那の姿がまぎ／＼と見出されることである。されば支那の新興政府に課せられた至難な問題の一つは、上海を中心としたる斯うした外國資本の桎梏から、支那の近代工業の未發達を救ふことである。

【盛んなる貿易】 揚子江が支那本部の腹心を經過する一大動脈とすれば、上海は正に此の榮養の源であり、其の咽喉を扼する心臟である。從來列國の對支方針は、盛んに開港場を開き、航路を伸して内地に進出し、支那人との經濟接觸面を大きくして販路の擴大を計つたが、近年は支那の戦亂と、土匪、共產軍の跋扈に手を焼いて、次第に奥地から撤退して上海中心主義を採る様になつた。斯くて貿易上に於ける上海の地位は愈々重要性を増し、其の貿易額は生絲、豆粕、牛皮、棉花、銅、鐵等の原料品を主とする輸出に於ては全支貿易額の約五〇%、綿絲、砂糖、綿製品、石油、木材、機械等主とする輸入は約五五%に上り、出入貨物の集散繁劇を極めて、上海貿易の消長は、直に全支貿易の隆替を表示する程の盛況を示す様になつた。尙ほ上海貿易の對手國としては、英、米、日、獨、佛等の諸國が入り亂れて、國際的色彩は頗る濃厚であるが、之等列國の上海貿易に現はれたる勢力の消長は、之が畢竟揚子江流域一帯に於ける列國の經濟勢力の隆替を示すもので、頗る注目すべきものである。

市街は支那街は街巷狹隘且不潔なれども、租界は道幅も廣く且清潔で、歐風の大建築が軒を並べ、さながら歐米の都市に遊ぶの概あり、殊に南京路、四馬路等は車馬及び來往の人が雜鬧して、眞に肩摩穀擊の



光景を示して居る。内外諸官廳の外に學校も多く、我が東亞同文書院を始め、支那人並びに外國人經營の幾多の大學や専門學校が、市内及び近郊に散布して、上海はまた支那に於ける文化の一大中心たるの觀あり、嘗つて今次事變の初め頃、屍山血河の激戦を展開したる近郊一帯も、今は颶風一過、輝く日章旗に護られて舊に倍する發展振りを示して居る。

【蘇州】 古名を姑蘇と云ひ、昔越王勾踐と吳王夫差が、輸贏を決したる吳の都城の地である。人口五〇萬、古來「上有天堂、下有蘇杭」と云はれ、杭州と並び稱せられたる樂天地で、風光明媚、氣候溫良物、産豊富、風俗醇雅を以て知られ、遊覽の客が常に絶えない。

京滬鐵道及び大運河に沿ひ、上海に通ずる蘇州河も此の地に會して、水陸交通上の要衝に當り、又市街は巨大なる城壁を繞らして、城外にも繁華な街衢が續く。我が國の租界は日清戦後の下關條約によつて獲得したるもので、約一〇萬坪の廣さあり、領事館も設けられて居るが、居留民が少くて經營行はれず、殆んど田園の觀を呈して居る。商業は主として國內取引で、近年上海に商圏を奪はれて振はないが、古來家内工藝は大に見るべきものあり、絹織物、刺繡、寶石、金銀、象牙等の細工品は名産として知られ、支那有數の藝術都市として名が高い。

【寒山寺】 唐の張繼の「姑蘇城外寒山寺、夜半鐘聲到客船」で名高い寒山寺は、蘇州の西方約六料の地にある。寺は唐代の創建にかゝる古刹で、曾つては檀林の一偉觀たりしものであるが、今は寺域荒廢して山門と小庵を残すのみ、さ

したる趣もなく、僅に瓦や礎石が磊々と散在して、遠き昔を偲ばせるだけである。

【無錫】 大運河の要津にして太湖に近く、人口二〇萬、支那有數の工業地で生絲、紡績、織布、製粉等の大工場あり、又附近に生産する米、麥、繭等の集散が頗る盛んで、市街は常に活氣を呈して居る。

【南京】 古への金陵の地で、三國の頃吳の孫權が都して建業と云ひ、降つて明の太祖洪武帝が此處に都を奠めて急に繁榮し、次いで永樂帝が燕京に遷都するに及んで、北京に對して此の地を南京と云ふ。清末長髮賊の兵火に罹つて、さしも榮華の都も荒廢落莫の焦土と化し、高さ一〇米乃至一五米、周圍約四一料の磚壁を繞らした廣漠たる城内は、大部分が田圃と變じて、稻穂穰々たる間を凹凸の田舎道が通ずると云ふ、誠に悲惨極まる状態であつたが、昭和三年中華民國が首府を此の地に奠め、新興支那の政治的中心として經營するに至つての以後は、蔣介石全國統一の牙城として市況急激に活氣を加へ、曾つての荒地には縦横の大路が通じ、素晴らしい西洋式又は支那式の中央官衙が建ち並んで、人口も既に八〇萬を突破し、近代的都市としての更生發展の意氣誠に物凄きものがあり、爾來約十年、太陽は南京を中心として廻るの感に全支那に與へたのである。昭和十二年十二月十三日、忠勇なる皇軍將兵の南京占領によつて、此の抗日に燃ゆる敵都は運命的陷落を遂げたが、次いで昭和十五年三月汪精衛の率ゆる親日新政權が還都を實現するに及んで、南京は再び更生支那の首都として重要性を恢復し、今や新政府の治下に復興目覺しく、殊に邦人の進出するもの日に月に加はり、新生南京は刮目すべき發展を續けつゝある。



政治都市として官衙、兵營等は勿論、各種の男女大學を始め、内外人經營の教育施設も頗る多くして、全支文化の中心たる體裁は日を逐うて整つて行くが、更に産業方面でも、古來南京縐子として知られる縐子・緞子等絹織物の本場であり、又紡績工場の新設されるものも多く、其他陶磁器、蓆、團扇等の工藝品は古くから名あり、貿易も今では全く上海に壓されて振はないが、附近は産物が豊かであり、又交通は直接揚子江に臨むのみならず、津浦鐵道が北岸浦口に達し、京滬鐵道は上海に結び、其他無數の自動車路は此處を中心として四通し、水陸運輸の便亦よく備はるので、新生南京政權の確立と相俟つて、將來の發展は期して俟つべきものがある。

**【南京埠頭下關】**

南京城内の繁榮地を西北に距ること約一三軒、揚子江岸にある下關は所謂南京港で、滬寧鐵路の起點

に當り、對岸の浦口は津浦鐵路の終點にして、遠く天津、濟南等北支から來る貨客の連絡點に當り、水陸交通の中心として各種の取引が盛んに行はれる。市街は洋式の大建築物が建ち並び、人口三萬、其の五分の一は外國人で、支那の大商人も此の地に支店又は出張所を設けるものが多く、誠に名實共に新首都南京の玄關口である。

**【中山陵墓】**

支那國民革命の父と仰がれる孫文の墓は、南京東郊の紫金山上にある。孫文に對する支那一般民衆の尊敬と崇拜とは、死後に於て殊に甚だしきものあり、恰も歷朝の高祖を見るが如くである。陵墓は歷代帝王の墳墓にも比すべく、而も更に現代的の偉容を備へたる堂々たる結構で、丘を削り野を埋めた極めて廣い場所に、淨められた數百段の石級が續き、其の上に大宮殿の如き純支那式の樓門が聳え、其の奥に圓頂ドームがあつて、中に孫文の靈が安置されて居る。威風嚴然、支那人が神か、少くとも完全無缺の大人物として崇拜する、一世の英傑を祀るに誠に相應しい景觀で、

建設の費用は實に五〇〇萬元の巨費を要した大規模のものである。

**【明の孝陵】**

中山陵墓の西にある孝陵は、明の太祖洪武帝と馬皇后を合葬したる山陵で、周圍に磚壁を繞らしたる陵域は極めて廣大であるが、殿堂樓宇は長髮賊の兵火にかゝつて悉く烏有に歸し、荒草の間に瓦礫の磊々たるを見るのみ、參道の兩側に相並ぶ石門、石人、石馬、石象、石駱駝等は、何れも花崗岩造り高さ四、五米に及ぶ巨體で、滿目轉々荒涼の裡に往時の盛觀を偲ばしめる。

**【浙江省】**

山紫水明の形勝地で、翠巒、綠峯は四時彩雲を戴き、天然の江流、大小の湖沼は縦横の運河網と相俟つて、雅趣豊かなる一帯の水郷を作り、桑圃稻田は其の間を綴つて遠く相連る。浙江省の名は南嶺山脈から源を發する浙江（下流は錢塘江）が、河身の曲折著名なる事から生れたものであると云ふ。山も奥地のものとは全く趣を異にして、漫々と湛へて詩味津々、柳は池の面に絲を垂れ、樓閣は水の邊りに建ち連なり、石橋は虹の如く半天にかゝり、水牛は孜々として田畝を耕す。誠に南國情調豊かに、山水自然の美は全支第一と稱せられる。

更に省内は又地味頗る肥沃にして米、小麥、高粱、大豆等の普通農作物を始め、棉花、葉煙草、茶等の特殊農産物、漆、樟腦、竹、木炭、羊、豚等の林、畜産が豊かであり、沿岸には漁業、製鹽等の水産が盛んに、又杭州灣より汕頭に至る所謂閩浙山地には鐵、石炭、マンガンの埋藏が多く、隨つて之を原料とする製粉、精米、醸造、紡績等の諸工業が盛んで、氣候の溫和、交通の利便と相俟つて、浙江省は全國で



も稀な富裕の省である。所謂浙江財閥が蔣政権の全國統一の一翼として、江浙の地に覇を稱へたるも偶然でない。斯くて支那の財界を牛耳れる浙江財閥の本據として、又抗日支那の獨裁官蔣介石の故郷として、曩の國民政府でも其の建設には最も力瘤を入れ、鐵道の敷設、道路の建設等工事を進めて來たので、今日の浙江省は新舊文化を並べて頗る賑やかである。

【杭州】もとの南宋の國都臨安府で、大運河の南端、錢塘江口を距る三二籽の上流に位して、人口三五萬、南は吳山に跨り、西は西湖に臨み、東北は江蘇の大沃野に連つて山川秀麗、名所古蹟多く、古來「上に天堂なり下に蘇杭あり」と其の美を謳歌せられ、今も遊客常に踵を接する勝地である。

市内には巨商大賈多く、絹織物を始めとして綿絲布、扇子、雜貨等の工産、及び茶、米、棉花等の集散盛んにして、又旅舎、茶館等觀光客に對する施設を完備する。下關條約の結果獲得したる日本の專管居留地は、廣さ約一三〇萬坪に上り、日本領事館も置かれて居るが、深刻なる排日の氣勢に壓されて從來から居留邦人は甚だ少なかつた。

【西湖の勝景】杭州市街の西に接して西湖の勝景が展開する。沿岸には丘陵を環らし、湖畔には柳が絲を垂れ、支那式の樓閣は湖邊に連り、湖中には島あり、堤あり、靜かな水の中では年經たる鯉魚が群をなして遊び戯れる。山青く水澄みて景物華麗、往昔獨歩の大詩人白樂天や蘇東坡は船を湖上浮べて杯を擧げ、名詩を賦し、元の寵臣マルコ・ポーロも來り遊んで地域の形勝、宮殿の壯麗、世界に冠たりと嘆賞したるも誠に宜なりと首肯される。十景あり、三十六蹟あり、七十二勝あり、岸の淡靄を破つて牧童の群れが、柔かな姿を次第に現はす春曉の眺め、純白の蓮花が一面に咲き盛つて

高貴の香りを惜しげもなく漾はせる夏の姿、沿岸諸處の古寺名刹から送る晚鐘の響きが、餘韻嫋々として湖を渡つて雲宵に入る秋の趣き、四周峯巒の頂きを眞白く覆へる冬の寂寥、四季折々の眺め總て佳ならざるはなき無比の勝景の地である。

【吳山】杭州の東南隅にある吳山は、春秋時代の吳の南界で、上に吳子胥の祠ある、左は錢塘江を帯び、右は西湖を望んで風光壯美を極める。南宋の始め金主亮が南侵せんとして、畫工を召して吳山の繪を描かしめ、「兵を提ぐ百萬西湖のほとり、馬を立つ吳山第一峯」の名句を題したのは此の山である。

【寧波】唐代既に海港として名高く、宋代には杭州及び廣州（廣東）と共に、支那の三大貿易港の一として知られ、殊に地理上我が國との關係深く、古來遣唐使の往來、唐船の來航等此の地よりせること多く、特に宋代以降は、日支兩國間の交通は殆んど總て此の地と、我が博多との交通であつたと稱して差支へない程である。

南京條約による五開港場の一で、廣東、廈門、福州、上海の四港と共に外國互市場として開放せられ、以て今日に及んだが、上海港の大發展に壓されて、外國貿易は到底昔日隆盛の俤はない。人口二八萬、綿絲布、花蓆、雜貨等の工産物あり、又米、棉花、魚類等の集散盛んにして、殊に魚類は舟山列島附近を主要な漁獲地とするので、其の取引は毎年莫大な額に達する。

尙ほ寧波人は夙に外國人と接觸し、隨つて海外に營商するものも少なからず、今日支那の財界に多大の勢力を有して、世上に浙江財閥の名を喧傳されて居る。



【紹興】 紹興は古への越の國の都で、もとの名を會稽と呼んだ。現存する府城は越王勾踐を助けて、覇業を完成したる忠臣范蠡の築いたものであると稱せられる。人口二〇萬、街衢整然、物産には米穀、酒、棉花、絹織物等あり、富裕な都會である。町を貫いて水路が蜘蛛の巣の様に掘り廻らされて、何處に行くにも運河によらねばならぬと云ふ全くの水の都で、一に江南のヴェニスの名さえある。名高き紹興酒は此の地が原産地で、支那全土に供給せられ、一年の醸造高は一〇〇萬石を越ゆると云ふ。

## 【安徽省】

地勢は(1)淮河の流域、(2)中部地帯、(3)揚子江以南の三大地帯に分れ、耕地廣く農業盛んにして、米、茶、煙草、麥、大豆等の農産物多く、蕪湖の如きは支那第一の米穀市場として名あり、又鐵・石炭の埋藏も多く、殊に江南の桃冲鐵山は鑛量約五千萬噸、鑛務一切を日本人によつて經營され、鑛石は總て日本に送つて製煉されて居た。

全省人口は二千萬を越ゆるも大市街少なくして、十萬以上に達するもの僅に蕪湖が唯一つあるのみ、往年李鴻章、殷祺瑞等幾多文武の英傑を輩出せしめて、其の名を天下に知られたる安徽省も、文化の點ではお隣の江蘇、湖北に比して聊か遜色あるは免れない。

【蕪湖】 安徽唯一の開港場で、米及び茶の輸出港として知られ、人口約一五萬、市街は城内、城外、租界地の三區域に分れ、城内には米商多く繁榮するが、租界は今日尙ほ草茫茫々として、將來の發展を待つ状態である。

である。

【安慶】 安徽省城の所在地にして揚子江の北岸に位し、人口約七萬、長髮賊の兵火に禍されて以來振はず、商業は稍盛んであるが特殊の物産がないので、米・麥等附近の農産物の集散が主で、寧ろ名勝古蹟の存在から古都として知られて居る。

## 【江西省】

周圍に山を繞らし、中央は盆地を形成し、贛江、錦江を始め幾多の河川は、四周から流れて一度は鄱陽湖に湛へ、再び流れて揚子江に合する。氣候温暖、地味肥沃にして物資豊かに、嘗つて東南山岳地帯にある瑞金を本據として、跋扈跳梁を極めたる支那共産軍は、幾度かの討伐に遠く陝西の奥地に逃れ去つたが、之に代れる蔣介石の抗日軍隊は今も隨所に集結して、執拗に敵性を發揮しつつある。交通は水路航運の發達せる上に、鐵道は從來の九江・南昌間、及び萍鄉・湖南間の比較的短距離線に加ふるに、杭州から南昌へ、南昌から長沙への新線が開通して、省内要部の連絡は殆んど成り、開發着々として進んで行くから、將來新政府下に治安の恢復と共に、愈々繁榮發展を見る日があるのであらう。

【九江】 江西省の北端、長江に臨む開港場で、又我が國の投資にかゝる南潯鐵路の起點である。人口約十萬、一八五九年の天津條約によつて、其の翌々年に開港されたが、江西の咽喉を扼する天與の好位置に恵まれて、貿易は年と共に盛んとなり、今や茶、煙草、陶磁器、牛皮、桐油等を主として、貿易額では揚



子江流域第三位の港として、江上には大小の汽船民船が常に輻輳し、租界には各國の領事館、外國商社建ち並んで市況殷盛に、嘗つて長髮賊の兵火に罹つて城内の大半を失ひたるも、今は次第に恢復せんとする勢ひである。

【廬山の勝景】 九江を南に距ること約一七軒、鄱陽湖畔奇峯翠巒の南北に長く相連るもの、是れ即ち名高き廬山の勝地である。山には主峯なく、各峯支出して皆雄を競ひ、然も之等の秀峯を縫つて飛瀑靈石相連なり、名蹟古趾相並んで、「廬山に入つて廬山を見ず」の語さえある程に、全山悉く是れ脱俗の名地であるが、殊に清少納言が「香爐峯の雪は簾を撥けて看る」と穎才を示した香爐峯は、廬山五峯の隨一で我が國人には馴染みが深い。

鄱陽湖上の遠望によく、山中に入つて更によい。されば古來支那の文學者の來り遊ぶもの多く、此の絶景を賞賦したる名詩は少くないが、中にも李白の「日は香爐峯に照つて紫煙を生ず、遙に看る瀑布の長川を挂くるを、飛流直下三千丈、疑ふらくは是れ銀河の九天より落つるか」と。又白樂天の「日高く睡り足つて猶起る慵し、小閣重裘寒きを怕れず、遺愛寺の鐘は枕を敬て、聽き、香爐峯の雪は簾を撥けて看る。」等は、特に日本人にも愛誦されるものである。今日では廬山の一廓は外人の避暑地として開發され、綠樹の間に石屋聖壁の洋館が散布して、劇場、映畫館、ホテル等の文化的施設も整へられ、古典的な此の靈峯が、時代の波に弄ばれ様として居るのは誠に惜しむべきである。尙ほ廬山から西南方へかけて連れる所謂廬山山系の峻嶺は、我が江南部隊が苦戦したる山岳地帯である。

【鄱陽湖】 洞庭湖に次ぐ支那第二の大湖で、南北一三〇軒、東西三七軒、贛江を始め周圍より幾多の河川を收め、冬期減水の時は附近の低地は浮き上つて、美しき青芝地を現出するも、夏期増水の際は一面の泥海と化して宛ら大海の如く、水準は平時に比して九米餘の増加を示す。吐口には湖口の街邑あり、九江を基點とせる汽船は湖上を通じて、南昌其他

の都市との間に航路を營み、ジャンクの往來も頗る多くして水運が至便である。

【南昌】 江西省城の所在地で人口三〇萬、贛江下流の東岸に位し、南潯鐵道の終點で水陸交通の要衝に當るが、更に近年杭州及び萍郷との連絡線も竣工して、其の將來を頗る注目される。嘗つて江西、福建省境に蟠踞した支那共産軍を討伐する爲めに、其の作戰基地に選ばれたる處であり、又蔣介石の國民政府が精神的革新であると云ふ新生活運動の第一聲を擧げた處である。爾來市の内外も非常に清潔となり、市民も規律ある生活を營んで今日に及んで居る。商業盛んで大賈巨商軒を並べ、農産物の外綿絲布、絹織物、木材、陶磁器等の集散が多い。

【景德鎮】 窯業については支那第一の盛地で、明、清時代には民窯の外、帝室御料の陶磁製造所も設けられて、逸品の製出で名が高い。透し焼になつて居る景德鎮焼は日本にも多く來て、廣く好事家に賞翫されて居るが、近年日本其他諸外國から輸入される日用陶磁器に壓せられて、當地の製陶業も大打撃を蒙り、高級工藝品製出の貴き歴史を捨て、次第に俗悪なる實用一邊の製陶に墮ちつゝあることは誠に惜しい。

### 【湖北省】

洞庭大湖の北にあるを以て此の名あり、支那本部の略ぼ中央に位し、且長江の中流にあり、政治上、經濟上、文化上最も重要な中心地區である。地形東西に長く、西、北及び東の三面は山に圍まれ、南方の一面が大平野を形成して、其の間に幾多の湖沼を湛へる。



揚子江の外漢江の巨流が流れて、地味肥え生産豊かに、米、麥、豆、棉花、茶等の農産物多く、古來兩湖稔れば天下足るの語さえあり、又大冶の鐵鑛を始めとして鑛産物の埋藏も少くない。交通は揚子江、漢江の水運は勿論、鐵道も京漢、粵漢の二大幹線が通じ、將來は四川省に通ずる川漢鐵道の豫定もある。省内の人口約二千八百萬、實に一獨立國としても遜色なき大衆を養つて居るのである。

【漢口】 揚子江と漢江との會合點にある開港場で、武昌、漢陽と共に三都鼎立して、所謂武漢の三鎮をなす。人口約八〇萬、三鎮の人口を合すれば優に一三〇萬を超えると云ふ、市街は近年市區改正の進捗に伴れて、洋式の大建築が次第に増加し、各國の居留民も多く、殊に日本人の在留するものは事變前でも二千人を下らず、自治機關たる居留民團の設けあり、小學校も經營されて居た。商工業盛んにして穀物、種子茶、棉花等の農産物、油脂、畜産品、繭、生絲等の集散多く、古來商業上では特に「九省の會」の名さえある。

揚子江は漢口附近でも幅が二籽乃至四籽に達し、上流を見ても下流を見ても常に濁流滔々、水光天に接して全く海の延長の觀がある。夏の増水期には遠洋航路の大船が溯航するし、又冬の減水期でも長江用の三千噸級の汽船が、上海との間に通路するので、外國貿易も頗る盛んにして、上海、天津、青島、廣東と共に支那五大貿易港の一であるが、而も將來奧地諸省の開發と相俟つて、其の前途は愈々多望である。曾つて黄河の流域に支那人が本據を有つて居た頃は、河南省は支那の中原であつたが、漢民族居住の中心が

揚子江流域に移つた今日では、支那の中原も武漢地方に移つたと云はれる。事實南征北伐何れの時にも先づ兵を武漢に進め、此處を根據として覇を天下に争はんとする。随つて武漢は絶えず覇者争奪の的となり、民國革命以後も屢々兵火の災厄に惱まされたが、同時に一方では之が支那本部の心臓たる認識を愈々深くしたのである。

今次の日支事變に於ては、昭和十三年十月蔣介石は皇軍の猛攻に敵し兼ね、愈々武漢放棄の事に決するや、之に放火して焦土戰術に出でた。斯くて全市殆んど廢墟に歸し、支那本部の心臓も鼓動を全く滅失するかに思はれたが、優越せる其の地理的環境は萬難を排除して、皇軍輔翼下に復興の意氣物凄く、日本人の進出亦舊に數倍し、親日新政權の出現と共に此處に確乎不動の地盤を築きつゝある。

【漢陽】 市街は漢江の河口に臨んで人口十五萬、商業も行はれるが寧ろ工業の地で、有名な漢冶萍公司經營の大製鐵所や官立兵工廠の外、繰綿、製油等の大工場が少くない。對岸の武昌、漢口と共に地理上極めて樞要の地點に位し、此の地の得喪は揚子江の死命を制すると否とに關するので、古來用兵上必争の地として知られ、兵火の禍を蒙りたることが少くない。

漢水の岸に峙てる大別山に禹王廟あり、此の山は武昌の蛇山に連つて居たのを、禹王が切つて揚子江を開いたと云ふ傳説がある。山腹の晴川閣は武昌の黃鶴樓と相對し、景勝の眺望を擅にしたる所で、事變前には要塞地帯として三鎮の護りを固くして居たのである。



【武昌】 湖北省の省城の所在地で人口四〇萬、古來長江上下の要害にして、又南北支那を連ねる要衝に當る爲めに、既に隋、唐の昔から其の名あり、今も城郭は巨大宏壯、其の内外に亘つて繁華な市街が開けて居る。紡績、織布、製紙、製麻等の工場あり、商業も行はれるが何れも漢口に壓せられて振はず、寧ろ官衙、兵營、學校の所在地として消費の街である。

明治四十四年十月排滿興漢を叫んで支那革命の旗は、武昌城頭高く翻り、北伐南退幾變轉、遂に大業を成就して中華民國今日の基をなしたる事は、今尙ほ人の記憶に新たなる處である。

【赤壁】 三國時代に劉備、孫權の聯合軍と、曹操の軍が會戦したる古戦場の赤壁は、武漢の上流湖南に近き所にあり、又壬戌の秋蘇東坡が客と舟を浮べて遊んだ赤壁は、漢口の下流黃州城の東にある。東坡の赤壁は今は江岸から少し離れて赤土の斷崖があり、碑石樓閣等多少の記念物が残つて居るが、風景に至つては云ふに足らず、寧ろ「赤壁の賦」の文章の方が遙に流麗である。

【沙市】 日清戦後の下關條約に基づき、日本政府の要求によつて開かれた港で、長江の北岸、漢口、宜昌の中間に位し、既に唐、宋の頃から軍事上の要地として、繁華な市街の開けて居た所である。人口約一〇萬、米穀、棉花、茶種、織物類等の取引多く、四川貿易の要地として榮えて居たが、宜昌の開港以來其の連絡を斷たれて振はない。我が國は領事館を設け、市街の東方には專管居留地を有するも、經營全く行はれず、僅少な在留日本人も租界内に住まずして、租界は全く貧民窟として放任され、恥を外國に曝らして居るのは頗る残念である。

【宜昌】 揚子江口を距る約一六〇〇浬の上流宜昌迄は、平時には五〇〇噸、増水期には一五〇〇噸位な長江用の汽船が溯航する。随つて宜昌は長江汽船航路の終點として、富源四川の門戸に當り、上流の重慶其の他に輸出入する貨物は總

て此の地で汽船から民船に轉載されて、之から三峡の險灘を溯る。即ち四川への仲繼貿易港として、支那民船の碇泊場轉ずるもの常に數千を下らず、各國の領事館、商館等も設置されて、新らしい港であるが商況は頗る活潑である。

### 【湖南省】

南部には南嶺山脈が東西の方向に走り、幾多の支脈は之より分出して省内に延び、北部には大平野が展開して洞庭湖が其の間に湛へ、湘江、資江、沅江の三大河川の水を容れて支那第一の米産地を作つて居る。氣候溫暖、地味肥沃にして、物産は年産一億石と稱する米を大宗とし、穀類、茶、麻類等が之に次ぎ、又鑛産物は新化を中心とするアンチモニーの採掘精鍊が支那隨一であり、鉛・銅・水銀等の産出も多く、殊に石炭は未だ殆んど開採されて居ないが、其の埋藏量は無盡であると云ふ。隣省の江西と共に支那富省の一であるが、其の位置が南北争鬭の衝に當り、民國革命以來長く續いた支那南北の争鬭に於て、北方派は武漢を根據に、先づ湖南を略して廣東に入らんとし、南方派は先づ湖南を手に入れて武漢に進出せんとし、長い間兵火の巷となつて苦しめられたので、住民は性情稍々保守的で、特に排外の傾きが頗る濃厚である。尙ほ古來本省からは軍人、學者、政治家等の輩出せるもの多く、就中曾國藩、黃興等は其の代表的なるものであり、又今日蔣介石中央軍の六割乃至八割迄は、本省の出身者であると云ふ。

【長沙】 湖南省の省城の所在地で人口約三〇萬、日清戦後の下關條約の結果開かれた港で、日英米の居留民もあり、之等諸國の領事館も設けられて居る。市街は鐵壁の名ある堅牢の城壁を環らし、官衙、兵營、



學校の所在地として政治及び教育上はもとより、粵漢鐵道及び湘江汽船の往來が頻繁で、商工業上でも湖南隨一の中心をなし、燐寸、製茶、麻布、桐油等の諸工場が南門外に櫛比して居る。

**【洞庭湖】**

支那第一の大湖で、洋々たる湖面を中心としたる瀟湘八景の景趣は、古來弘く世に喧傳される。洞庭湖は又江西の鄱陽湖や湖北にある幾多の湖沼と共に、揚子江の増水に對して貴重な役割を勤めて居る。

元來日本の様な小さい河だと水源地に森林を設けたり、下流の水吐きを良くしさえすれば、洪水氾濫の災害を防ぎ得られるし、又よし洪水となつても一、二日の間だけで、雨が止めば忽ち減水する。所が揚子江や黄河の様な大河になると、なか／＼そんなものではない。雨が少々降つた位では大勢に影響なく、水の増減は季節によつて行はれ、冬は減水し夏は増水する。即ち春暖の頃から奥地の雪が融けて流れ出すので、水嵩は次第に増して、夏の増水期と冬の減水期とは、水深に三、四〇尺も違ひが出来る。此の大量の増水が傾斜を下つて流れ出すので、平地に出た所では毎年定期的に氾濫がある。洞庭湖や鄱陽湖其他幾多の湖沼は、此の増水に對する貯水池として、極めて大切な役目を勤めて居るのであつて、古來黄河が絶えず氾濫を繰返へして居るにも關はらず、揚子江下流の沃野が洪水の害から免れて來たのは、實に此の貯水池の存在する爲めである。

殊に支那第一の大湖洞庭湖の如きは、冬の減水期には水涸れて湖中に陸地が現はれ、水の深い所だけが残つて小舟の通路となり、湖も洞庭、赤沙、青草の三湖に分離して、一帯に漠々たる廣野を露出するが、夏の増水期には滿々たる水を湛え、渺茫涯しなき大湖となり、全く形象を一變する。尙ほ湖の沿岸には、洞庭の眺望天下に冠たる岳陽樓で名高き岳州、米の集散地で且昔屈原が投死したる汨羅で知られる湘陰等の名邑がある。

**【武陵桃源の郷】**

洞庭湖の西岸、沅江の吐口に近き常德は古への武陵で、其の西南十餘里の地にある桃源と共に、古來

支那人の理想郷として詩文に名高き地方である。常德は人口五萬、桃源は二萬の小邑に過ぎないが、共に湖南西部の溪間を灌溉して下る沅江の流域にあり、良質の米産極めて豊かなる廣野、白帆悠悠として泛ぶ大江、景趣鮮かなる溪流、翠綠美しき山地等隨所に展開して、風物何となく悠揚、眞に平和樂天の別天地の觀をなし、今も名勝古蹟が甚だ多い。

**【四川省】**

昔諸葛孔明が劉備を助けて天下三分の計を樹て、大國の魏・吳と鼎立して覇を天下に稱へたる巴蜀の地で、廣さは日本全土から朝鮮を除いたものより稍大きく、人口亦五千萬と稱せられ、省内無盡の富源と相俟つて宛然一大獨立國の觀がある。

地勢は山脈四周して中央に廣大なる盆地を形成し、其の間を揚子江の巨流が岷江、沱江、嘉陵江等の支流を收めて東に向ひ、三峽の險灘を過ぎて湖北に下る。氣候は稍大陸性を示し、夏は炎熱殊に劇しいが、大小到る處の肥沃な盆地は豊富なる水流に灌溉されて、天産頗る豊かにして古來「天府」の稱あり、農産物には米、麥、豆、茶、阿片の産出多く、養蠶は支那全土中江・浙二省に次ぐ盛地であり、又畜産には牛・馬・羊・豚、林産には松、杉、柏、竹材等多く、殊に竹材は省民生活の必需品として用途廣く、年々省外に移出される額も少くない。工業は家庭工業の域を脱しないが、製絲業は如何なる山間僻地にも行はれて、生絲の産額は全支隨一と稱せられ、又位置が山奥なるにも拘らず鹽に恵まれて、自流井の井鹽は年産額五億斤を下らず、全省内に供給して尙ほ餘りあり、其他金、銅、鐵、石炭、石油等の礦産物は今日尙ほ



開發の手が着いてないが、其の埋藏量は無盡藏と傳へられる。斯くて四川省の富源は、五千餘萬の大衆を養つて綽々なる餘裕を示し、經濟的にも優に獨立し得る實力を有つて居るのである。

土地は天險、人は慄悍、資源豊かな四川省は、昔から「天下に先つて亂れ、天下に後れて治まる」と云はれた程に、群雄割據の爭亂地で、民國革命以後も混亂支那の縮圖の如く、爭鬪排擊絶ゆる時なく、住民は軍閥の苛斂誅求に苦しみ、土匪の横行掠奪に惱まされ、共產軍の侵入跋扈に手を焼いて居たのであるが、國民政府の基礎が確立すると共に、蔣介石の「開發西北」の理想が着々實現して、群雄は閉息する。共產軍は驅逐される。土匪は影を潜める。次第に其の勢力下に治安が維持されて來た。斯くて四川を其の手に收めた蔣介石は、事變前から南京・上海の第一根據、武漢の第二根據に對して、四川を以て第三根據たらしめる計畫を樹て、産業をすゝめ交通を開き、最後の牙城として、獨立して十分抵抗出来るだけの開發を期して進んで來たが、結果は正に豫期の如く、南京陥り武漢潰えたるの以後は重慶の奥地に遁入し、内は四周の天嶮と土地の豐饒性に、又外は英、米、佛、ソ聯諸國の援助輸血に依頼し、我が陸海荒鷲數十次の猛爆に堪えて、今日尙ほ執拗なる抵抗を續けて居るのである。

【重慶】 嘉陵江と揚子江の合流點に當り、市街は半島狀をなして、江上に突出する斷崖の上に建設されて居る。人口五五萬、四川唯一の開港場で、上海を距ること約二一〇〇浬の奥地に位するも、小蒸汽船は三峽の險を突破して此の地に迄溯航するので、生絲、藥材、牛羊皮、豚毛、麻布等の百貨は省内はもとより

遠く西康、雲・貴の各地からも輻輳して、取引は頗る盛んである。事變前は在留邦人百餘名、日本領事館及び租界も設けられて居たが、經營殆んど見るべきものなく、租界の大部分は雜草に覆はれて寂莫を極めて居た。昭和十三年十月武漢を追はれた蔣介石が、此の地に遁れて最後の抗日政府を樹立するや、爾來、我が陸海荒鷲の猛爆を蒙ること幾十度、市街は大半廢墟に歸し、市民は恐怖と窮乏の斷末魔に喘いで居る。

【三峽の險】 揚子江を溯ること約一七〇〇浬、湖北から四川に入る所に三峽の險がある。峽とは江岸近く相迫つて水流を沮む意で、宜昌を過ぎて所謂三峽の險に入れば、巫山、風箱、瞿塘の諸峽を始めとして、大小幾多の峽あり、千仞の絶壁が兩岸に相迫り、江流之に激して急湍となり、或は奔騰して瀧津瀨となり、岩を嚙む奔流の唸りは絶壁に木魂して物凄叫びを擧げて居る。誠に揚子江航路の魔の淵で、一度舟行を誤れば、忽ち岩礁に觸れて舟は微塵に碎け去る。古來此の險を過ぎんとして難船の厄に遭つた舟筏は、幾十萬なるを知らず、幾百萬の生靈が江底の鬼と化して、永き恨みを此處に止めて居るのであつて、今日でも一年に一千人の溺死者を見ると云ふ。

下航は水流矢の如く、「千里の江陵一日にして下る」の語の通りであるが、溯航は之に反して容易でない。老練な水先に經驗の豊かな船長が配せられ、汽船には鐵板が張り廻されて居る。民船は帆を揚げて風力を利用する外に、豫め陸上に待機する數十名の曳子の力を借りる。汽船でも夏の増水期には、曳子の力を借りることが屢々であるが、彼等曳子共は難所にさしかゝると故意に力を抜いて、約束の賃銀の外に更に酒錢を強要し、其の多寡によつて速度を加減する所、利にさとい支那人根性の丸出しに驚かされると云ふ。

【成都】 四川省の省域の所在地で人口八〇萬、西部支那第一の大都である。肥沃なる成都盆地の中央に位し、水陸交通の要衝に當るので穀物、生絲、絹織物、皮革、油類等の集散多く、又西藏、甘肅、陝西方面



とも取引が盛んに行はれるので、商業は頗る殷盛に、特に名産の絹織物は古來蜀江錦として弘く天下に名を得て居る。

市街は高さ九米、厚さ六米餘の堅牢なる城壁を周圍約一九軒に亘つて繞らし、更に其の外には水濠を備へて、堅城の名を天下に誇る。史上に名高き蜀漢の古都として、劉備と諸葛孔明に關する古蹟は今も甚だ多し。

【峨眉山の靈蹟】 敘州から岷江を溯ること約一五〇軒の右岸にある峨眉山は、普賢菩薩の靈場で、山西の五臺山、浙江の天臺山と共に支那佛蹟中の三大靈場として知られて居る。溪流に沿うて突兀たる巖石の間を攀ぢ登ること約五〇軒、標高三二六〇米の山頂には壯麗なる佛院あり、登山者は此處で宿泊して翌拂曉東天遙に御來光を拜し、佛陀の法悦に隨喜する。山頂の展望は實に壯嚴無比、東の方には悠々たる岷江の清流を隔て、巴蜀の群山を俯瞰し、西は遙に萬古の雪を頂いて聳え立つ大雪山脈の雄峯を仰ぎ、景觀の雄大なること全く言語に絶する。されば此の靈蹟を訪ね、壯絶なる大自然の風色に接せんとして登攀するものは、獨り支那佛教徒のみならず、近年歐米人等も年と共に増加しつゝある。

【蜀の棧道】 古來一夫關に當れば、萬夫も踰え難き天險として名高き蜀の棧道は、成都から大巴山脈の險を起えて、陝西の漢中に通ずる羊腸たる山徑である。道なき所に道を通じ、懸崖絶壁打連なつて險峻を極め、然も峯巒嵯峨として奇勝絶景に富む。棧道とは山腹の險難を開いて橋梁を架したるものであるが、今日では援蔣輸血の大切な赤色ルートとして、山腹を鑿つて所々に隧道を通じ、難路崎嶇たる昔の面影は殆んど見當らない。人馬の往來も頗る頻繁で、西安から成都に達する同成鐵道は、此の道に沿うて敷設せられる豫定である。

## 【貴州省】

全省の平均高度は一三〇〇米で、全面積の約七〇％は未開の山地と稱せられる。苗嶺山脈が省内を東西に走つて分水嶺となり、北流するものは主に烏江に集つて揚子江に入り、南流するものは廣西に入つて西江に合し、東流するものは沅江となり、湖南に出で、洞庭湖に注ぐ。之等河川の流域には水田が開けて農業が行はれるが、産額は漸く自給し得るの程度に過ぎず、稍著しきものは茶と阿片位である。

埋藏無盡と稱せられる雲貴炭田の豊富な石炭も、蓄積無量と云はれる苗嶺山地の木材も、交通不便の爲めに殆んど手が着けられない。僅に虎・豹・狐・狸或は狼・栗鼠等、野獸の毛皮が重要物産として、山地らしい感じを濃厚にするのみである。

住民は苗族が全人口の半ばを占めて居たが、次第に漢族の爲めに追はれて行く。苗族も太古揚子江畔に居を占めて、漢蒙族と對抗したる頃は頗る慍悍勇猛の種族であつたが、競争に敗れて邊境に逼塞し、敗殘の境遇で幾千年を経過したる今日では、全く意氣銷沈して振はず、僅に其の日暮しの生活に餘喘を保つのみである。之を要するに本省は、省内に一の鐵道もなく、道路は山路崎嶇として交通頗る不便に、人民は貧窮で生活程度甚だ低く、雲南省と共に支那本部中最も未開發の部分である。嘗つては其位置が中支、南支、輿地の三方に關係を有つ事から、各方面の爭奪點となつて居たが、共產軍討伐を機會に蔣介石の手に收められてからは、全く國民政府の統制下に歸し、今では湖南の沅陵、雲南の昆明、四川の重慶に結ぶ三軍用路によつて、物資の輸送が盛んに行はれて居る。



【貴陽】 貴州省城の所在地で人口一〇萬、省の中央部、海拔約千五百米の雲貴高原に位するので、年中寒暑の差少なく、氣候は割合に溫暖であるが、一般に湿度高くして晴雨定まらず、雲霧天を蔽うて晝尙ほ暗く、鬱陶しい天氣の多いのは缺點である。市街は新舊兩城に分れ、共に城内には漢人が多く、苗族は主に城外に住んで貧寒の生活を營む。貴州省の行政中心地で、官衛、學校が多く、又附近の産物としては茶、麻煙草、牛肉、漆等の生産あり、近年完成したる自動車道路によつて、隣接各省に送られる量も少くない。

## 【雲南省】

支那本部の西南邊境の地に位して、西は英領ビルマ、南は佛領印度支那に接す。大雲山脈の南方に位するが故に、雲南の名が起ると云ふ。印度支那山系に屬する大雲山脈は、其の他の諸山脈と共に省の西北から南或は東南に向つて走り、急峻な之等平行山脈の間の山峽には、サルウィン河の上流怒江、メコン河の上流瀾滄江等が、源を遠く西藏或は青海の大高原に發し、急流激湍をなして馳せ下る。兩岸の絶壁一〇〇〇米を超ゆる處少からず、省の東部ソコイ河の上流地方を除いては、殆んど舟楫灌漑の便を見ない。

緯度の上から比較すると雲南省は、我が國の琉球と略ぼ等しく亞熱帯に位するが、高度の關係から氣候はよく緩和されて、大寒大暑なく、唯だ一年乾濕二季に分れて、冬は晴天續きで僅に北部の山嶺に皚々たる白雲を見るのみ、夏は之に反して降雨多く、晴天三日と續くことは稀である。山國で平地の極めて少ない關係から、耕地は全面積の約六%に過ぎず、米と茶が主産物で、之に麥、玉蜀黍、蕎麥、豆類等を加へ

て、辛うじて全省約九百萬の住民に自給自足する。

林産も漢人の移住に伴れて、蠻族猛獸の巢窟となる大森林を所謂火田の法を用ひ、悉く焼き拂ふのを常としたので、山嶺多く秃山で、僅に矮小の樹木と雜草を見るのみ、寧ろ雲南の主要財源は高原の各地で行はれる牛、馬、羊の牧畜と、狐、獺、狸、豹、虎等野獸の獵獲、及び個舊の錫鑛、大理の大理石、東川の銅鑛等を主とする鑛産物で、殊に鑛産地としては雲南は古來鑛種の多様、鑛量の豊富支那第一と稱せられ、四川に通ずる道路の沿線の如きは數十日の旅行中、到る處に石炭の露頭を見ると稱せられる。

雲南に入る唯一の交通路は佛領東京のハイフォンから、雲南省城に至る八六一籽の滇越鐵道で、兩地標高の差實に一六〇〇米、之が敷設權を得たる佛國は非常な意氣込みで、山嶽重疊の間、無人瘴癘の地に幾多の犠牲を拂つて敷設したのであるが、運賃が非常に高く、又税關の手續きが頗る面倒であり、而も産業の開けて居ない雲南が對手であるから、從來は大した經濟的價値を發揮する事が出来なかつた。

經濟的に殆んど無價値であつた滇越鐵道が、素晴らしい價値を發揮する様になつたのは今次の日支事變である。武漢の陷落後は唯一の對支武器輸送鐵道として、トンキン灣の海港ハイフォンに山と積まれた援蔣物資は、毎日雲南省城の昆明に向けて直通列車を運轉すること十往復、ビルマから昆明に通ずる滇緬公路と共に、實に全能力を擧げて窮乏瀕死の蔣政權に對し、延命輸血に狂奔したのである。斯くて遂に昭和十五年六月、佛國が帝國政府強硬なる援蔣行爲禁絶の要求を容認する迄の間、潮の如く殺到したる援蔣軍



需品は、昆明でトラックに積み替え、貴陽を経て抗日の敵都重慶に運ばれたのであつて、我が忠勇なる將兵が之等の兵器彈藥によつて、如何ばかり尊き血潮を流したる事であらうか、想へば誠に憤懣に堪えない次第である。

【昆明】 雲南省城の所在地で、滇越鐵道の終點に當る。人口約一五萬、市街は巨大な城郭に圍まれ、其の南門外は商業地域として外人の居住營業するもの多く、商賈軒を並べて股賑を極めて居る。元來官衙、兵營、學校を主とする政治的の都市で、もとは支那本部に對するよりも、交通上から寧ろ佛領印度支那に依存する事多く、本土からは全く孤立状態にあつたが、今次事變以來援蔣輸送路の重要基地として、急激なる連省自動車路の構築と相俟つて、劃期的な發展を見る様になつて來た。尙ほ近年染織、煙草、精米等の工業も次第に勃興し、殊に此の地で製造されるハムは雲南名物として、盛んに香港や廣東地方に輸出されて居る。

【蒙自と騰越】 佛領印度支那に對する第一の關門は蒙自で、英領ビルマに對する關門は騰越である。共に雲南樞要の開市場で、蒙自は附近にある個舊の錫の集散地として知られ、又騰越は印度の雜貨や水産物輸入の門戸として名高く、共に人口は、三、四萬に過ぎないが、前者には佛國の專管居留地があり、又後者にも英國の領事館が設けられて居る。

## 【西康省】

もと川邊特別區域の名を以て呼ばれた地方である。支那と西藏の緩衝地帯として、又近年西藏に對する

英國の勢力が加はると共に、支那政府の西藏制御上の根據地として、清朝の末年西半分は西藏から、東半分は四川省から割いて新に區劃し、川邊特別行政區域として中央政府に直屬せしめたる所である、次いで南京政府の樹立と共に今の名に改められ、支那本部の一省に加へられたのである。

西藏から出た崑崙山脈が恰も五本の指を擡げた様に、西北から東南にかけて蜿蜒連亘する爲めに、全土は平均千五百米乃至三千米の高原地帯をなし、其の間を揚子江の上流たる金沙、鴉礮の兩江、メコン河の上流たる瀾滄江、サルウィン河の上流たる怒江の四大河川が、奔流激湍岩を噛み渦を捲いて南流する。随つて交通も頗る不便で、四川の成都から打箭爐チヤンル、巴塘を経て西藏に通ずる川藏幹線の如きも、三千米以上の高山地帯を経過する處が多く、山間の人跡稀な所では猛獸に襲はれる心配があり、土匪が出没して旅人を苦しむる事少からず、概ね人畜の往來によつて自然に形成せられた山腹道で、殆んど盛夏の候を除いては險惡な天候と稀薄な空氣との爲めに、人馬の歩行も不可能な位であると云ふ。

住民は喇嘛教徒の西藏族を主として、概算三〇〇萬内外と稱せられて居るが、山國の事として農産物少なく、食料としての米、麥、豆等も、衣服の原料としての綿布も、多く他省からの移入に俟つ。山地に多數棲息する虎、豹等野獸の毛皮と、袋角（小さな軟い生え立ての鹿の角）、麝香等の薬用品は支那本部に移出せられ、又溪谷の各所に産出する金、銀、水銀等の鑛産物は、埋藏實に無盡と稱せられ、之が西康の主なる財源であつて、殊に金沙江上流の砂金は古來豐産を以て知られ、附近の土人でも舊家になると金の佛像



を造つて安置するものあり、特に或る富豪の如きは高さ數寸から數尺に達する黄金佛を、總計一千體餘も藏して居ると云ふ。通商は隊商によつて行はれ、茶、織物、食料品、雜貨等を支那や英領印度から輸入し、羊毛其他の畜産品や藥材類と交易する。

【康定】 もとの名を打箭爐と云ひ、本省の東端四川省に近く、人口約二萬、川藏幹路の要地に位する政治並びに商業上の中心地で、住民は漢族が多く、全人口の約六〇%を占め、之に次いで喇嘛教徒の西藏族が多く、市街の風俗は寧ろ西藏風である。川藏幹路も此の地迄は比較的平坦で、成都から徒歩約十四日で達せられるので、四川方面との交易は頗る盛んである。

【巴塘】 康定から西へ、峻峻の山路を進むこと約一ヶ月にして裡塘（理化）の小市場町があり、更に之より約一ヶ月の難行を経て巴塘に達する。省の中央部、金沙江の東岸に位する名邑で人口約三萬、附近は地味肥え氣候割合に溫和に、水田、畑地開けて米、麥、蔬菜、果實等の産出多く、省内第一の農業地で恰も支那江南の趣があると云はれる。

### (3) 南部支那

主として南嶺山脈以南の地域で、福建、廣東、廣西の三省が之に屬する。氣候は亞熱帶圈内に屬して夏季最も長く、殊に五、六月頃の雨季は惡疫の流行を怖れられる。廣さは北及び中支那に較べて最も狭く、人口も約五、六千萬に過ぎないが、古來獨立したる一地域をなし、常に中央政權に對抗して動いて來たのは、峻峻なる南嶺山脈の障壁で中央と隔てられ、之を連絡する何等の陸路交通機關がなく、隨つて南支那に兵を進める事の困難な爲めであつた。近年粵漢鐵道が開通して中支那との連絡がついた上に、南嶺山地

帯に盤踞したる共產軍も掃蕩せられ、更に從來南支の勢圏にありたる貴州・雲南の兩省も中央の手に入つて、次第に包圍される形になつたので、南方の獨立性は日を逐うて失はれ、最近では勃々たる不満を藏しながらも國民政府の統制下に落着いて居る状態であつた。

### 【福建省】

臺灣の對岸に位して我が國との關係が深く、嘗つて清朝時代には我が國の勢力範圍として、日支兩國間に福建不割讓の條約さえ締結されて居た所である。面積は約一一萬方浬で支那の十八省中第三位の小省であるが、それでも我が臺灣の約三倍に當り、又人口は約一千萬で略ぼ之の二倍に近い。地勢は全省殆んど山地に屬し、大體階段狀をなして海岸に向つて低下し、閩江、龍江等の河川が其の間を流れ、流域に肥沃な小平野を開いて東海に注ぐ。海岸は概ね山丘突兀として屈曲參差多く、其の間に三沙灣、閩江河灣、廈門灣等の風光明媚な灣入があり、翠巒綠峯が海波と相映じて、變化の妙、秀麗の氣自ら人を驚かせるものがある。

氣候は概して亞熱帶的で海岸地方は比較的溫和であるが、内地は大陸的で寒暑の差が激しく、動植物にも特異のものが少くない。住民の主生業は農業で、平野に乏しい結果殆んど山巔までも耕耘し、階段狀の田畑を設けて米、麥、黍、豆類、蕃薯等を收穫するが、人口に比して産額が少ない爲めに、年々他省又は南洋方面から輸入する食料品は相當多額に上る。古來茶、竹（製紙の原料）、木材は福建産物の三大品と



稱せられ、今も煙草、苧麻、果實(バナ、柑橘、龍眼、鳳梨)等と共に主要物産として重んぜられるが、其の産額は地勢の関係からもとより大した事はない。

斯くて福建は山國で生活が困難な爲めに、海外に出稼ぎするものが多く、お隣りの廣東省と共に南洋華僑の本場で、現に今日南洋一帯に居住する華僑約六百萬人の大部分は、福建、廣東からの移住者と其の子孫であると云ふ。我が臺灣島民の大部分も亦福建人である。

【福州】福建省城の所在地で閩江下流の左岸に位す。人口約三〇萬、南京條約による五港の一で、市街は巨大なる城壁に圍まれ、城門外から江岸にかけても殷賑なる街區が開け、對岸の丘陵南臺には外國人の共同居留地や、我が國の專管居留地が設けられて、日本領事館、郵便局、臺灣銀行支店等が建てられて居る。福州はまた一面政治的都市たると共に商工業及び貿易上の要地で、貿易上では茶、木材、竹紙等の輸移出、綿製品、雜貨、石油、海産物等の輸移入あり、上海及び臺灣の基隆との間には定期の郵船を通じ、又江上には幾百千の蛋民船が舷々相摩して泊つて居る。

【馬尾】閩江の河口を溯ること四二軒の河岸にある小都會で、海航汽船の終點として、福州行き貨物は主に此處で小蒸汽船に積替へられる。名高き官營の福州船政局や海軍の學校があり、古來支那の海軍を牛耳りたる人材は、多く此地で養成されたものである。

【三都澳】福建省の東北部、三沙灣上の一島に在る開港場で、始め支那政府は専ら茶の輸出港として開港したが、今では煙草、茶油等附近に産する物産の集散地となり、臺灣との間にも盛んに通商が行はれて居る。

【廈門】古くから臺灣海峡に於ける通商航海上の一中心地で、明末鄭成功が此の地に割據して義軍を起し、清朝に抗して烈々の氣を吐いたので知られる。十六世紀以來歐洲との貿易が盛んで、當時は日本人も連りに渡航したるものゝ如く、今も當地には邦人の古墳墓が少くない。阿片戦争には英軍に占領せられ、次いで南京條約の結果開港された五港の一である。

市街は廈門島と鼓浪嶼の兩島から成つて人口約三〇萬、貿易は奥地に資源の乏しい關係から餘り振はないが、南洋各地への出稼移民の出入口として知られ、其の來往数は毎年十萬人内外に達すると云ふ。古來我が臺灣と關係は頗る密接で、臺灣島民の大部分は廈門からの移住民であり、事變前には此の地に在住せる臺灣人は其の數八千人に上り、日本内地の居住者約三百人に對して、別に臺灣公會なるものを組織して居た。日本及び英吉利の租界は廈門島に、又共同租界は鼓浪嶼にあり、氣候溫和にして風光明媚に、殊に鼓浪嶼は南支那の樂土と稱せられ、我が國並びに各國の領事館や、紳商富豪の邸宅が岩石崎嶇たる丘陵上に建てられて居る。

### 【廣東省】

古への所謂嶺南の地で、南嶺山脈から分岐せる幾多の山脈が省内に盤結起伏して居るが、高山としては殆んど特筆すべきものがない。大部分は粵江の流域で、西江、北江、東江の諸川が合流する廣東三角洲は



沃野茫茫、一省の富源は實に此の地域に集められて居る。氣候は熱帶若しくは亞熱帶的で夏が最も長く、自然の動植物にも熱帶的色彩が頗る濃厚である。

産業は農業が主で、米、雜穀、胡麻、甘蔗、煙草、蘭草等の農産物に富み、又養蠶業も頗る盛んで、江浙地方と相並んで支那の二大養蠶地の一に數へられる。氣候の關係から養蠶は一年に八回も行へるし、又耕地も總て三毛作である事は誠に好都合であるが、人口に比較して耕地が狭小な爲めに、米も食糧に不足して、南洋方面からの供給を仰いで居る位である。製造工業は從來此の地方が爭亂常に絶えずして、政況が安定しなかつた上に、工業原料に乏しく又動力たる石炭の産出が少なく、更に住民の生活程度が一般に高くして勞働賃銀が高價であり、且勞働運動が頻發して企業家を苦しむることが少くない等、各種の理由から比較的不振にして、寧ろ工藝的小工業地として捨てられて居た状態であるが、近年英國の南支政策の進展により、其の援助の下に次第に製鋼、製糖、製絲等の工場が設けられて、大に其の將來を期待されて來た。

廣東人は古來位置が南に離れて、中央の威令に服することが少なかつた上に、早くから外人に接して濶達進取の風を學んだので、今も潑刺たる元氣に富み、一方では海外に進出する華僑が非常に多いと同時に、省内にも革新の氣分が満ちて、各種の支那運動の魁をなすことが多い。斷髮短袴、支那モダンガールの尖端を切つて居るのは廣東女であり、勞働運動も婦人解放運動も、廣東に起つて中支那に擴がり、北支那に波及したるものであるし、又孫文の國民革命も此の地を根據として次第に發展し、遂に今日の國民政府の建設となつたのであつて、實に廣東省は支那の革命史上重要な位置を占めて居る。

尙ほ昭和十三年十月十二日の早曉、百數十隻の輸送船隊に満載された我が有力なる陸軍部隊は、海軍部隊と緊密の協力の下に、敵の虚を衝いて突如本省の南海岸バイヤス灣に上陸し、息づく暇もなく躍出して惠州、増城を占領、粵漢鐵道を遮斷し、十月二十一日廣東に入城して、残されたる唯一の海外よりする援蔣大動脈を切斷し、蔣政權を完全に大陸内に封鎖したる南支作戦の大成功は、今も國民の記憶に新たなる處にして、今日省内の要地は概ね皇軍の指導下に治安の維持が保たれて居る。

【廣東】南支那最大の都市で人口約九〇萬、日本では一般に廣東と呼んで居るが、本當の名稱は廣州市である。外國との關係が頗る古く、既に秦、漢時代から外國との通商が行はれ、清朝の海禁當時は支那唯一の外國貿易港として榮え、之が爲めに阿片戦争の如きも此の地から起つた位である。南京條約の結果、他の四港と共に開港されて今日に及んで居るが、外國貿易は香港に壓されて盛んならず、今では上海、天津、青島に次いで支那諸港中第四位である。

市街は珠江に沿うて其の西岸に跨がり、北岸には舊城内と、英佛兩國の租界たる沙面があり、南岸に人家稠密の河南區が開けて居るが、近年市區改正の結果城壁は撤去され、大街小巷は縦横に通じ、主要街路の兩側には洋式の大建築が櫛比し、近代式鋪裝路上には車馬、自動車の往來が頻繁にして、市況頗る殷盛



を極める。殊に英佛の居留地たる沙面は、珠江の淺洲を埋立て、築造したる島地で榕樹鬱蒼として生ひ、綠草柔かく繁茂して、景觀恰も瀟洒たる一小公園の如く、中には主なる外國銀行、商店、會社等が建てられて、廣東貿易の大部分は此處で行はれる。

尙ほ珠江には水上に舟中生活を營む蛋民が甚だ多く、其の數は廣東埠頭だけでも約二〇萬と稱せられ、廣東の一名物として特異なる地方色を示して居る。是等蛋民は一般に明朝の遺民と稱せられるが、廣東人とは骨相も異なり、體軀も概して小さい。水上に生れ、水上に生き、水上に死ぬと云ふ全くの水上生活者で、陸上の人とは交際せず、結婚もしない。渡船や漁業が主生業で、質素勤勉であるが性質は奸怙で争闘を好む癖あり、陸上のものからは賤民として卑しめられる。

廣東は元來新舊文化の錯綜して居る土地柄だけに、市の内外には新古の名勝史蹟も甚だ多いが、就中特に有名なものは革命の烈士を祀れる黃花崗の墳墓である。

【革命烈士の墓】 宣統三年三月二十九日、遽かに起つて兩廣總督の衙門を襲つた革命黨黃興の一派は、兵力が少なかつた爲めに同衙門の衛兵に破られ、爆彈を携へて勇敢に突撃したが、其の甲斐もなく、相前後して壯烈なる最後を遂げた。斯くて志士の雄圖は空しく繪餅に歸したが、之が導火線となつて支那の革命が勃發し、幾變遷して遂に今日の如き支那の國民政府が誕生したのである。革命の魁けとして屍を戰場に曝したるもの七十二、之を收めて葬つたのが黃花崗の墳墓であつて、四近一帶の平野を隔て、遙に帶の如き珠江の流れを下瞰する形勝の地に碑を建て、新式鋪装の美しき參道を設け、傍らには自由の女神を象徴する女人石像を置き、革命烈士の功績を讃へて永く其の幽魂を祀つてゐる。

【廣東の外門黃埔】 廣東から珠江を下航すること約一時間にして達する黃埔は、廣東市の外門にして、要塞が築造せられて、嚴として其の入り口を扼して居る。元來黃埔は名もない一寒村に過ぎないが、蔣介石が我が陸軍の式に倣つて、此の地に士官養成の爲めに軍官學校を創設したので有名となつた。三民主義の注入と、熱烈なる愛國精神の發揚を主眼として、嚴格に教育された黃埔軍官學校の卒業生は、國民革命軍の骨幹となつて北伐に成功し、今では蔣政權中央軍の要路に就き、瀕死の抗日軍隊に鞭つて斷末魔の抵抗を續けて居るのである。尙ほ黃埔は今日では帆船の出入する一小港に過ぎないが、嘗つて國民政府では此の地に大築港を建設して、香港に對抗して其の繁榮を奪はんと計畫をなしたることあり、資金難の爲めに事業遅延しつゝある間に今事變を迎へたのである。

【汕頭】 韓江の河口に位する開港場で人口約一〇萬、商工業が盛んで支那各地との通商は勿論、遠く滿洲、朝鮮、南洋とも取引關係が多く、貿易額も年々増加の傾向にある。厦門と共に南洋に對する移民の出入口で、南洋各地で幅を利かせて居る廣東華僑も、もとは大抵此の港から着のみ着の儘、夜具の包みを肩に、徒手空拳で出掛けられた移民で、爾來苦心努力幾春秋、遂に今日の成功を獲も得たものである。街路は廣潤、歐支折衷の商館が櫛比して市況繁盛に、我が國を始め英、米、獨、佛、諾等諸國の領事館あり、外國人の共同租界も設けられて居る。

【海賊の巢窟】 廣東省の海岸は到る處海賊が横行するが、中にも汕頭と香港の間、及び廣東デルタの地方は最も甚だし。彼等が襲撃するのは單に民船だけでなく、時には堂々たる汽船も其の厄に遭ふことが稀でない。彼等海賊は黨を組織し、船客に化けて船に乗り込み、途中で蜂起して船員を脅迫し、船を彼等の根據地に着けさせて荷物を掠奪するのである。



る。或る時には廣東海軍の軍艦さえ、之等海賊にやられたことがある。狭い河川を航行中兩側から土匪が現はれ、その中に艦内の水兵が之に呼應して軍艦を占領し、其の軍艦で片つ端から商船を掠奪して廻つたのであるから凄まじい。

従來國民政府では警備用の軍艦を新造し、デルタ地方に豫防の爲めに遊弋せしめ、又香港政廳でも同様被害の頻々たる方面には軍艦を派遣して警戒して居るが、何分廣東省の海岸線は、之等海賊の隠れ場所として適當な處が少くないので、英國軍艦も其の根據地をつき止めるに困難で、殆んど奔命に疲れて居る模様であつた。

【香港】 廣東省の東南部にある英吉利の直轄植民地で、香港島其他の諸小島と對岸の九龍半島とより成り、總面積八八〇方呎、人口は支那事變直前の頃は約一〇〇萬で、在留外人は約二萬餘、其中英人は約五千人に過ぎず、在留邦人亦約二千、其他住民の大部分は支那人であつた。

此の地はもと紅香爐山と呼ばれた巖石嵯峨たる一小島で、僅に漁夫の茅屋點在したる一寒村に過ぎなかつたが、阿片戰爭の際英軍が此の島を占領し、次いで翌年南京條約の結果英國に讓渡された。爾來英吉利は或は山を削り、谷を埋め、禿山には樹木を植ゑ、道路を作り、市街を建て、公園を起し、港灣を築き、以て東洋貿易の根據地としたが、次いで其後更に對岸九龍の割讓を受け、又香港防備の必要から九龍半島並びに附近の小島嶼を租借して、以て今日に及んだのである。

香港島は周圍約四三呎、面積八三平方呎の小島で、全島山岳狀を呈して海拔約六〇〇米に及び、島上には平地少なくて耕作に適する部分は稀である。市街はヴィクトリヤと呼ばれて島の西岸に位し、平地乏しき爲めに山腹から山上にかけて屋宇櫛比し、道路も坂道が多く、其の間はケーブルカーによつて相連絡する。海上から市街を望めば、恰も蝶螺を伏せたるが如く、殊に暮色蒼然として到るの頃は、山上と云はず山腹と云はず、百千の灯光恰も倚羅星の如く輝いて、影を水中に映ずる風情誠に美觀極まりない。流石に世界に冠たる富力と、民族的堅忍性を以て誇る英國が、巨額の費用を擲つて經營に努めたる粒々辛苦の程が窺はれる。政務を統理する香港政廳を始めとして、其他行政、司法の諸官廳、各國の領事館等建築の豪華を競ひ、又堅固なる要塞は海面を睨んで不斷の防備を鞏くし、或は東洋艦隊の根據地として、又は英國空軍の根據地として、東洋に於ける英國國防最前線の要鎮となつて居る。

港内は水深く波穏かに、如何なる大船巨舶の繫留にも支障がない。歐亞通商航路の一大中心地として、南北支那沿岸、フィリピン、日本等の諸港に往來する定期船にして此の地に入港せざるものは殆んどなく、大倉庫、船渠、各種の金融機關等港灣としての施設全く備はつて、仲繼貿易港として百貨の動きは頗る活潑である。

斯くて恵まれたる位置と、至れり盡せりの港灣施設に加ふるに、對岸の九龍からは廣東を結ぶ廣九線が開通する。粵漢線の全通が實現する。愈々香港から直ちに武漢に進出して、大英帝國の勢力を更に益々揚子江の中流地方に扶植せんと意氣込んで居た時、偶々勃發したのが日支事變である。バイヤス灣の敵前上陸となり、粵漢線は遮斷される。廣東は占領される。長年手懐けた蔣介石の政權は四川の奥地に遁竄する。而も肝心の英本國は獨逸に叩きつけられる。拮据經營多年に及びたる極東の根據地香港も、皇軍の南



支制歴から今や全く涸渇に瀕せんとする實情である。

**【英國の香港侵略】**

支那人の阿片吸飲の習慣は可なり古く、其の爲めに既に一七二九年著しき弊害を認めて、阿片吸用禁止令が出されて居る。

支那との阿片貿易は一八世紀末から、殆んど英人の獨占する處であつたが、阿片輸入禁止令が勵行せられないのみか、密貿易によつて益々輸入量が増加する現状なるに鑑みて、屢々英船積載の阿片を焼いて嚴重なる禁壓方針を公示し來つた。

一八三九年清朝は湖廣總督林則徐を擧げて欽差大臣とし、廣東に於て阿片輸入禁止令の實施に當らせた。林則徐は世に聞えたる硬骨の士であつたが爲めに、兵を出して英人商館を強制し、其の隱匿する阿片の全部二萬餘函を出さしめ、軍卒に命じて悉く之を焼き、石灰と鹽とを其の灰に混ぜて海中に投せしめた。

林則徐の行爲は支那の領域内で、支那の國法を執行したるもので、些かも非難さるべき筋合のものでないにも拘らず、英國議會は一八四〇年征清の軍費に協賛を與へ、政府は遂に軍隊の派遣を決した。これ即ち阿片戦争で、英國にとつては全く理由なき戦争である。

而も此の戦に英國は連戦常に連勝を博し、一八四二年八月南京條約によつて局を結んだが、憐れ理不盡の戦争に破れたる支那政府は、軍費として二二〇〇萬弗、英商に對する損害賠償として三〇〇萬弗、又阿片賠償として六〇〇萬弗、計二二〇〇萬弗を英國に支拂ひ、同時に、香港の主權を英國に讓渡するの餘儀なきに立到つたのである。

其の後一八六〇年の北京條約によつて、英國は對岸の九龍半島の一部を得、更に一八九九年形式上九十九ヶ年の期限を附したる租借の名によつて、九龍半島及び附近一帯の小島を占領した。斯くて總面積八八〇方籽、人口約一〇〇萬、

世界屈指の海港にして英國海軍の極東に於ける重要據點たる香港は、此の不法侵略の產物として獲得されたのである。

**【澳門】** 香港の西方約六四籽の地點にある葡萄牙の領土で、附近の村落を加へて面積二八平方籽、人口約一五萬、住民の大部分は支那人で、葡萄牙人は約五千人、其他の諸外國人は約六百餘人に過ぎない。

我が後奈良天皇の弘治三年（一五五七年）に、當時廣東海上を剽劫したる海賊の討伐を援助したる報酬として、當該地方官憲が葡萄牙人の居住を許し、之に對して葡萄牙人は年々多額の貢金を支拂つて、明末既に事實上の租借地となつて居たが、次いで一八八七年には修好條約を締結して、遂に之が讓渡を承認せしめたのである。澳門が最も隆盛を極めた時代は、葡萄牙人が此處を根據地として支那・歐羅巴間、及び支那・日本・マニラ間の仲繼貿易に従事したる、一六世紀から一七世紀にかけての間であつて、當時外國貿易は殆んど彼等の獨占する處となり、其の活動亦頗る目覺ましいものであつたが、其後香港の壓迫を受けて昔日の倂を失ひ、今では敗北軍閥の避難地か、海賊の逃避所、成は夏期の避暑地、賭博の公許所として賑ふ位となつた。

市街は長さ約五籽の半島狀をなせる丘陵上に立ち、風光明媚、氣候適良なるも貿易振はず、當地の政廳の如きは賭博稅や、阿片專賣によつて其の財政を維持する状態である。

**【廣州灣租借地】**

雷州半島の頸部東海岸を占めたる佛蘭西の租借地で、面積五〇〇方籽、人口約二〇〇萬、其中佛人は約二五〇人、安南人が約七〇〇人で、残りは全部支那人である。



日清戦後の三國干渉により、我が國を強制して遼東半島を支那に還附せしめたる報酬の一として、一八九九年佛清條約を締結し、佛國は九十九箇年の期限を以て此の地の租借權を獲得し、爾來南支那經營の根據地としたが、其の經營は豫期に反して、物資乏しく産業發達せず、佛蘭西は遂に此の地の將來のさまで有望ならざるを知り、現在では總ての規模を縮小して、唯だ名目のみを維持する状態である。

行政は佛領印度支那總督の監督下にある知事が、首邑西營に駐屯して全般を管轄し、貿易は香港、廣東、澳門、海防等との間に航路を通じ、農産物を主とする取引が行はれるが、其の額は誠に微々たるものである。

【北海】 一八七六年(明治九年)英國と清國との間に結ばれた芝罘協定により、翌年開港場となつた所であるが、雷州半島以西には北海を除けば他に良港なく、北海は海南島の海口と共に支那最南端の開港場として著名である。背後には康州、欽州、靈山等の都邑を控え、地方物資の集散地にして、殊に奥地への自動車路が開通するに及び、ジャンク其他密貿易の巢窟として、武器、彈藥、石油輸入の門戸となり、蔣介石政府への輸血路として重要視されて居た。市街は屋根、壁共に白色に塗られ、白聖の街として名高く、人口約六萬五千、英、獨、佛諸國の領事館、教會、病院、及び英國系學校、倉庫等がある。

### 【廣西省】

南嶺山脈の支脈が省内に延び、其の間を西江の本流が柳江、桂江、鬱江等幾多の支流を収めて東し、廣東省に流下する。西江は廣西から海に通ずる唯一の交通路にして、河口から一三〇〇〇斤の上流迄は、五、六〇〇噸の汽船を通じ、特に増水期には梧州から下流は二〇〇〇噸位な汽船の航行も自由で、山地多くして殆んど路と稱すべきもの、發達を見ざりし本省としては、從來誠に交通上の大動脈として重視されたる處である。

省の南半部は熱帯に位する關係から、氣候は概して炎熱甚だしく、南部の盆地には屢々惡疫の流行することあり、廣さはお隣りの廣東省に匹敵するも、人口は其の三分の一に過ぎず、南方偏陬の地域にあるを以て、その中には苗族、獠族等の蠻夷多く、加ふるに匪賊到る處に横行して、産業の開發見るべきものがない。相俟つて本省は長く南域の貧弱者として捨てられて居たが、民國十八年蔣介石に容れられざりし李宗仁、白崇禧等が此の地に立籠り、連りに政治、教育、軍事等の改革を斷行したる以後は、支那十八省中の模範省として更生したのである。

今次の支那事變に於ては、本省は皇軍の海岸封鎖によつて海口を失へる蔣政權にとつて、其の位置的關係から極めて重要な役割を果す様になつた。即ち粵漢線の遮斷後、第二の香港として發展しつゝあつた佛印の海防から輸入される莫大な援蔣物資は、一度河内に集まり、鐵道で省境の龍州に運ばれ、此處から抗日政府が必死の努力で築造を急ぎつゝあつた、龍州—南寧—柳州—桂林の軍用自動車路で桂林に送られ、更に鐵道湘桂線で粵漢線の要衝湖南の衡州へ、斯くて江南前線の抗日軍隊に配給されて居たのである。

昭和十五年六月皇軍が援蔣輸血路遮斷の作戰の下に、炎熱燒くが如き黄土の惡路を驀進し、頑敵を掃蕩して遂に七月一日龍州を占領する迄の間、此の援蔣ルートの活躍は素晴らしいものがあつたのである。

【廣西の互市場】 西江或は其の支流に沿へる梧州、南寧、龍州の三市は廣西の互市場で、廣東及び香港との間に航路を



通じて、家畜、牛皮、木材、茶等の輸出、石油、燐寸、綿糸・布等の輸入が盛んに行はれる。

梧州は廣西省の咽喉に位して、西江流域の外、桂江の溪谷を通じて湖南省との連絡もあり、人口約七萬、省内最大の五市場として知られ、又南寧は江西省城の所在地で人口約六萬、軍事上並びに經濟上の要地として注目される。龍州は鬱江の上流に位し、佛領トンキンに對する要衝として事變中の活躍は目覺しきものあつたが、皇軍の占領後は全く屏息して振はず、元來が水路は辛うじて民船を通ずるのみ、陸路も軍用自動車路を除けば概ね險惡にして運輸困難に、加ふるに氣候炎熱にして疫癘多く、開市場としては從來、梧州、南寧に較べて遙に劣つてゐた。

## 二、蒙古

【區域と名稱】 東は大興安嶺を以て滿洲國と境し、西はアルタイ山脈を越えて西域支那の新疆に接し、北は西興安嶺及び東、西サヤン山脈を隔て、ソ聯の西比利亞に、南は陰山、<sup>インシヤン</sup>賀蘭の<sup>アラシヤン</sup>兩山脈並びに萬里長城によつて支那本部に連る、面積約三三四萬方呎の廣大なる高原、之が即ち世に謂ふ蒙古の地である。

古來支那では唯だ漠然と朔北、或は韃靼の名を以て呼ばれ、其の蒙古と稱するに至つたのは、成吉思汗を頭首とせる蒙古族の勃興以後の事である。即ち蒙古とは元來朔北在住のモンゴルなる種族の名稱を、支那人が訛り傳へたるものであつて、蓋世の英傑成吉思汗が第十三世紀の初頭、オノン河谷のモンゴル族の部落より起り、近傍の諸部落を手始めに朔北一帯を統一し、其の勢威長城以北に振ふに及んで、從來モンゴル族に屬せなかつた他の種族までが、自らモンゴル族と稱する様になり、次第に之等種族の住む朔北の地をモンゴル(蒙古)と呼ぶ習慣を生じ、次いで大元帝國の出現と共に、成祖忽必烈が大蒙古皇帝と自稱す

るに至つて、蒙古なる名稱は大元帝國の別稱となり、爾來元亡び、明、清二朝を経て今日に及んでも、モンゴル民族の住む朔北の地は、蒙古なる名稱で呼ばれて居るのである。

周邊を海拔二千乃至六千の壘壁で圍まれて、恰も古城の廢墟にも似たる蒙古の大高原は、海拔亦一千乃至二千米、ゴビの大沙漠を始めとして磽确不毛の處多きも、その間また往々にして井泉湧出し、草地展け、遊牧の民が牧草を追うて流浪の生活を營む。氣候は大陸的で寒暑の差劇しく、冬は酷寒骨に徹し、夏は炎熱砂を燬く。冬は大陸の表面が絶えず高氣壓の中心となつて、朔風寒く、東は興安嶺を、南は萬里長城を越えて盛んに砂塵を運び、到る處黄土の厚層を堆積せしめるし、夏は之に反して日射時長く、氣溫高く、低氣壓の中心となつて四周の海洋からの風を集めるが、壘壁山脈の外側に水分を奪はれて空氣乾燥し、漠々たる沙磧を多く發達せしめる。

## 【人口の分布】

蒙古族は今尙ほ原始的遊牧民族の域を脱しない。即ち彼等の生命とする所は、夏は牧草の豊かな水邊に牛羊を追ひ、冬は人及び家畜の蟄居に適する溫暖の地に酷寒を避けて越年する、所謂遊牧生活である。随つて住所は轉々として移り、一定の場所に永住することがないので、正確なる人口數を知ることとはもとより至難の事であるが、大體今日では廣汎な高原地域に散在する全蒙古民族の數を、大約一八〇萬と推定されて居る。



何しろ荒漠たる朔北高原地帯を本據とし、夏は沙漠の炎熱を味はひ、冬は山路に嚴寒を凌ぎ、狩獵と牧畜を主生業として、常に艱苦缺乏に堪えるの試練を経つゝあつた彼等は、悍馬に弓を提げ、槍を操つる技が一國の興廢を決したる世にあつては、誠に慄悍無比の勇者であつたに違ひない。然も彼等は天幕一つを我が家とする轉々遷居の民であり、且つ其の本據たるや、出づるに易く歸るに難い高原の瘦地である。

さればこそ一度有力なる指揮者を得んか、彼等は難なく萬里長城を越えて中原の沃土に侵寇し、飽くなき物慾を趁うて到る處掠奪を恣にする。嘗つて絶世の英傑成吉思汗に率ゐられ、疾風の勢を以て歐亞の天地を席捲し、黃魔襲來の聲に歐人を縮み上らせ、史上無双の大國を建設したる程であるが、然しそれも今は全く昔の夢、星移り物替つてこゝに幾春秋、今日では漢族文化に歪められ、喇嘛教妄信に去勢されて、往年勇氣の佛を滅失し、僅に家畜を伴として、貧窶の間に極めて無氣力の生活を營んで居る。

更に蒙古には、今日では約五〇〇萬からの漢人が移り住んで居る。連年軍閥の誅求に悩まされ、飢饉の天災に傷められた漢人は、新生の天地を蒙古の廣野に求め、萬里長城を逆に南から踰えて、續々として入り込んで来る。彼等は包生活ポウゴの蒙古人の中に割込んで、我が物顔に固定家屋を作り、土地を耕やして粟、燕麥、蔬菜の類を栽培し、之をドシ／＼蒙古人に賣りつける。古來牧畜だけが仕事と考へて、土地を耕すことによつて、穀物の生産することなど夢にも考へた事のない單純な蒙古人であるから、老獯極まりなき漢民族とは、逆も太刀打ちが出来るものでない。斯くて蒙古人は漢人の爲めに、一年平均一哩の割合で、

北へ北へと追詰められて行く現状であると云はれる。

### (1)、蒙疆地域

蒙古は内蒙古と外蒙古とに「大別せられる。内蒙古は漠南の蒙古、即ちゴビの沙漠の南方に位する蒙古で、外蒙古は漠北の蒙古、即ちゴビの沙漠の北方を占めたる蒙古である。

内蒙古は大體從來の察哈爾、綏遠、寧夏三省の地域で、現在の政治組織では察哈爾省の南部は察南自治政府に、又察哈爾北部と綏遠省の全部を合せた地域は蒙古聯盟自治政府に屬し、之に山西省の北部十三縣から成る晋北自治政府の地を合せて蒙疆地區を形成する。もと興安蒙古、熱河蒙古に含まれた三盟二十六旗は、之を東蒙古と稱して内蒙古の一部と見做されたが、今日では滿洲國に屬して除かれる。

元來清朝の對蒙古政策は一面には蒙古族を懐柔して北方よりの脅威を除くと共に、他面には蒙古民族と漢民族との間を離反せしめ、常に滿洲族の味方として漢人に對抗せしめる事であつた。此の爲めに清朝歴代の政府は、喇嘛教の優遇、牧畜の保護、蒙古語の尊重、漢語・漢文使用の嚴禁、漢民族の制限、婚姻政略等によつて、荐りに蒙古民族の懐柔を圖つたが、此の政策は巧みに奏功して、清朝二百九十年の間、蒙古民族は滿洲朝廷の唯一の味方であつた。所が此の友好關係は、清朝が滅んで中華民國が成立すると共に、俄然一變したのである。

即ち國民政府は蒙古地帯を漢人色で塗りつぶす爲めに、着々其の方策を進め、熱河から黄河のオルドス



に至る内蒙古の地に特別行政區域を置き、其の南端を支那本部の諸省に結びつけたが、更に一九二九年には熱河、察哈爾、綏遠、寧夏に省制を布き、内蒙古の地を支那の公定地圖から完全に抹殺し去つた。然し此の無謀極まる支那政府の壓迫を、蒙古民族が承服する筈がない。彼等は豪語して曰はく、「清朝の統括下に入つたのは滿洲族の同盟者として、その漢土征服を助けたのであつて、決して漢人に征服されたことを意味するものではない。即ち蒙古人は漢人と別個の立場にあつて、清朝を主と仰いだのであるから、既に清朝が瓦解した以上、蒙古人は中華民國に参加する理由は毫も存在せぬ」と。斯くて一度は潮の如く押しよせる漢人の強壓に堪えず、奥地へ奥地へと追ひ締められて、殆んど絶望の淵に沈んだ内蒙百萬の蒙古民族も、滿洲帝國の創生を機會に愈々甦生復活の光明を認め、自治を要望し、王道政治を謳歌して強力なる民族運動の機運に進んで居たが、偶々此の際勃發したる日支事變は、皇軍の連戦連勝から南京政權の弱體化となり、此處に絶大なる帝國政府の援助を得て、愈々彼等の上に多年熱望したる大理想實現の好機が到來したのである。

昭和十二年八月二十七日、我が察哈爾作戰軍が長驅進撃して張家口に入城し、頑敵を掃蕩して治安を回復するや、翌九月十日には同市に於て察南自治政府が成立し、九月十三日大同占據によつて、十月十五日には晋北自治政府が組織され、更に十月十七日包頭占領について、蒙古聯盟自治政府が結成されたが、之等三政府の代表者等は早くも十一月二十二日には張家口に集まり、蒙疆聯合委員會の設立を宣言して、こ

こに察哈爾、綏遠の二省、並びに山西省の北部十三縣を合せ、面積約一〇〇萬方籽、人口五五〇萬を擁する新政權が、日滿兩國と緊密なる友好關係の下に、張家口を本據として成立するに至つたのである。蒙疆に於ける政治建設の極めて敏速であつた事からして、如何に彼等の獨立に對する熱望の熾烈であつたかを判るであらう。

【内蒙の獨立運動】 明治四十四年十一月、外蒙古が支那の第一革命による清朝倒壞の機會を利用して、第一次の獨立を宣言した事は、内蒙古人に非常な影響と刺激とを與へ、此の時以來内蒙古には屢々獨立運動が起つたが、元來内蒙古は外蒙古と違つて、支那本部と直接其の境界を接して居る關係上、内蒙古の離反を喜ばざる支那政府は、あらゆる方法で其の獨立運動を彈壓して來たので、殆んど手も足も出ない状態であつた。

然し民國成立以來内亂に次ぐに内亂を以てして、内蒙古人に對する支那政府の壓力は次第に減じた上に、一方では外蒙古の獨立運動が着々進行して居たので、多年漢民族の文化的侵蝕を被り、殆んど往年の氣力を消磨し盡したかと思はれた内蒙古人も、之に大きな衝動を感じて、一脈精氣の漲るものあり、殊に其の後滿洲國が成立して、興安、熱河兩省蒙旗の滿洲國參加が實現するに及んで、愈々内蒙に於ける自治要求運動は、從來の潜行状態から表面運動へと進展し、次第に活潑なる動きを見せる様になつて來た。

即ち昭和八年七月から二ヶ月に亘つて、内蒙各盟旗の王公代表を綏遠省の百靈廟に集め、「蒙古民族の結束」、「蒙古民族の復興」を叫んで起つた所謂百靈廟王公會議は、愈々此の問題を具體化し表面化したるものであつた。内蒙各盟旗の代表集まるもの三十餘名、會議は王公中の新智識であり、親日派と云はれる徳王によつて指導せられ、「蒙古民族の自決」、「内蒙自治政府の組織」について熱烈なる討論を闘はし、遂に滿場一致を以て之を可決、自治の要求を請願呈文とし



て、正面から南京政府に叩きつけたのである。

自治の請願呈文を接受して、今更の如く狼狽した南京政府では、一方長文の布告を發して蒙古の自治尙早を戒めると共に、他面使節を派遣して各旗王を懐柔し、只管内蒙自治運動の阻止に努めたが、内蒙側の態度意外に強硬で、「吾等は成吉思汗の後裔として、滅亡に瀕せる蒙古民族の復興を企圖するものである」と、意氣軒昂たる状態で手の着け様なく、遂に南京政府は讓歩に次ぐ讓歩を以て、内蒙自治區の組織を許し、蒙政會（蒙古地方自治政務委員會）の成立を認めただのである。

斯くて其後も徳王一派は、當初の目的たる完全なる自治を得んとして、熱心なる運動を續けて居たが、之に對して支那側は蒙政會内部の分裂瓦解を企て、種々の陰謀をめぐらして之が潰滅を圖り、昭和十年には從來徳王と反對の立場にあつた綏遠蒙古を煽動して其の手に收め、内蒙自治運動を二分することに成功した。茲に綏遠蒙古は支那に屬し、察哈爾蒙古は實力を以て綏遠蒙古を其の手に恢復せんとし、昭和十一年の秋、總帥徳王は内蒙正規軍總勢一萬八千を率ひ、打鳴らす金鼓の聲と共に、高原の雪を蹴散らして阿修羅の如く、南方綏遠目指して進撃した。而して之に對しては支那側も亦戦備を整へ、十一月中頃には白皚々たる大原野に於て、激烈なる近代的戦闘が展開され、内蒙軍は全線に亘つて凱歌を擧げたが、何分時期が冬の酷寒期のことゝて、兩軍共に行動敏速なる能はず、戦況は膠着状態に陥り、陰山山脈を隔て、長期の對峙の姿勢となつた儘、翌年に持越して遂に今次の日支事變に逢着したのである。

**【内蒙の盟と旗】** 蒙古從來の政治組織は、蒙古人の居住區域では清朝の制定による、盟旗制度を以て行政の基調となして居る。即ち一定の地域と其の住民とを以て之を旗とし、旗長を置く。之等旗長は前清朝廷より夫々階級に應じて、汗親王、郡王、貝勒、貝子等の爵位を賜與せられ、世襲して官爵を繼承するを例とした。是れが即ち世に謂ふ蒙古王公で、殆んど我が國舊時の諸侯の如きものであつた。更に數旗を合せて盟と稱し、盟長は各旗の旗長中から選出する。元來盟

の制度は蒙古固有のものでなく、清代に至つて清國政府が、蒙古民族を懐柔し易からしめるために設けたものであると云ふ。今日では漢族の移住に迫はれて、蒙古族は次第に奥地へと移動したので、地圖の上では旗があつても、蒙古人は殆んど住まず、漢族の居住地になつて居る所が少くない。

次に漢人の居住區域は、移民の始めには設治局を設け、村が出来て居住が安定すれば縣を設ける。察哈爾には縣が十六、設治局が一つ、又綏遠には二市、十六縣、二設治局があつた。縣の殖えるのは漢人勢力の増大で、縣が幾つか出来れば省が置かれる。察哈爾も綏遠も近年迄は特別區域であつたものが、漢民族の發展に伴れて省制が布かれたのである。

### 【蒙疆の獨立と日本】

甘肅、寧夏の西北共產區に直接する蒙疆地區は、防共障壁として新東亞の健全なる發達に重大なる關係を有する處である。假りに蒙疆地區の防共ルートが存在しなかつたとしたならば、新支那の社會秩序の建設運動は多大の攪亂を蒙るべく、新興滿洲國亦安からず、之と共に一體の關係にある日本も不斷の脅威に悩まされるであらう。

即ち北支を通ずる日滿支の東亞經濟ブロックの結成の上からも、又黄河を通じて一聯の連續地帯にある西北赤色地區に對する防共地帯としても、蒙疆の重要性は容易に想察し得る處であつて、隨つて此の地區における政治、經濟、社會の建設こそは、日本にとつて亦其の前線を確保する最大の大陸工作とも稱すべきで、さればこそ日本は蒙疆の建設に對しては、最初から強力なる政治的指導力を全面的に展開せしめて、之が成立を助け、更に極力其の發展を援助して今日に及んで居るのである。

幸ひなる哉蒙疆では民族的支柱として、徳王麾下の三十萬蒙古人が親日防共の大旗を標榜して蹶起した。日本との共同作戦によつて昭和十二年十月思出多き百靈廟を占領し、續いて綏遠、包頭を其の手に收めて、嘗つて傳作儀一派の暴



戻苛惡な誅求から脱却し得たことは、彼等の深く徳とせる處であつて、日本の指導に心から悦服して來り會したることは、誠に都合よき次第であつた。更に又蒙疆地區の民衆が、北支方面に較べると一層純朴であり、且つ半原始的な文化水準にあつて、之が政治的統制を施行し易いといふことも頗る好都合であつた。

斯くて今日日本の指導下に蒙疆新政權が確立し、着々健實なる歩みを續けて居るのであるが、然し又驕つて想ふに、北にソ聯の後援強き共產外蒙を控え、西亦赤色華かなる共產實權區に直接する蒙疆地方の重大な地理的環境から觀て、半原始的な蒙古人の勢力のみによつて、蒙疆の獨立と防共を堅持することの如何に困難なるかは論を俟たぬ。殊に蒙疆の民衆五五〇萬の中で、「蒙古人の蒙古建設」の民族的支柱となれるものは人口僅か三〇萬で、他は大部分が漢人か回教徒である。されば此の點から將來蒙疆地區の維持と發展の爲には、一層此の方面に對する日本勢力の進出が必要とされるのであつて、吾等は日ソ勢力の接觸點の中心地は最早滿ソ國境に非ずして、蒙疆西部線であることを十分に覺悟せねばならぬ。

### 【察南地區】

舊察哈爾省南部の所謂口北十縣の地域で、面積約五萬方籽、人口一三〇萬、住民の大部分は漢人である。

昭和十二年日支事變の勃發間もなき八月二十七日、我が關東軍察哈爾作戰部隊は頑敵を追うて早くも張家口に入城し、四近の殘敵を掃蕩して治安の維持に任ずるや、口北十縣の間に自治政府成立の機運は勃然として湧き起り、遂に同年九月四日蒙疆地域のトップを切つて、皇軍の翼下に堂々新政權樹立の聲明書を發表し、張家口を首都として新政を實施するに至つたのである。

河北の景勝八達嶺を踰えて域内に入れば、北からは興安嶺、南からは大行山脈が共に延互して支派を縱

横に派出するので、山岳丘陵到る處に起伏して地勢錯雜を極めるが、溪谷の間を永定河の上流桑溝、南陽の二川が、山西の奥地より流下して沃土を灌溉するので、沿岸には移住漢民による農業が盛んに行はれて麥類、大豆、高粱等の産出が甚だ多い。

鑛産物の主なものは鐵と石炭で、就中石炭は宣化、蔚州、懷來、張北の諸縣を主として埋藏量五億噸と稱せられ、又鐵は宣化地方一帯に鑛脈の敷衍する龍煙鐵鑛を主として埋藏量約六〇〇〇萬噸、其の含有量は五〇乃至六〇%にして、品質湖北の大冶に比して勝れるものあり、嘗つて我が大正七年には早くも龍煙鐵鑛会社が設立せられ、日本からも資本の融通を得て開發に着手して居たが、其の後打續く支那の動亂に禍されて、久しく事業中止の儘に打過ぎて來た。鐵不足に悩む日本としては、容易に見逃せない大富源である。

之を要するに本地區は、位置が北支の死命を制すべき要地にあり、住民は蒙疆の他の地區に比して文化遙に見るべきものあり、新興蒙疆地域のリーダーとして、物心共に親日防共の鐵壁を確立すべき中樞地域である。

【張家口】 察南政廳の所在地にして、又蒙古聯合自治政府も此處に置かれて居る。人口約十萬、支那本部から北の方外蒙古のウランバートル(庫倫)及び綏遠省奥地に通ずる二大道路の關門にして、清河に跨り、軍事上並びに商業上重要な地點にある。

商業は蒙古各地との間、及び蒙古を経て露領シベリヤとの間に行はれ、北方からの羊毛、皮革類、家畜



類と、南方からの綿布、紙、磚茶、日用雜貨類等との仲繼貿易が盛んに行はれる。もとは毛皮の街と稱せられ、勇敢なる隊商が蒙古各地を歴訪して取引したものは、總て一度は此處に集められたので、毛皮商三千、「陸の上海」と云はれる程の繁榮振りであつたが、今では鐵道京包線の開通によつて、直接京津地方に搬出される様になつたのと、殊に最近日支事變以後は、蔣介石がスターリンの指令によつて、甘肅・寧夏等西北地區の畜産物を蒙疆に移出することは、即ち日本側に軍需品を供給する結果になるとの見解から之を嚴禁した爲めに、貿易額は著しく減少して、街にも往年の如き取引時の豪華な姿は見られなくなつた。然し本市は尙ほ内外蒙古の咽喉として、又蒙疆政權の本據地として、其の著しき軍事的、政治的の重要性から、新興蒙古の發展に伴れて要人の來往多く、將來の發展は期して俟つべきものがある。

【宣化】 北京から張家口に至る間の最大都市で人口約四萬餘、宣化盆地に位し、京包線の要驛である。市街は方形の城壁に圍まれ、城内には公署・學校等多く、又物産は雜穀、羊毛、羊皮等を主として、之を天津市場に移出する。

#### 【蒙古聯盟地區】

察南地區を除いた察哈爾省と、舊綏遠省の全部を併せたる地域で、現在の行政區劃では察哈爾盟（八旗八縣）、巴彥塔拉盟（五旗十二縣）、錫林郭勒盟（十旗）、伊克昭盟（七旗四縣）、烏蘭察布盟（六旗）、の五盟及び厚和、包頭二市より成り、面積約一〇〇萬方籽、人口二六〇萬、首都を厚和（綏遠）に置く。

昭和十二年日支事變が勃發するや、内蒙軍は日本軍と協力して十月二日思ひ出の地百靈廟を恢復し、次いで日本軍が綏遠、包頭を占領し、殘敵を掃蕩して治安を維持するに及んで、防共意識と内蒙自治の熱意に燃えたる蒙古人等は、徳王の傘下に集まつて十月二十七日自治政府の成立を宣言し、年號を改めて成吉思汗紀元七三二年を用ひ、綏遠を厚和と改稱して之を首府とし、赤色防壓の第一線を承つて華々しく躍出したのである。

舊察哈爾省に屬する部分は興安嶺山脈の西側に位して、滿洲國の外壁に當る。地勢は概して高原地帯で、東南一帯には標高一二〇〇米から一四〇〇米の草原が打續き、西北地方ゴビの沙漠に至るに随つて次第に低く、河も大抵源を興安嶺に發して西北流するが、總て沙漠内に姿を没する内陸河である。氣候は大陸性で寒暑の差が劇しく、五月頃の雨期に少量の降雨を見る外は、雨量極めて少なく空氣は乾燥して居る。

住民は南部地方に住む漢人は商業或は農業に従事して居るが、北部の蒙旗は純然たる遊牧民族で、常に水草を追うて移住する。彼等は自ら成吉思汗の直系種族と稱し、衣食住共に古來の蒙古式を其の儘固襲して、漢人文化の影響を受けること少なく、性質慍悍、夙に、徳王一派の蒙政會に屬して、民族的意識の頗る濃厚なものであつたのであるから、今や日夕景仰措かざる民族の誇り成吉思汗曆使用の機會を得て、滿悅極まりなきものあるに違ひない。

此の地方の富源は畜産、農産、鑛産の三つである。畜産は馬・牛・緬羊・駱駝等で、殊に察哈爾馬は古來俊秀の名高く、清朝時代には清皇室御料の馬の牧場も設けられ、今も多倫諾爾の馬市は毎年盛んに行はれ



て居るし、又緬羊の飼育も頗る有望で、蒙古人の原始的遊牧方法に改良を加へたならば、將來の發展は期して俟つべきものありと云はれる。農産物は麥類、高粱、大豆、粟等が主で、専ら南部地方に於ける漢人農民の耕作に委ねられ、蒙古人は總て遊牧にのみ従事して耕作を顧みない關係上、域内の大半は未開墾の儘に棄てられて居る状態で、之が開拓は將來に残された大きな問題である。

【多倫諾爾】 渤海灣に注ぐ滦河の上流地方、滿洲國の熱河省境に近き要地にして、人口二萬餘、漢族と蒙古人とは其の數が相半ばする。市街の北方には東西の二大喇嘛廟がある。共に結構極めて壯麗にして、之を遠望すれば恰も一大城廓の如く、在住喇嘛の數は常に二千を下らないと云ふ。

喇嘛教は蒙古人にとつては生命の全部であり、精神的糧の總てである云はれる程で、隨つて彼等の喇嘛教に對する信仰は絶大なもので、一家に三人の男兒があると、其の中の一人は否應なしに喇嘛にさせられると云ふ位に、強い迷信を持つて居る程であるから、外蒙古の庫倫の喇嘛廟と相對峙して、内蒙古の聖地として知られる此の地の喇嘛廟は、參詣者が四時陸續として詰めかける。

尙多倫諾爾は内蒙商業上の要地で、附近開墾地からの農産物は勿論、家畜は一ケ年に羊が二〇萬頭、牛と馬が約三萬頭、羊皮一〇萬枚、牛皮一萬枚、その他羊毛、駱駝毛等の取引あり、又張家口との間は電信も通ずれば、自動車の定期運行もある。

舊綏遠省は察哈爾の西南方に位し、南は萬里長城を隔て、山西・陝西の二省と境し、西は寧夏の赤色地區に連接する。陰山山脈が中央部に横はつて全土概ね高臺をなし、其の南側には黄河の巨流が彎流して、

河畔に廣大な沃野を展げて居る。鐵道京包線は北京から居庸關を経て察南地區に入り、山西の北角を掠めて綏遠に來り、現在では黄河の沿線包頭を終點として居るが、更に將來は黄河に沿うて西に伸び、陰山南麓の五原に達する豫定である。

鐵道京包線の開通があり、黄河の流れがあるので、綏遠は察哈爾に較べて更に開墾が進んで居る。清朝の頃は漢人の蒙地開拓を許さず、商人も許可を要し、且つ一年以上の滞在を禁ずる等、蒙古人の獨立と生活の安全とがよく保證されたので、彼等は平和の樂土に悠々放牧の生活を樂しみ得たのであるが、一度民國に入つて漢人の天下となるや、清朝の制度は撤廢されて漢人の進入が始まり、内蒙の牧場は拂下げられ、土地の開発が行はれ、殊に鐵道の敷設と共に漢人の殺到となり、牧場を奪はれた蒙古人は遠く陰山山脈の北に逃れて、次第に沿線の一帯は漢人の大移住地となつて仕舞つた。

斯くて今や綏遠全人口の六〇％は漢人、一五％は回教徒、一〇％は滿洲人、蒙古人は僅に残餘の十五％を占めるに過ぎず、漢人は既に陰山山脈を踰えて進出し、其の北側にさえ縣が二つも出來て居る程の勢いである。

元來綏遠省は土地の極めて豐沃な所で、粗放な農業でもよく千五百萬以上の人口を收容し得ると云はれ、現在既耕地は可耕地の約十分の一に過ぎないが、それでも麥類、大豆、高粱等の農産物は頗る饒多で、北京、天津方面の需要を充し、一部は遠く日本にさえも輸出されて居た程で、將來大に開發が進むと共に、



西北の穀庫たるべきを期待されて居る。位置の関係から山西と密接なる関係あり、山西は山國で人口が多く生活が困難な爲めに、唯一の活路を綏遠に求め、随つて綏遠の住民も大部分は山西人で、閻錫山は綏遠を自己の手中に握つて離さない。從來蒙政會を壓迫して徳王と激しい蒙漢の鬭争を繰り返して居たのも、山西派の連中である。

【歸化城と綏遠城】 歸化城と綏遠城の兩都市は京包鐵道を隔て、相對し、一般に兩邑を合せて歸綏と云ふ。歸化城は今から約二百餘年前、蒙古貿易の爲めに漢人が蒙古に歸化すると云ふ條件で造られた街で、俗に張家口を東口と稱するに對して西口の名あり、廣漠たる平野の上に立つて城郭を環らし、人口は約一〇萬、大部分は漢人の移住者であるが蒙古人も多く、數個の喇嘛廟と回教の寺院があつて、今も此の附近に於ける信仰の中心である。物産は雜穀、菜種、獸皮、獸毛等を主とし、張家口、天津、内外蒙古、新疆方面との取引が盛んに行はれる。

綏遠はもとの省政府の所在地で、昭和十二年十月蒙古聯盟自治政府の成立と共に厚和と改められた。官衙、兵營多く、人口約四萬、もと滿洲八旗の駐屯地であつただけに今も滿洲人の後裔が多く住んで居る。尙ほ歸化城の郊外約四里の處に、名高き王昭君の墓がある。漢代に政略結婚の犠牲となつて、匈奴の王に嫁した薄命佳人の終焉の地として傳へられ、廣い草原の中に淋しく立てる饅頭形の小山の上に、古びた墓石が今も往年の哀傷を物語つて居る。

【包頭鎮】 沙漠に近き砂塵の街で、鐵道京包線の西端、黄河の左岸に沿うて發達する。人口約七萬、市街は城壁を繞らして屋宇櫛比し、綏遠城と共に従前對蒙戰線の重要根據地として、新興の氣分が溢れたる處である。住民は多く山西人で、附近新開の沃野から産出する麥、粟、高粱、菜種等の農産物は勿論、獸皮、獸毛の集散多く、又北は陰山の險とゴビの沙漠を越えて外蒙古に通じ、西は黄河の河谷から甘肅省の蘭州に出で、天山北路を経て新疆に通ずる交通上の要路

に位するので、對西部蒙古及び對西域支那との貿易が盛んに行はれ、黄河の水運を利用して、寧夏、新疆方面から移送し來る棉花、畜産品等は、事變前には此處から鐵道によつて天津方面に搬出されて居たのである。

尙ほ包頭の南方、黄河の流れを隔てた鄂爾多斯の地は廣漠たる大沙漠で、平沙渺茫遙に地平線の彼方に續き、恰も嵐の後の大洋を見るが如き不毛磽确の所であるが、沙漠の中には無盡藏の石炭を包藏し、到る處に眞黒な石炭の露頭を出して、炭質撫順炭にも匹敵する良炭の埋藏量三〇〇億噸と稱せられ、土人は井戸を掘る様に無雜作に採掘して、方二、三尺の炭塊を馬背で運んで居ると云ふ。交通不便の爲めに全く棄てられて居るが、蒙古の偉大な地下埋藏資源は、誠に想像の外であると云はれる。

【平地泉】 もとは廣漠たる原野であつたが、鐵道平綏線の開通と共に漢人が殺到し、争つて居住開墾に努めたが爲めに急速に發達して、今は人口約三萬、附近から産出する麥類、黍、蕎麥、亞麻仁等の集散頗る盛んにして、一に西北の糧都の名を以て知られて居る。

### 【晋北地區】

晋は山西省の別名で、晋北地區は山西省の北部十三縣、面積約三萬方籽、人口一五〇餘萬の地域である。昭和十二年九月十三日、日本軍が長驅大同に入城するや、附近民衆の自治要望の機運は俄に熟し、翌十月十五日には早くも晋北自治政府を組織し、大同を首都として新政を實施し、次いで十一月には蒙疆聯合委員會に参加して、茲に完全に蒙疆地區の一部をなすに至つたのである。

從來支那本部と考へられて居た晋北の地が、蒙古に編入されたのは頗る奇異の感あるが、元來舊綏遠省



に於ける漢民族は其の大部分が山西からの移住民で、晋北と綏遠とは種族的に全く共通である上に、又大同を中心とする晋北の地は、永定河の上流桑乾河と其の支流に灌漑される大盆地で、長城の郭壁を四周に繞らし、且つ交通的にも僅に一メートルケージの狭軌同蒲線で結ばれる南方山又山の太原に對するよりも、京包線によつて直接連絡されたる北方蒙古に對する關係の方が遙に密接なのである。

資源の主なるものは大同を中心として埋藏無量と稱せられる石炭で、將來此の大富源が開發される曉には、僻遠の山間に黒耀の近代文化が燦然たる光を放つことであらう。

【大同】永定河の上流、大同盆地の北端に位して、蒙疆聯合自治政府下の晋北地區を統治する晋北政廳の所在地である。

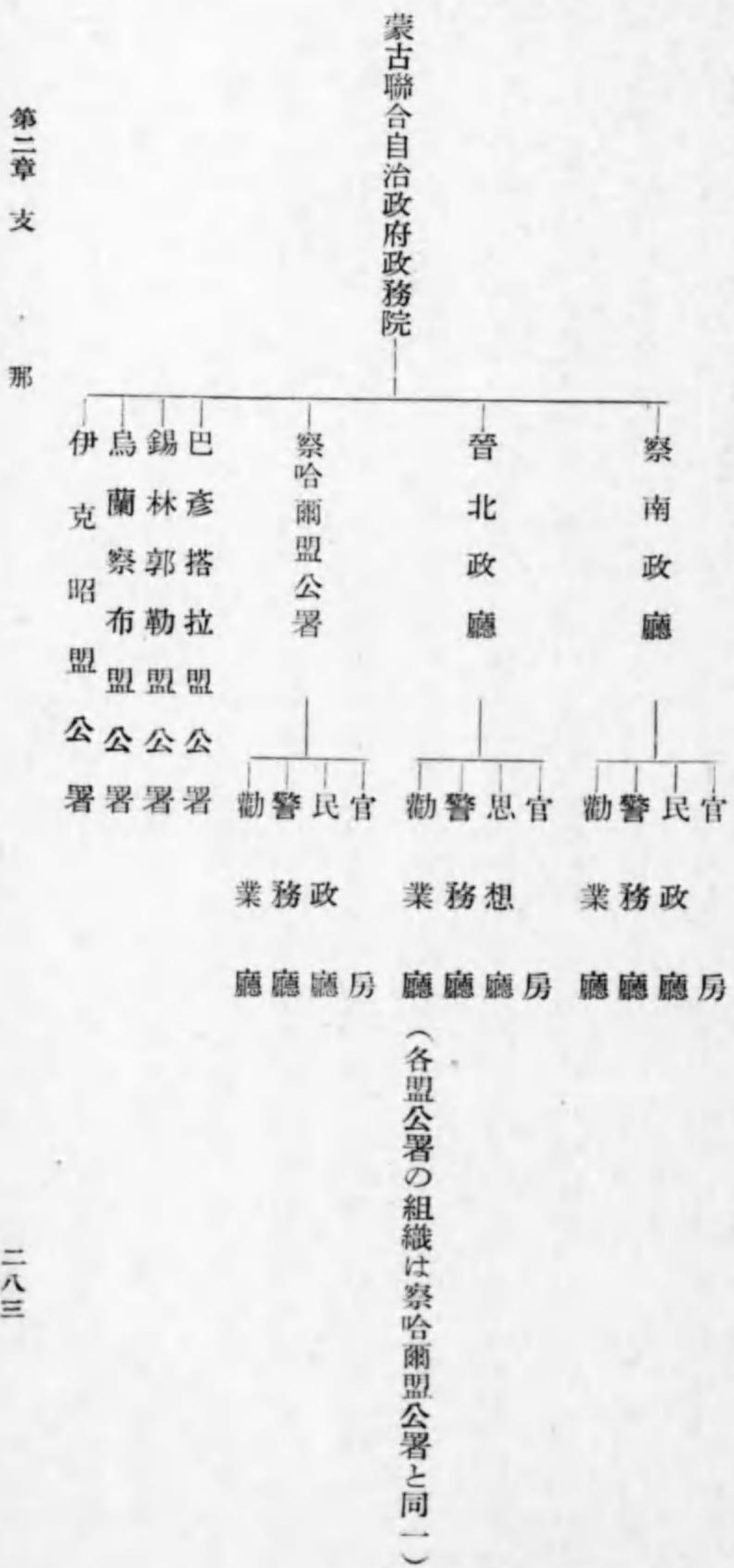
古來邊外の蒙古に近く、軍事上の要地に當れるが爲めに、秦・漢以來北方の重鎮として知られ、北魏の太武帝が都を此の地に營みたる以來數代都城の地として榮え、偉大なる北魏文化を今も雲崗の石窟に残して居る。市街は、堅固なる城壁を繞らして、人口約一〇萬餘に過ぎないが、羊・駱駝・毛皮・石炭等の取引が甚だ盛んである。

【五臺山と石佛寺】五臺山は支那五山の一に擧げられる名山で、山西省北部の晋北地區に近く位し、海拔三〇四〇米の高所に造營されたる大伽藍には、多數の僧侶が奉仕し、四時參拜者を集めて榮えて居る。

雲崗の石佛寺は大同の西約一六軒餘の地にあり、十里河の左岸に連亘する河蝕斷崖を利用して、其の崖側に數多の石

窟を穿ち、此處に大小無數の佛像が彫刻してある。今から凡そ一五〇〇年前の北魏時代に創立せられ、爾後代を重ねるに伴れて其の數を増して今日に至つたもので、大は十餘米のものから小は數種のものまで、其の數は何千何萬とも數へ切れない。石佛寺は石窟分布の略ぼ中央にあつて、崖に接して四層の古びた殿堂が建てられ、背後の自然石を扶つて刻み出された本尊の座佛像は高さ約一五米、相好雄偉、森嚴の氣が溢れて居る。斯くて大小幾百とも知れぬ石窟内に、隙間もなく彫り出された無數の佛像は、何れも手法精妙巧緻を極め、支那に於ける世界的藝術品として誇るべきものである。

【蒙疆行政組織】蒙疆聯合自治政府によつて統治される、蒙疆の政治行政組織を表記すると次の如くである。





## 【寧夏省】

親日滿、防共を標榜する蒙疆地區の出現によつて、俄に新らしい意味を以て登場し來つたのは寧夏省である。本省は蒙疆地區とは異なるが、元來が内蒙に屬する地域であり、又新疆省が既にソ聯の支配下にある今日に於ては、寧夏は防共と赤化の中間地帯として、將來の蒙疆發達に至大の關係があるので特に此處に述べることにする。外蒙古、甘肅、綏遠に圍まれた一帯の高臺で、東南部の黃河流域地方は地味肥沃、加ふるに溝渠を通じて灌溉至便に、米・雜穀等の農産物、羊毛・羊皮等の畜産物も少くないが、一度賀蘭山脈を越えて長城外に出ると、所謂西套蒙古の沙漠地帯で、ゴビの大沙漠が南に押出して甘肅・青海に迫り、平沙漠々、空氣乾燥して砂礫累々たる所多く、河流も黃河の外に二、三の長流あるも、何れも其の末端は吐口なき湖沼の中に影を没する。

住民は東部の黃河流域地方には、甘肅省からの移住漢人の開墾に従事するものが多く、舊來の蒙古人は沙漠の間に草原を求めて、家畜と共に移動する遊牧生活者であるが、近年蒙古聯盟自治政府の成立以後は、著しき政治意識の昂揚を促されて居ると云ふ。省城の寧夏は黃河の左岸に位する北邊の要地で、人口約六萬、街の長さが約三哩にも及ぶ。古への西夏の都したる處で、附近の豐沃なる平野から産出する農産物の取引多く、黃河の水運の外、事變前には河畔に沿ふて包頭との間に乗合自動車の便さえあり、獸毛・皮革の移出、綿布・磚茶・砂糖の移入等商業が盛んである。

## (2)、外蒙古人民共和國

【地勢の概観】 南から東にかけてはゴビの沙漠を隔て、内蒙古に、北はサヤン山脈、肯特山脈ケントゥンによつて蘇聯のシベリヤに、西はアルタイ山脈を以て天山北路に、國境の延長は實に七五〇〇軒、面積約一五〇萬方軒、大凡そ我が國土の二倍半に達する廣き地域であるが、人煙頗る稀疎にして、住民の數は約八〇萬に過ぎず、二方軒につき平均一人餘と云ふ誠に荒涼漠々たる處である。

地勢は一帯に高臺で、海拔約一千米以上に達し、且つ其の間には山地及び盆地がある。邊境の山岳地帯には、年中白雪を以て掩はれた高山峻嶺が、巍々として相連つて居るが、之に反して高原内に聳ゆる蒙古の山々は、傾斜が頗る緩かで、山裾が次第に高まつて、遂には海拔幾千米と云ふ高嶺を形作れるものが多く、其の柔かい山々の輪郭は、嵐の跡の大洋の様な大ウネリの、坦々たる山麓の大草原地帯と相俟つて、誠に調和のよい高原風景を展開する。

坦々漠々たる蒙古の大草原地帯は、確に雄大無比、殆んど譬うるに物がない。嘗つて蒙古の王様が日本の視察にやつて來た時に、「日本に來て何が一番珍らしく感じたか」と訊ねられたら、「何は兎も角家の多い事に驚いた。下關から東京迄家が打つ續けに續いて居る」と答へた相であるが、實際蒙古では十里に一寺廟、二十里に一部落あるのはまだよい方で、所によると二十里、三十里も唯だ茫々たる草原で、部落どころか一個の包さえも見當らない。目に觸れるものは高原に起伏する丘の浪、地平線の彼方に浮ぶ白い雲で、



毎年春の終りから秋の始めにかけて、丈高き牧草の縁に蔽はれて眞に天與の牧場を作る。草原から草原へ、山裾から山裾へと、牧草を追うて移り行く流浪の原始的遊牧は、此の地帯で盛んに行はれて居るのである。

外蒙古はまた豊富な河川と沼澤に恵まれて居る。太平洋系の河川には黒龍江の上流をなせる克魯倫河があり、バイカル湖に注ぐものには色楞格河がある。殊に色楞格河の本支流は舟運の便開けて、容易に蘇聯のシベリヤと相通ずる。湖沼も西北部の山岳地帯には烏布薩湖、庫蘇古爾湖等を始めとして、周圍一〇千乃至四〇千程度のもが無數に散在し、家畜に對して天與の飲水場を提供する。概ね鹹水湖で、之等の湖沼の岸に自然に沈澱して生じた天然鹽は住民の自用のみならず、遠く支那本部或はシベリヤ等に移出せられる盛況である。

【戈壁の沙漠】戈壁の沙漠は殆んど亞細亞を横斷せる大乾燥地帯の東端をなせるもので、東は大興安嶺から西は新疆省の東部に亘り、延長數千軒、幅は六、七百軒で、嘗つてのアジャ地中海をなしたるものが隆起して出來たものであると云はれる。

一般に東部が高くして平均千二、三百米内外の高原となり、諸所に陥没凹地を挾んで、中には殆ど水面と同高位の處もある。降雨量極めて少なく、偶々雨あれば雨後には諸所に短かい薄葉の雜草を生ずる。人煙絶えた凹地には、時には雜草が繁茂して居ることもあるが、大部分は礫や岩片を混じた粗鬆な黄色土壤の露出した地域で、際限もなく打續く灰黄色の砂原のウネリは、さながら嵐の跡の大洋を見るが如く、其の間には所々に花崗岩の鋭鋒が、恰もスフィックスの様

に突出して單調を破る。景觀總て是れ妖魔の仕業とも云はうか、唯々满目荒涼と云ふ外に形容の言葉がない。

荒原の中には眞白の硝石の上皮や、氷の様な鹽類の外皮を生じた湖沼等もあるが、其の鹽辛い鹹水は水に喘ぐ旅人に唯だ絶望を與へるのみである。此の荒野に棲息出來る野獸は、地下に孔を穿つて身を護る小さなモルモットや、常に狼の如き猛獸を警戒して居る、臆病にして快速な羚羊等が主で、又隊商の後を追跡する秃鷹や、遺棄された屍に群がり寄る大鴉等が居る。

沙漠の交通機關としては、沙漠の舟とも云はれる駱駝に限る。嘗て張家口から庫倫への途上に横はる沙漠地帯を、三頭立ての馬車で横斷した事があるが、車輛が砂の中に没入して、空車さへ前進不可能な場所があり、馬は腹迄小砂に埋められて、二、十分も進めば五、六分の休憩を與へねばならず、僅に八軒を進むのに半日を費した程である。勿論沙漠の道と云つても、常に往復する隊商の踏み馴らした足跡で作られたものであるから、一朝暴風に遭つて砂の怒濤が渦巻くならば、忽ちにして其の道は掻き消されて仕舞ふ。されば戈壁の沙漠を越え蒙古を横切つて、苦しい旅行を續ける隊商にとつては、其の日其の日が誠に命懸けの旅である。

更に沙漠の氣候は頗る極端且つ不安定で、夏の暑熱も夜に入ると、忽ち二、三時間の中にひどい霜が生じ、屢々零度以下に下る。少し位な雨が降つても乾燥が劇しいから、直ぐに土壤に吸収されて仕舞うし、時に豪雨到つて水流を作ることもあるも、其の末は全く土中に没して影を失ふ。

【曠野の導標鄂博】蒙古の地形は頗る雄大で、極めて變化に乏しい。山岳の多くは比高三〇〇米内外の高度をもつた弓なりの丘阜で、遠くから之を眺めると恰も薄い饅頭形の岡が、地平線の彼方に匍ふ様に見える。目に入るものは柔い緑の線に包まれた曠野、なだらかな輪郭の山々、だら／＼と走る緩傾斜の坂、壓し潰された様な扁平な丘、灰黄色の砂原等、蒙古の自然は人の心を刺激することが少なく、寧ろ醉生夢死の境に導く柔かさのみを含んで居る。嘗ては成吉思汗に率



みられ、鐵騎百萬よく歐亞の天地を蹂躪した蒙古民族が、七〇〇年後の今日温順無比の遊牧民族と化したのも、此の平調なる自然の感化に負ふ所が頗る大であるとされて居る。

地形自然の變化の極めて乏しい蒙古では、随つて土地の目標となるべき物體が誠に少ない。數十里の間人家は勿論、人影さえも認められない事は稀でないから、土地の方位の認定が頗る困難で、一度道に迷ふ時は、正確に目的地に達することはなか／＼容易でない。此の蒙古の曠野に於て、正確な方位を示す特有の導標が即ち鄂博である。

鄂博は蒙古人が山神地祇を祀る爲に山頂、分水界、或は平地の岡の上に、石又は土を積上げた圓錐形若くは正方形の階段状の築設物で、高さは低きも四尺、高きは一丈餘に及び、頂上には枯枝を挿し挟み、或は之に獸皮等を吊して、數里の遠方からでも明かに認め得られる様にして居る。蒙古地方の旅行者や隊商にとつては、之が唯一無二の道しるべであり、時に又は境界線としても重んぜられる。されば蒙古人が鄂博を大切にすることは非常なもので、昔から鄂博は附近部落の守護神と崇められ、其の地域は神聖犯すべからざる處と定められて、毎年時をきめて盛大な祭典を行ふことは恰も我が國の田舎の鎮守祭と似て居る。

【外蒙の産業】 外蒙の主産業は牧畜で、國民の總収入の約八割を占むると云はれる。蒙古は大陸の中央に全然孤立した高原で、此の高原は他民族の文化的侵入を自然的に阻害して來たのみならず、灌溉の不便と氣候の乾燥、土壤に含まれた多量の鹽分と、牧草として適當な野草の繁茂とは、宿命的に蒙古民族をして、其の生活を牧畜にのみ依頼せしむるに至つたものである。彼等は牧畜によつて總ての生活需要を充して行く。食物は獸肉、乳汁であり、酒も乳から作る。野菜も何も食はず、家畜だけから食物を取つてよく健康を保持して行けるのは、獸類の全部を取るからであつて、殊に臟腑をすつかり食ふので偏食の弊に陥

らないと云はれる。衣類も敷物も毛皮であるし、家屋も獸皮で張つた蒙古包で、衣食住共に之で充されるのである。

家畜の種類は牛、馬、駱駝、羊、山羊の五種が主で、總頭數は二千餘萬頭に上り、其の中綿羊と山羊は約八〇%、牛と馬とは夫々約九%、駱駝は約二%に當り、之を人口に配當すると、蒙古人一人についての家畜數は約三〇頭に近い。随つて羊毛、駱駝毛、牛皮、羊毛、肉、脂肪、獸乳等の畜産品は毎年莫大に上つて、之が蒙古民族の經濟の基本をなすのである。

然し此の民族の生命とも云ふべき牧畜も、其の經營狀態は極めて原始的で、牧草も自然の儘に委して毫も改良を行はず、遊牧の方法も太古以來のものを其儘踏襲するに過ぎぬ。随つて偶々獸疫の侵入があれば一時に多數の家畜を失ひ、又冬季降雪多く、枯草を飼料に供し得ない時は、家畜は唯だ餓死する儘に放棄される。近年蒙古赤色政府では從來の水草を追ふて移る原始的飼養法を改めて、畜種の改良、旱魃乃至降雪の場合に處すべき糧秣の貯藏獎勵、流行病其他の豫防等、種々の方策を樹て、實施し來つたので、外蒙古の牧畜も極めて微かながら、次第に近代式に改善せられつゝある。

外蒙古には牧畜以外の産業として、農業、工業及び商業が行はれて居る。農業は從來在外蒙古の支那人が主として之を行つて居たが、外蒙共和政府は支那人排斥の方針を採るに至つたので、露人が之に代つて農業上に勢力を擡げて來た。作物は主として雜穀で、燕麥、ライ麥が最も多く、小麥、大麥等が之に次ぐ。



元來外蒙古は乾燥地で砂礫が多く、氣候は大陸的で灌溉はなし、收穫率は非常に貧弱で、將來も農業發展の望みは甚だ薄い。それに外蒙人は家畜で生きて居るから穀物の需要が少なく、之を要するのは主として支那人、露西亞人で、彼等の食糧の不足は今日では全部ソ聯から輸入される。

外蒙の工業は頗る微々たるもので、庫倫を中心に皮革工場、洗毛工場、清腸工場、製靴及び製鞍工場等が設けられて居るが、何れも極めて小規模のもので、殊に支那人の退去に伴って衰運が著しい。商業は從來外蒙古の商權は、殆んど支那商人の手中に掌握されて居た。支那人は品物をウンと高く賣り、蒙古人のものは只見た様に取り、不足の分は高利貸にすると云ふ、老獪極まる搾取政策を續けて來たが、自覺せる外蒙民族は政府直轄の下に、資本金二千萬圓をソ聯から仰いで中央購買組合を組織し、國內商業の主要なものと、外國貿易を獨占して、個人商業の跋扈を抑壓するの舉に出でた。

されば之が爲めにさしも盛んなりし支那人の個人商業も、外蒙政府の壓迫と重税との爲めに全く衰頹して、盛時十萬を算した支那商人も、遠からず外蒙區域内から、其の影を没するに至るであらうと云はれる程に轉落し、之に代つて今日では輸出入品の約三分の二は露西亞に吸收せられ、之に伴つてソ聯商人の勢力は日々に増大しつゝある。貿易品としては、蒙古からの輸出は主として畜産物で、輸入は穀物、茶、砂糖、菓子、煙草等の食料品から、近頃は石油、鐵、自動車、機械類等に迄及び、輸出に比して輸入額は二倍以上に達するので、建設途上の外蒙はまた頗る入超に苦んで居る。

【外蒙の政治】 蒙古人は漢人の來住を喜ばず、彼等は漢人の來つて蒙古の土地を奪ひ、蒙古人を壓迫し、蒙古人が次第に驅逐せられるに對して極度の不滿を有して居た。元來外蒙古は十一世紀の後半に、支那が佛教國たる點から蒙古人側で、支那に隸屬することを決議したけれども、支那本部との間には大沙漠が横はつて、地理的には寧ろロシアの方が近いのである。されば明治四十四年(宣統三年)支那に革命が勃發すると、蒙古の王族達はロシアの策動に動かされて、支蒙の關係は單に清朝との關係であるから、既に清朝の廢せられた以上隸屬の義務はないと揚言し、多年外蒙併合の野望に燃えたるロシアが、背後で着々爪を磨いで居ることに氣もつかず、其の後援の下に獨立を宣言し、新に大蒙古帝國を建て、庫倫を首都と定め、庫倫の活佛を擁立して即位式を舉げた。

斯くて蒙古國政府は其の成立と共に、ロシアと條約を結んで其の援助を受くる代り、之に許すに土地の租借、農業・鑛業・林業・漁業等に關する新特權を以てし、實質的には殆んど其の保護領たるの觀を呈する様になつた。其後ロシアに革命が起り、赤白兩黨互に相攻争するに及んで、支那は一度蒙古を回復して其の手に收めたが、間もなく白系露人が入り込んで之を占據し、次いで勞農赤軍が之を逐うて外蒙古に侵入し、遂に外蒙人は赤軍支持の下に、活佛を元首として再び革命政府を樹てた。

大正十三年四月、多年蒙古人尊崇の中心であつた活佛が死去するや、ロシアは親露系青年黨を操縦して活佛の後繼者を置かず、同年七月には共和制を宣布し、次いで斷然ソ聯憲法と似よりの蒙古憲法を採用せ



しめた。爾來茲に十餘年、ソ聯の勢力は着々として浸潤して行く。外蒙共和國の政治は勞農ロシアの政治其の儘で、王侯・喇嘛の特權は廢止せられ、一切の階級制度は撤廢せられ、總て政治の基調をなすものは共產主義である。時に蒙古人中にもソ聯の壓迫に耐へ得ず、反露計畫を起すものもあるが、ソ聯は巧みに急進青年黨を利用して、暗殺若しくは軟化せしめて露化政策を進めて行く。各機關の要路にはロシア人が顧問として据えられて居るので手も足も出ない。斯くて今日では外蒙古は、全くソ聯邦内の一共和國たるの觀を呈して居るのである。

尙ほ外蒙の政治に關聯して特に吾等の關心を惹かれるのは其の軍事に就てであるが、之は支那事變前には七ヶ師約一萬三千の兵數であつたが、現在では三ヶ軍團二萬以上となつて居る上に、更に此の外ソ聯から狙撃師團、騎兵師團、機械化旅團、飛行隊等が戰車、自動車等を伴つて派遣されて居り、然も必要に應じて幾らでも増遣される譯けて、此の點は誠に我が大陸國防生命線の大きな脅威である。

#### 【外蒙の都邑】

【庫倫】 外蒙共和國の首都で、歐人は之をウルガ(宮殿の意)と云ひ、蒙古人は昭和九年七月共產政府成立以後はウラン・バートル・ホト(赤い英雄の都)と呼ぶ。前清の乾隆年代に喇嘛教初代の活佛が、西藏から歸つて七つの廟を建て、喇嘛廟を中心に七つの部落を營んだのが始まりで、爾來此の地は全蒙宗教上の中心として重んぜられて居たが、次いで清朝政府は此の地に庫倫辦事大臣を駐派して、邊疆事務を處理せし

め、又ロシアとの通商市場と定めたので、次第に全蒙の政治並びに商業上の核心として榮える様になつた。

宣統三年清朝が瓦解するや、外蒙古は支那の羈絆を脱して獨立を宣言し、活佛を擁立して大蒙古皇帝と稱し、此の地を首都と定めたが、次いで外蒙民國の成立と共に愈々國都としての體制を整へ、全蒙政治・經濟・文化の中心として今日に及んで居る。市街は東、中、西の三區に分れ、東及び西の兩區は商業街、中區はロシア人の居留地にして官署住宅多く、ソ聯の大使館も此處に設けられて居る。西區にある喇嘛教の大本山カンダン廟は壯麗無比、此處に奉仕する喇嘛僧の數は一萬三千と稱せられ、活佛の古宮殿と共に金色に輝く其の遠望は、單調廣漠たる四近の風物に對比して、確に一大驚異たるを失はない。廟前に跪いて讀經に餘念なき修業僧の傍で、ロシア式軍服に身を固めた蒙古兵が、赤旗を手にして打倒資本主義を絶叫する様は、誠に變つた風景であると云ふ。

人口は約十餘萬、近年人口増加の傾向は頗る顯著であるが、蓋し之はソ聯に操られつゝある共產主義的施設の爲めに、極度に原始的遊牧生活を脅かされた地方貧民が、パンと職を求めて連りに來住する爲めで實に庫倫市街には乞食が充滿するとさえ云はれる。大正十三年活佛の死後は之が後繼者を置かず、政教一致の舊慣を破つて政權を分離したので、喇嘛の勢力は日一日と凋落しつゝあるも、一方では中央政府各省の存在するは勿論、蘇聯邦の全權代表等も駐在し、銀行會社等の經濟的機關も備はり、又獸皮、獸毛等の



畜産物を主として、天産物の集散が頗る多く、随つて貿易も亦盛んで、市況常に活氣を呈して全蒙隨一の繁榮を見せて居る。

【買賣城】<sup>マイツツゲン</sup> 外蒙古の北端にある開市場で、露蒙の國境に位し、露領の恰克圖と相對して國境貿易が行はれる。市街は繞らずに木柵を以てし、恰克圖との間には門を開き、兩國の兵士が立つて、蒙古人及び赤露人以外の入國者に對しては、嚴重な監視の目を光らせて居る。人口は約五千、近時ロシアの勢力が外蒙古に進展し、其の政治的思想的侵略の基點を庫倫に置くに至つたので、對露貿易の物資も此處を通過するものが多く、随つて往年の如き市場價值は全く失はれたが、尙ほ國境の要點として、蒙古銀行や製革工場等もあり、ロシアの領事館も設けられて居る。

【烏里雅蘇臺】<sup>ウリヤスライ</sup> 第十八世紀の始め、清朝の定邊大將軍錫保によつて創設された都市で、庫倫が國都となる迄は外蒙古全土の首都として榮えたが、今は中部外蒙古の商業上の中心として、又軍事上の要鎮として、僅に往時の佛を止めて居るに過ぎない。人口約四千、附近から産出する羊毛、羊皮は品質良好外蒙第一と稱せられ、之と茶、織物、日用雜貨等との取引が頗る盛んで、露人の在住するもの多く、商權は殆んど其の手に收められて居る。

【科布多】<sup>コブト</sup> 清朝が西部外蒙古鎮撫の爲めに、十八世紀の中頃特派したる科布多長官の駐在から發達した街で、今も西部外蒙行政上の中心として、蒙古政廳、ソ聯の領事館、騎兵師團司令部等あり、人口約三千、住民の大部分はロシア人と支那人である。市街は海拔約一三〇〇米の高臺に位するので、老樹繁茂して、蒙古の奥地稀に見る清潔な都市をなし、羊毛並びに各種の獸皮と、茶、織物等との取引が頗る盛んである。

### (3) 唐努トウヴァ共和国

唐努烏梁海<sup>タヌウリヤンハイ</sup>は外蒙古の西北端に當る地域で、サヤン山脈の南方、唐努山脈の北に位し、北部は一帶にソ

聯領のシベリヤに接して、エニセイ河の上流によつて灌溉される。面積一六萬方籽、人口約八萬、住民はトルコ族と蒙古族の混血に屬し、牧畜と狩獵を主生業とする。此の地域は清朝の初めには露支兩國に共屬の觀を呈し、境界も未定であつたが、一七二五年の恰克圖條約でサヤン山脈を清露兩國の境界と定められたので、始めて支那の領土と決定された處である。露國は前清の同治九年（一八七〇年）頃から、此の地に對して植民を開始し、牧畜に通商に又は工場經營に、夫々怠る所なく努めて居たが、宣統三年外蒙古が獨立を宣するや、露國は其の虛に乗じて一時此の地域を併合した。

其後一度露領を脱したが、次いで一九二四年外蒙古國共產政府の成立と共に、此の地域は唐努トウヴァ共和國として、ソ聯邦後援の下に獨立を宣言した。外蒙古は之に對して抗議を提出し、中華民國亦大に抗議する所あつたが、ソ聯邦政府は外蒙政府を強要して其の獨立を認めさせ、然も一方着々烏梁海のソ聯化を進行せしめ、遂に烏梁海人民の希望に基づいて、之をソ聯邦共和國内に合併すべき旨の共同宣言を發し、名實共に外蒙古より奪ひ取つて、聯邦内の一共和國たらしめた。斯くて唐努烏梁海は地理的には蒙古の一部に相違ないが、政治的には外蒙古から全然分離獨立し、シベリヤとの間にはソ聯經營の汽船便が通じ、電信其他の通信機關も設けられて、今やソヴィエト露西亞の一部と化して居るのである。

ソ聯の極東進出、土地兼併の野望は基づく所が極めて深い。廣大無邊の牧野を誇る外蒙古にも、やがては烏梁海と同じ運命を辿る日が來ることであらう。赤露に躍らされて傳統的の信仰を失ひ、共產黨の痛烈



な宣傳に動かされて、平和な牧人生活を攪亂されんとする外蒙一般民衆こそは、考へれば誠に氣の毒千萬の次第である。

### 三、新疆

【區域と名稱】 新疆は支那の西域にあつて、西は露領の中央アジアに接し、南は西藏及び英領印度に、東は外蒙古、甘肅、青海と境し、面積は西藏、青海等隣接地域との境界が判然せぬ爲めに、今尙ほ正確な數字は發表されて居ないが、大略一四二萬平方籽、人口約三五〇萬と推算されて居る。

嘗つてはトルコ系統の民族が幾多の小國を建てたる地域であつて、支那との關係は漢代に始めて其の屬國となつてからも、或は附き或は離れ、元の頃には察哈臺國ジャガタイに隸屬し、明代には強盛な什噶爾國ジュンガルが勃興する等、沿革一ならず、前清の乾隆年中支那の領土となつてからも、土民の叛亂屢々起り、又支那と露英兩國との間に境界問題を惹起する等、重大事件の續發に悩まされたので、遂に支那は光緒十年（一八八四年）回匪の大亂平定を機會に、此の地域に支那本部と同様に省制を布き、迪化を省城と定めて新疆省を設けたのである。蓋し新疆とは新に疆土に加はりたる意味で、外人が往々此の地を呼ぶにニュー・ドミニオンの名を以てするのも、全く之に基づくものである。

【地勢の大觀】 省の中央を東西に横斷する天山山脈によつて、山北の天山北路ジュンガル（準噶爾部）と、山南の天山南路（回疆）の二大部に區分される。天山北路の地勢は大體蒙古大高原の延長と見れば間違ひないが、之に

反して天山南路は、東南は崑崙山脈の大障壁によつて西藏・青海と境し、西南印度との間にはカラコルム山脈、西方露領トルキスタンとの間には天山山脈の根幹部が蟠屈して、夫々自然の境界をなし、之等の高峻恰も屏風を連ねた様な大山脈に圍まれて、寡雨乾燥、大部分は砂礫に掩はれたタリム盆地が横はる。

氣候は大陸的にして寒暑の差激しく、空氣は極端に乾燥して砂塵濛々、廣漠無涯の大平原は、滿目唯だ是れ砂礫不毛の地のみ多く、農耕に適する所は僅に山麓や河水の沿邊、或は沙漠中のオアシスにのみ限られる。唯だこゝに頗る興味のあることは、今日見る砂礫累々たる此の大沙漠も、古い時代には良好な牧場や農耕地をなし、中には繁盛な聚落や都市をさえ有したものが、年と共に沙漠の面積を擴大して、遂に現状の如き荒涼無慘の曠野と化し去つた事であつて、今も流沙の中に往々太古の朽柱殘器を藏する處あり、屢々大規模な學術探検隊が組織されて、砂を掘り柱を動かして、砂礫の間から貴重な壁畫類や古器の發掘されたことが少くない。

【住民と産業】 新疆の人口は約三百萬、或は四百萬と稱せられ、極めて漠然たる數字であるが、何れによるも一方籽の平均は約三人内外で、人煙頗る稀疎である。住民の種類は、此の地が古來支那と西域との文化の接觸地であつただけに、頗る多種多様で恰も人種博覽會の觀あり、漢人は其數最も多く、勢力亦最も大であるが、其他トルコ族、蒙古族、西藏族等あり、又ロシア籍の中央アジア人や、英吉利籍のインド方面のものも省内到る所に雜居して、商業或は農業に従事する。嘗つては東西文化の接觸點として、絢爛た



る佛教藝術の花麗らかに咲き誇りたることは、今日残存の遺蹟、遺物等からもよく推知される所であるが、然も星移り物變つて茲に幾千年、其の子孫達は全く何等の精氣も文化も持たない、唯だ貧窶の間に無爲の生を食うのみである。

住民の生業は農業と牧畜とが主である。農業は雨量が極端に乏しいので、農耕に必要な雨水の恩恵には十分に浴し得ないが、周圍に屏立する峻峰の多くは雪線以上に達して居るから、之等の山上には降雪の量が頗る豊富で、春夏の候には積雪や氷塊の溶解によつて、四面から溪流が迸り出で、山麓を潤うし、之が農業の發達には多大の便利を與へる。されば農業に従事するトルコ人や支那人等は、主として溪水を引いて灌漑を行ひ、坎井カンセイと稱する井戸を掘つて耕地を擴げ、此處に米、麥類、豆類、高粱、蕎麥、玉蜀黍、粟、稗等を栽培し、又葡萄、西瓜、梨、杏等の果樹を植ゑ、或は又棉を作り蠶を飼ひ、貧しい乍らも平和な生活營んで居る。殊に土質が果樹には頗る適して居ると見えて、哈密の西瓜と吐魯番トルファンの葡萄は共に美味良質を以て聞え、昔は毎年前清皇室への貢物として献上せられ、今も遠く天津、北京の市場に搬出されて、西域種として大に珍重されて居る。

牧畜は天山北路の地方を主として牛、馬、駱駝、驢馬、羊等の飼養多く、所によつては野生の馬、野生の駱駝さえあり、又野獸も其の種類が頗る多く、殊に大角の羚羊は世上の珍として名が高い。其他新疆省には又鑛物の埋藏が頗る豊富で、殊に金及び、石油は將來最も有望視され、嘗つて英國が此の石油を覘つ

て活躍し、支那との間に英支合辦の採掘計畫さえ傳へられた程である。

【新疆の政治】 新疆はソ聯領の中央アジアと、イギリスの勢力下にある西藏との中間にある爲めに、英露の間に久しく新疆の爭奪が行はれ、各々自派のものを援けて新疆の政權を握らせんとして、激しい角逐が續けられて居たが、遂にロシアの勝利に歸し、最近數年の間に頓にソヴェト色が濃厚となつて、英國政府は僅に南疆の喀什噶爾に總領事館を置いて、退嬰の勢力を支へるに過ぎず、政治的にも軍事的にもソヴェト官憲に支配されて、表面は支那の統制下にあるが、實際はロシアの傀儡として躍つて居る現状である。

元來支那から新疆に入るには、甘肅より入るか、外蒙古を横切るかであるが、甘肅からするものは途中人煙稀な難路の旅を續けねばならず、土匪の出沒連りにして道中は頗る危険であるし、又外蒙古からするものはゴビの沙漠を横ぎるので、駱駝の背を借りて三ヶ月もの淋しい旅を續けねばならぬ。

支那の方からの交通は斯うした不便があるが、之に反してロシア側からは極めて便利で、新疆の國境近くまでは鐵道があり、それからも更に河川があるので、直ちに西部の主要都市たる伊犁イリや塔城に入る事が出来る。随つて從來新疆に入るものは、大抵シベリヤ鐵道で中央アジアに出で、ロシア側から入るのが常であつて、此の自然の交通關係は自ら新疆とロシアの關係を密ならしめ、今日新疆貿易の約八割はロシアとの間に行はれ、又政治的にも露人の顧問が要路に就任せるものあり、兩者の間には種々の密約説も傳へ



られて、ソ聯の勢力は日一日と浸潤し、新疆は殆んど其の勢力圏内に收められたる状態である。

殊に近年滿洲國の出現によつて南下を阻止されたるソ聯は、最近日支事變の結果蒙疆地區の成立となり、ウランバートル—張家口間の赤色ルートをも遮断されるに至つたので、こゝにソ聯領中亞より塔城—迪化—哈密—蘭州—西安—成都—重慶への赤色ルートに力點を置き、只管之が構築經營に努めて來たが、一方蔣介石の重慶政權も皇軍の果敢なる進撃によつて、西南援蔣ルートを完全に遮断されたる以後は、専らソ聯依存の政策を採り、救命輸血路として全力を舉げて之が築造を助けたるを以て、今や全線完成し、坦々たる鋪裝路上には援蔣物資を山と積んだる幾千臺の自動車、潮の如くに往返し、随つて此の特殊なる軍事的經濟關係からも、新疆に對するソ聯の勢力は刻々として確立されて行くのである。

### 【主なる都邑】

【迪化(烏魯木齊)】 新疆省の首府で天山山脈の高峯ボクド・オラの西麓にあり、天山北路の要衝で交易の中樞をなす。市街は周圍に堅固な城郭を環らし、人口は通稱十萬と云はれるも、實數は四萬内外を出でない。一省中央政府の所在地だけに官衙、兵營、學校等の施設が皆備はり、街區頗る殷盛であるが、概して消費の都市で生産方面では殆んど見るべきものがない。住民はトルコ人、支那人の外ロシア籍の居留民も少なからず、ロシアの總領事館が設けられ、ロシアの銀行、商社も存し、又南門外には特にロシアの專管居留地がある。

商業は主として露領の中央アジアとの間に行はれ、物産としては獸皮、獸毛、藥材を主とし、附近からは多少の農産物を産し、又礦物には豊富な石炭の埋藏があるも、未だ開發されるには至つてゐない。

【伊寧(伊寧)】 天山北路の西部にある開市場で、前清の光緒七年(一八八一年)露清條約によつて、迪化と共に開市せられ、ロシアの總領事館が駐在して、城外には其の居留地もある。人口は四萬乃至五萬で、住民の種類は漢人、トルコ人、蒙古人、滿洲人、露人等雜多に亘り、恰も人種展覽會の觀を呈する。商業盛んにして物産には馬其の他の畜産、皮毛、穀類、林檎等あり、ロシアとの關係が頗る密接で、支那やトルコの商人も總て露語をあやつり、露文に通じ、商用語及び商用通信には大抵露語が用ひられる程である。

【吐魯番】 天山山脈の南麓驛路に沿へる都市で、人口約二萬、往時の回紇民族の根據地として知られ、又西域に於ける古代文化、特に古代佛教の跡を探るに重要な地である。附近は一帶に沃野で灌漑よく行届き、穀物は勿論棉花の産に富み、養蠶も行はれ、葡萄其他の果實も多く、又礦物には岩鹽や玉石、製造品には綿布、フェルト等があり、殊に葡萄は此の地方の名産で種無し葡萄は乾葡萄として各地に搬出される。

【哈密】 省の東部蒙古の境に近く、支那本部から新疆に通ずる官道に沿うた重要都市で、人口約二萬、住民はトルコ人が七割で、其他は支那人である。四面殆んど沙漠の様な廣漠たる原野の中に立ち、綠樹茂り、清泉甘美に、豐潤なる一大オアシスを成す。城は漢城と回城の二つあつて、漢城には哈密縣署や兵營があり、回城には哈密親王が居住する。哈密親王は昔の此の地の國王で、政治と宗教との兩權を一手に握り、清代には親王の稱號を許されて勢威並びなかつたが、其の後清國政府が官署を設けるに及んで政權を奪はれ、今は單に回教の一地方の教長たる地位を保つに過ぎない。物産には麥類、高粱等の外、葡萄、水瓜、梨等の果物に富み、殊に西瓜は當地の名産で、清朝時代には毎年朝廷に貢物とし



て献上したる程である。

【和闐】天山南路の南部、カラコルム山脈の北麓にある都市で人口約三萬、住民はトルコ族を主として漢人が之に次ぐ。風俗典雅にして一般に歌舞音曲を好み、遊惰に流れて新進の氣鋭に缺ける。文化は古く印度から之を傳へ、佛教も往昔此の地に盛大であり、隨つて之に關係する遺跡も亦多く、貴重なる出土品も少くない。附近の産物は穀物の外棉花、蠶繭、葡萄等を主とし、又羊毛、羊皮、野獸皮、麝香或は白玉、黒玉等あり、中にも玉細工は古來此の地の名産で、和闐玉器の名は天下に喧傳された程であるが、民國以來支那の需要が激減し、今は殆んど振はない。

【葉爾羌(莎車)】漢代の莎車國の地で、タクラマカン沙漠の西境に近く、タリム河の一支流に臨める大都市で人口約六萬、住民はトルコ人を主とし、漢人及び英露國籍の商人も少くない、物産は米、雜穀、棉花、果實、畜産等を主とし、製品には絹織物、燐寸、更紗等あり、又礦物には城南の玉山に産する玉を著名とする。商業盛んにして附近一帯の中心市場たるは勿論、遠く印度や中央アジアとの間にも隊商による通商が行はれる。此處からカラコルム山脈を越えて印度に來往する隊商道は、地球上最高の通商路として知られて居る。

【喀什噶爾(疏勒)】天山南路の西部にある開市場で、カシユガル河の兩岸に跨がり、南岸の漢城と北岸の回城とから成る。人口約七萬、支那の西域に於ける最大の都市で、商業頗る盛んに、古來東西文明の接觸地として知られ、今も英、露兩國の領事館あり、互に虎視眈々として政治上、軍事上に對抗の形勢を示す。住民はトルコ人、支那人の外、英露に國籍を有する商人も少からず、昔は九種の言語に對して夫々通譯を置きたる程で、今日も種族多種多様にして恰も人種の博覽會の觀がある。物産は穀物の外棉花、繭、

羊毛皮、果實等あり、生絲、絹織物、繰綿等の製造品も多く、又附近に包藏さるゝ石油は將來の大資源として特に注目されて居る。

#### 四、青海

【區域と地勢】支那全土の略ぼ中央にあつて、北から東にかけては甘肅省に、南は四川省及び西康省に、西は新疆省及び西藏と境する。面積、人口共に的確な數字は擧げられないが、大體面積は我が國の全土に匹敵し、然も人口は僅に一〇〇萬内外で、平均密度は一〇〇方斤につき約一五人と云ふ、誠に人煙稀疎の淋しい所である。

地勢は城内の略ぼ中央部を西北から東南にかけて、崑崙山脈の一支脈たる巴顏喀喇山脈が蜿蜒斜に連つて、黄河の上流地域たる北部と、揚子江の上流水源たる南部の二大部に分ける。一帯に廣漠たる大高原で青海の湖面ですらも海拔三二〇〇米と稱せられ、四境を概ね峻嶺に圍まれて、内部は殆んど準沙漠地の形貌を備へて居る。省の東北部に湛へたる青海は周回約五〇〇斤、水は稍鹹味を帯び、藍碧の色濃くして實に青海の名に背かず、湖畔は翠巒鬱蒼として風光頗る明媚に、人跡稀れなる僻遠の地に、此の湖特有の無鱗魚を群棲せしめ、詩と傳説の世界に靜かな姿を止めて居る。其他青海には鹽水系の湖沼も少くない。地方の住民は湖底に沈澱結晶した鹽盤を杓で掬ひ上げて、袋詰めとして運んで居るが、鹽質も良好であり量も頗る豊富であると云ふ。海洋を遠く離れた邊土の住民にも、此の生活の必需品を偏頗なく分配する天



の配劑、誠に妙趣を極むと云ふべきである。

【住民と産業】 住民は蒙古人が最も多く、主とし遊牧に従事し、其他土着の蕃族や西藏人は南部地帯に、又漢族は主として北東部の西寧附近に住む。風俗は一般に慍悍粗野であるが、一方又極めて純朴で義理堅い所あり、山國に似合はず他國人にも甚だ親切である。畜糞と黄土の混合物で、圍壁を塗つた家屋の中に住むものもあるが、大抵は蒙古式の包生活を營み、強烈なアルコールを嗜飲して嚴冬の極寒も平氣で凌ぐ。支那人は一般に洗面にはお湯を用ひるが、此の地方では山地だけに結氷期以外は水量が豊富で、然も其の水質は頗る良好であるから、日本人と同様に必ず冷水を以てすることは面白い。

住民の産業は牧畜と農業が主で、殊に牧畜の爲めには青海湖邊や其の西の柴達木盆地には、天與の廣大な草地があり、夏季綠草の萌え出づる頃は、海拔四千餘米の高地に至る迄放牧に適し、又冬も降雨が少ない爲めに大して困らない。家畜の種類は緬羊、牛、馬、駱駝、犂牛等で、中にも緬羊は其の數最も多く、其の羊毛は品質優良夙に支那第一と稱せられ、又馬は青海草地に産するものは頗る優秀の名あり、駱駝も主として柴達木盆地に養はれ、其の毛は輕柔で氈毯を製するに適する。其他青海には狐、狼、水獺、羚羊、野兔等の毛皮獸が夥しく棲息し、土人は其の不完全な罾や銃器を以てしても、尙ほ冬中に於ける狩獵の收入が、正業の牧畜よりも多いことがあると云ふ程である。

農業は西寧附近を主として高粱、麥類、蕎麥、豆類が栽培せられ、又山野には大黃其他の藥材や茸類が多く、湖河中には魚族が頗る豊富で、殊に青海の無鱗魚サマニは最も著名であるが、漁獲は殆んど行はれて居ない。

#### 【都 郡】

【西寧】 青海は土地廣く人煙稀れに、生産亦さして見るべきものがないので、都邑も西寧の外は特に擧げる程のものがない。南京政府は民國十七年(昭和三年)、此の地邊膨大、交通不便の漠々たる曠原に、甘肅省の西部數縣を併せて勇敢にも青海省なる省名を附し、中央政府の統制下に置いたが、もとより中央の威令容易に行はれず、今も多くは各地方旗族毎に、部分的な多少の統率を見るに過ぎない状態である。然し青海の曠野も土壤必ずしも碓确の處ばかりではないので、事變前中華民國政府では之が開墾に關して深く期する處あり、屢々土地の測量を行つて只管開發の手を伸べんと腐心して居た程である。

西寧は青海省の首都で人口約六萬、昭和三年本省の成立するまでは甘肅省の所屬であつただけに、市内には漢人の定住するものが多い。甘肅の蘭州から西藏の拉薩に通ずる青海唯一の横斷路の要地に當り、隊商によつて運ばれる獸毛、獸皮或は金、鹽等の集散多く、古來支那西邊の要鎮として、西寧古城には今も猶ほ華麗な天主閣が残されて居る。

#### 五、西 藏

【地勢の大觀】 秘密の國西藏は「山岳と喇嘛」の世界である。地勢は世界の屋根と云はれる一帯の大高原



で、海拔四〇〇〇米から五〇〇〇米の部分が多く、全地域の半ば以上は海拔約四五〇〇米で、略ぼ我が富士山の上に筑波山を重ねたものと同高度にある。而もヒマラヤ、トランス・ヒマラヤ、カラコルム、崑崙等の大山脈は、バミル高原を本據として此の高臺を西から東に走り、到る處に峻峯を崛起せしめて居るのであるから素晴らしい。殊に南境を劃する世界最大のヒマラヤ山脈の如きは、延長實に三二〇〇軒餘、平均の高度は六〇〇〇米を超え、就中八〇〇〇米以上に達する高峯のみにも優に四〇座に上る。紺碧の空に聳ゆる雪白の連峯は、鋭く削磨されて山骨稜々、恰も一大氷山の陸上に浮び出でたるが如く、強烈なる太陽の光に彩られて刻々に移り變る其の神秘的な色彩と情趣とは、誠に壯觀美の極致であると云ふ。

其の最高峯エベレストは高さ八八四〇米、恰も我國の最高峯新高山(三九五〇米)を二つ重ねて、其の上更に筑波山を載せたる高さに匹敵する。白雪を戴き雲を裂いて、高く天空に聳ゆる其の勇姿は誠に崇高無比、人をして大自然の偉大なるを讃嘆せしめる。山の靈氣と神秘とは、冒險と探奇に満てる幾多の山嶽家にとつては限りなき魅惑であつて、我こそは此の偉大なる處女峯を征服せんものと、年々歳々大仕掛けの登山隊が組織されるが、未だに此の嶺の秘密を探り得たものはない。昭和十一年十月我が立教大學のヒマラヤ登攀隊が見事に征服して、山頂高く日章旗を翻したナンダ・コット峯は標高六八七二米、同じく前人未踏の峻峯である。

斯うした大山脈に圍まれた世界最高最大の西藏高原の内部は、またトランス・ヒマラヤ山脈の連屏によつて南北の二部に分れ、北部は土人の所謂北方平原<sup>チヤンガン</sup>地域で、雨量少なく樹木稀れに、概ね砂礫其他の風化成生物に蔽はれて地産に乏しく、僅に遊牧の西藏族や狩獵を業とするトルコ族が出没するのみ、大部分は沙漠性の無人の曠野である。

然し之に反して南部西藏は、主として印度に注ぐブラマプトラ河やインダス河の上流、世界最大の溪谷地域で、所によつては松・樅等の千古の美林が、雪白の雄峯を背景として立ち連なる所あり、到る處に定住の西藏族が農耕に従事して、首都拉薩を始め都邑も多く、實に西藏の樞域をなして居る。

【住民と産業】 西藏は疆域約一二〇萬方軒の中に、住民の数が大略二〇〇萬と推算されて居るので、一方軒につき平均一・六人餘に過ぎず、誠に人煙稀疎の處である。蓋し世界最高の位置にある高原地帯で、空氣が稀薄であり、氣候が大陸的で地産が乏しい上に、僧侶生活の爲めに獨身者が多く、又衛生状態の不良、醫療の不發達、加ふるに一妻多夫の陋習さえある程であるから、將來も大して人口増加の見込はない。

住民の生業は北部では専ら遊牧が行はれ、南部の溪流地方では主として農業が營まれて居るが、元來地形、氣候、文化の程度、人口密度、或は不生産的な僧尼の多いこと等から考へても、産業の發達に多くの望みをかけられる土地でない事が判る。

牧畜は住民の半數が従事する第一の産業で、草原廣く空氣乾燥して放牧には適するが、地味が瘠せて牧草が悪く、更に其の飼養法が極めて原始的で、冬の寒さにも牧舎を造らないので家畜の品質が悪く、又酷



寒の爲めに凍死するものが多い。家畜としては犛牛と羊が主で、殊に犛牛は體質強健、馬も駱駝も役に立たぬ山また山の峻路に於ける貨物の運搬に用ひられる外、其の肉は甚だ美味で食用に供せられ、革は靴其他に用ひ、毛からは織物を作つて天幕或は被服とし、乳は直接飲料となり、又バター、チーズ製造の原料となる等、之等住民にとつては最も重要な財産である。

農業は東部及び南部の谷地に限られて、耕地面積が狭いのと、夏が短かく且栽培法が幼稚なので、麥類、粟、大豆、玉蜀黍等が栽培されるが産額は極めて少なく、主に南隣のネパールから輸入する。鑛産物は金、玉、食鹽等の埋藏頗る豊富なるが如く、殊に金は徳川時代には西藏金と稱して、我が國にも輸入された程であるが、土人は産地を秘して知らせないので包藏の程も判らないと云ふ。

商業は地方にあつては物々交換が行はれ、都市では普通の賣買業が営まれる。遠地との取引は多く隊商によつて行はれ、貿易は印度との間が主で、多く獸毛、獸皮、藥材、線香、家畜、鹽等を輸出し、茶、食料品、綿・毛・絹の織物類、雜貨、金屬製品等を輸入する。

#### 【西藏の政治】

世界の秘密境として知られる西藏はイギリスの勢力圏で、ローマ法王にも似たる達賴喇嘛に支配されて居る。彼は宗教的に盲目な西藏人からは、觀音菩薩の化身として崇敬されて居るのである。常に政・教の兩權を掌握し、彼の下には總理大臣があり又大小の兩會議があつて、外交等の重大事件は總て夫れ等と協議

の上で決せられる事になつて居るのであるが、獨裁權が頗る強く、内大臣を経て直ちに自己の思慮を行ふ事も屢々である。

イギリスは巧みに達賴喇嘛の勢力を支持しながら、實質的には西藏を半保護國然と取扱つて居る。元來西藏には達賴喇嘛の外に後藏地方を本據として、阿彌陀佛の化身として崇拜され、政教兩面に強い權力を有する班禪喇嘛があり、兩者は常に相争つて居たが、英國政府は第十三世達賴喇嘛を擁して其の勢力の伸張を助けたので、親支派であつた班禪喇嘛は強壓に苦しみ、暗殺を恐れて支那本土に逃れ、大正十四年には陝西省を経て北京に着し、次いで上海・漢口・奉天等を放浪し、昭和十一年以後は甘肅・青海の境域に去つて、只管西藏入りの機會を窺つて居たが、未だ其の實現を見ざる中に先年客死した。

當時國民政府では班禪喇嘛を慰撫して西陲宣化使に使命し、國民政府委員に擧げて西藏保持の對抗策を講じて居たが、久しく培はれたる西藏の親英的空氣は、其の特殊なる地理的關係と相俟つて、一寸手の着け様がなかつたのである。

既にソ聯邦の勢力は蒙古から新疆へと深く浸潤して居るので、其の南下を喰ひ止める必要からも、又ネパール其他の邊境國に於ける通商經濟政策を確保する上からも、イギリスとしては是非とも西藏を其の勢力圏内に収めて置かねばならぬ。由來一氣呵成に物事を運ばないで、寸進尺歩、然も絶えず目的達成の爲めに努めるのが英國の慣用手段である。今や印度との間に電信線の開通を見た。自動車道路が築造され



た。英國留學の新人が政府の要路に就任した。國境を越えて鐵道は將に敷設されんとして居る。斯くて支那と絶縁して獨立の形をとれる西藏は、英吉利の後援を待み、英吉利亦之に乗じて勢力扶植に汲々として居るのが今日の實情である。

事實交通關係から見ると、支那と西藏との交通は非常に不便であるが、印度との間は比較にならぬ程便利である。北支那或は蒙古から拉薩に至る拉薩・西寧街道は一八五〇軒、犂牛隊商で一〇八日、馬では其の半分の日數がかかる上に、途中八〇〇軒は連續した無人の曠野で、兇暴な蕃人剽盜の出没の怖れあり、又打箭爐街道は四川から巴塘、拉里等を連ねて拉薩に達する官道で、其の間約一六〇〇軒、二ヶ月の日子を要し、途中には困難な峠が多い。然も之に反して拉薩・ダーズリン街道は長さ約六〇〇軒、途中ヒマラヤの嶮はあるが、犂牛でも僅に二週間で達せられる程であるから、勢ひ經濟的にも印度との交通が頻繁になるのは當然で、随つて政治的にも英國との接近は自然の成行であらう。

**【主なる都邑】**

**【拉薩】** 今から一三〇〇年の昔吐番の都と定められた古都で、現に祕密の國西藏の首都として榮え、法王の宮殿と中央政府とがある。市街は藏布江の一支流曲水の谷に位して、海拔三七〇〇米の高地を占め、四面には高峻な山を繞らす。山には矮草と灌木しかないが、山嶺に續く高原には楊柳の森が點在し、又冬の間は都と云はず山と云はず、白雪に包まれて居るが、盛夏の候ともなれば山腹から麓にかけて草木が綠を

競ふ。

郊外の丘上にある達賴喇嘛の王宮布達拉宮殿は、第十七世紀の末葉第五世法王の建造にかゝり、壯麗無比、全喇嘛教徒崇仰の中心である。山巖に倚つて空際に屹立する事約五〇〇尺、其の白皚々たる堅壁は、天を摩する金蓋と照り映えて美觀言語に絶し、遠く羅馬のツァチカン宮殿と並び稱せられる。此の城の特色は城砦を兼ねて佛殿、靈廟、寶庫、伽藍、官舎等も併せ設けられたる事であつて、廊下には美しい朱塗りの柱が並び、綠色の天井には色彩華かに彫刻せられた梁が横はる。拜殿の上壇に安置された純金造りの觀音像、彫刻巧緻を極めた靈廟の門扉、絢爛たる壁畫、大理石を敷きつめたる如き床等、華麗壯絶人の目を奪ふ。宮城地域の全周約一軒半餘、觀音菩薩の化身を以て任ずる歴代の達賴喇嘛は、此の豪華類ひなき宮殿に常任し、政治、宗教の兩權を握つて全藏に君臨する。國內に三千の寺廟と五〇萬の僧尼を擁する、喇嘛教全盛の西藏に於ける達賴の素晴らしい勢力は、實際此の地を踏んで親しく眼で見、耳で聞いたものでなければ判らないと云ふ。

宮殿の附近には僧房が多く、宮内の住僧約一萬、之に附近のものを合はすと約二萬に上ると稱せられ、喇嘛僧は拉薩の全人口約四萬の半ばに達する。市街の建築物は多く石疊みのもので、二、三層樓が多く、大抵は塗るに白堊を以てし、遠くより之を望めば極めて美觀を呈するも、眼のあたり街頭を望めば不潔汚穢言語に絶すると云ふ。達賴の富裕豪華に較べて、一般土民の日常生活は似もつかぬ低級貧困なものであ



る。

## 【日喀則(札什倫布)】

西藏第二の都市で人口約二萬、後藏の首都で海拔約三五〇〇米の高臺に位するが、附近には沃野が相連つて小麥其他の農産物に富む。古來宗教、軍事、商業の中心地で、多量の羊毛を輸出して、印度方面から各種の織物、雜貨等を輸入する。喇嘛教黃教の副王たる班禪喇嘛の宮殿札什倫布廟は、市街の西南方に存し、住僧常に六千の多きに上る。山腹の斜面に建てられた幾百とも知れぬ僧房と、數重の伽藍は壁を接して相連り、層樓の屋蓋は互に相重つて、恰も一つの市街の觀を呈する。殊に本廟の大伽藍には五基の金屋燦然として日光に輝き、紅紫の法衣を纏つた數百の喇嘛僧の出入絶えず、後藏に於ける佛教弘通の中心地たる隆盛を示す。

班禪喇嘛は達賴喇嘛と共に西藏に於ける二大活佛で、何れも喇嘛教徒の崇信おかぬ大法王であるが、達賴が西藏王國の主權を掌握するに對して、班禪は單に一部の領土權を有するに過ぎない。

## 【江孜】

西藏第三の都市にして人口約一萬、拉薩、ダージリン街道の要地を占め、郵便物はダージリンから僅に五日で届く。印藏通商上の關門として物資の集散夥しく、イギリスは此處に印藏貿易に關する商務官を駐割せしめ、護衛軍を置き、又電信、電話を敷設して印度との連絡を計つて居る。市街の中央をなす巖丘上には、第十四世紀頃の築城に於ける江孜城あり、今は縣城として政廳に當てられ、約一千の常備軍を統率する司令官が駐在し、又其の西北郊外にある喇嘛の大寺は、常住二千の僧徒を有して、此の國有數の大寺として知られる。

## 【亞東】

西藏の南端にある開市場で、英領印度に近く、拉薩・ダージリン間の交通路に沿へる都會である。前清の光緒十六年(一八九〇年)英國に對して開放せられ、印藏貿易の最前線地として、西藏からの輸出は羊毛、羊皮、家畜を主として外に獸皮、麝香、硼砂等あり、印度からの輸入は茶、織物、食料品、雜貨等を主として取引が盛んに行はれる。

## 第三章 南洋

## 概説

アジア大陸の南東部に突出せる印度支那半島と、其の前方海上に碁布羅列せるマレー諸島とを合せた、東西凡そ七千軒、南北約四千軒に亘る廣い地域が、吾等の今より説かんとする南洋である。

其の位置が日本と近い上に、海上には眼にこそ見えぬ勢ひ侮り難き海流不斷の流れと、季節による海風自然の連絡があるので、我が國との關係は古くより可なり密接に行はれて居た。

現に日本人の風俗習慣の中には、南洋地方と共通なものが少くない。明治の初年頃迄は日本の婦人は結婚すると唇に紅をつけ、齒を黒く染める習慣があつたが、此の涅齒の風習は南洋の婦人が檳椰子を嚙んで唇を赤くし、齒を黒くして居ると頗る相似て居る。男が禪を締め、女が腰巻を纏ふのも、又男が脚を組んで跌座をかき、女が膝を揃へて正座する風も、南洋土人の夫れと共通である。日本固有の家屋が屋根の形などは勿論、或は床下を高くし、窓(雨戸)を廣くして、専ら防暑的に構成されて居るのも、日本服が寛濶無類、頗る防暑開放的に作られて居ることも、或は又日本人の食物が穀物野菜等主として植物性のものであることも、凡て考へ様によつては南洋地方と一脈相通するものがある。其他古い武器を較べて見ても、相似たる所が甚だ



多い。天狗と云ふ鼻の高い人間が住んで居たと云ふ傳説は、今も到る處で日本の子供を怯えさせて居るが、之も南洋の假面を調べると日本と同じ様なものが澤山あつて、それが象の鼻からヒントを得て工夫されたのであると云へば成程と首肯される。斯くの如く擧げて來ると日本は餘程の大昔から、南洋との間には深い關係があり、住民の來往も亦頗る頻繁であつたことが察せられるのである。

三代將軍徳川家光が鎖國令を出して國民の海外渡航を嚴禁する迄は、日本人の南洋發展はなかく盛んであつた。殊に戰國時代には群雄が各地に割據して覇を争ひ、弱肉強食の血腥い争ひを繰返して居たので、悲しくも城を奪はれ、主君を失ひ、浪々の憂き年月を悶々の裡に過しつゝあつた不平の武士達は、日本の狭い天地に見切りをつけ、蒼波萬里の海外に新らしい活動の天地を拓かんものとして、俠商と相結んで盛んに南洋方面へと進出したのである。

泉州堺の豪家魚屋助右衛門は天正の末年ルソンの太守を脅かして、日本人の意氣を示し、長崎生れの剛者津田又左衛門や駿府の山田長政等は、慶長の頃シャムに於て武勇を顯はし、播磨高砂生れの天竺徳兵衛は寛永年間屢々シャムに渡航し、南海を家として海國男子の本領を發揮した。到る處に日本町は建設せられ、豪商巨富は軒を並べ、或は王女を娶るものあり、高位高官に昇るものあり、内質實にして節義を尙び、外剛健にして武辨を棄てざる其の士魂商略は、深く士民の信用を博して、日本人の勢力は各地に根強く植付けられて居た。若し彼の峻嚴苛酷を極めた鎖國令さえなかつたならば、海國日本の本領を愈々發揮して、南洋の諸

島や半島の大部は或は日本の領土となつて居たかも知れぬ。惜しや鎖國二百年の夢醒めて、眼を海外に放てば何時の間にか我が先人活躍の天地は、悉くが白人侵略の餌食として、分捕功名勝手次第に荒されて居た。今日約三萬人程の日本人が移住して、成は漁撈に従事し、農業を經營し、又は商業を營んで、熱帯烈日の下に着々地盤を固めつゝあるが、我物顔に振舞ふ白人の横柄さや、支那華僑の暴慢振りを見せつけられる度に、華かなりし先人發展の昔を偲んで、誠に感慨無量なるものがあるに違ひない。

今や支那事變と云ふ世界的な大試練を體驗したる日本は、世界國際情勢の急激なる變轉に鑑みて、愈々皇道の大精神に則り、日滿支を根幹として、更に遠く南洋をも包括する大東亞共榮圈の確立を以て、不動の國策として進出することゝなつた。陽光直射する常夏の南洋、先人活躍の故土に皇道を宣布して、東洋永遠の平和を確保せんとする輝かしき昭和の大御代に生れ合せ、此の大理想達成の爲めに微力を捧げ得ることは、誠に當代日本國民の此の上なき誇りであり感激である。

## 第一節 佛領印度支那

### 一、位置と面積

印度支那半島の東部を占めてS字狀を呈し、北は支那の廣西、廣東、雲南の諸省及びビルマに境し、東及び南は南支那海及びタイ灣に臨み、西はメコン河及び其他の水流關係によつて定められたる不規則なる境界



線によつてタイ國と境する。

交趾支那、カンボヂヤ、安南、ラオス、及びトンキン等の諸地域を總括する其の面積は約七四萬方呎にして、日本の全面積よりは六萬五千方呎も廣く、佛蘭西の本土に較べて約一倍半、佛蘭西植民地總面積の六・二%に當る。

其の國名が示す如く支那と印度の中間に位して、古來兩者の陸路交通には此の土を通過する事が多かつた様で、現にラオスの山奥には我が平城天皇の皇子にして、嵯峨天皇の皇太子にあらせられた高岳法親王の御骨が埋められてある。

### 【高岳法親王】

親王は藥子の亂によつて薙髮され、其の名も眞如法親王と法名を宣らせ給うて、御年十二歳にして南都東大寺に入り佛法を究めさせ給ふたが、後入唐求法の御志止み難く、御年五六歳の貞觀六年御入唐、二年の間御研鑽の後更に渡天の雄圖を抱かせ給ひ、同八年（一五二六年）單身廣州を出で、道を安南にとり、瘴癘變雨の地を踏み、印度を目指して求法の旅に上らせ給ふた。然る處其の後親王の御消息は杳として絶えて仕舞つたが、爾來十五年の後僧中瓊の上書によつて、御悼はしくも親王には一五四〇年御年七二歳にして、ラオスの僻地に尊き御生涯を終らせ給ふたことが判つたのである。誠に金枝玉葉の御身を以て、ひたむきな眞理御探求の御志から瘴癘の氣漲る蕃地深く分け入り給ひ、遂に玉骨を天涯の地に埋め給ふたことは、眞に恐懼感激の至りに堪へざる處である。

佛印の位置はまた新東亞の建設に邁進しつゝある帝國の、國防上に重大なる關係がある。

### 【日本の國防上より觀たる佛印の位置】

今より約三〇餘年前の日露戦役に際し、佛蘭西は佛印の東南海岸にあるカムラン灣を、バルチック艦隊最後の集合地として提供した。海洋萬里の露國艦隊は同港に於て、ネボカトフ少將麾下の艦隊と合同して戦備を整へ、乗員に休息を與へ、愈々最後の對日侵寇作戦を練つて堂々舳艫相啣み、東支那海へと乗出して來たのであつて、當時我が國民は上下を擧げて痛憤措かざりし所である。

爾來佛印は其の位置的關係からイギリスの對日進攻作戦上に、常に重要な役割を承つて今日に及んで來た。即ち其の全海面が新嘉坡から香港に通ずる航路に直面せる處から、イギリスの東進政策上利用の價値が頗る大である上に、殊に昭和十三年海南島の東方海面に存在する西沙島を、佛蘭西が撞に占領して佛領と宣言したる以後は、カムラン―西沙島間三五〇哩、西沙島―香港間三八〇哩と云ふ新しいルートが出来上つたのである。一朝有事の日佛印に多數の有力なる航空基地を設け、前面海上の諸島と相呼應したならば、英艦隊は北上航路の兩側を安全に防護し得ることとなるので、作戦用兵上の利益は誠に計るべからざるものがある。

さればイギリスにとつては佛印が其の敵國によつて占據されることは、其の前進防衛上の一大脅威を招來する所以であつて、是れ即ち從來イギリスが佛蘭西政府に對して、或は日本軍侵略の脅威を説き、或は又自國伸展上の優先權を主張する等、恫喝と懷柔を繰返へして現状維持に努めしめ、常に其の利用價値を失はざる様に腐心し來つた原因である。

然し飄つて之を日本の立場から觀察すると、我が南進發展途上にある此の地に、新東亞建設に反對する敵性國家の存在することは、支那事變處理の上からも、又國防上からも到底容認し得ざる處である。更に今日の日本は、過去の日本とは全く面目を異にする。三〇餘年前敵艦隊の來寇に戦々兢兢々、不安と焦燥の裡に待ち悩まされたる日本も、今や世界的大試練の幾年を経て、海南島は占領する、新南群島は領有する、航路をいよ／＼南方に伸べて、大東亞共榮圈確立の



理想へと着々乗り出して居る。此の時に當つては、我が行手を阻む如何なる勢力の存在をも斷じて許さない。然も東南アジアの地域は、南太平洋上の各島嶼を包含したる地域と共に、同じく共榮圈内にあり、且つ日本にとつては經濟的にも國防資源的にも、死活的な重要性を持つ所なるに於てをや。

## 二、地 勢

北方ソンコイ河の流域地方より成る北部平野と、南方メコン河の流域地方を占むる南部平野、及び其の中間に位して、安南山脈の連亘する中央地方の三部に分つ。

メコン河は西藏高原に源を發し、印度山系に沿うて南流し、下流は幾多の分流を出して南支那海に注ぐ。全長約四二〇〇浬、水流急なるが爲めに舟運への貢献は少ないが、海岸より凡そ三二〇浬のカンボヂヤの首都プノンペン迄は、四季を通じて船舶の溯航が可能である。

ソンコイ河は源を支那の雲南省に發して南東に向ひ、河口に廣大なる三角洲を作つて東京灣トシヤンに入る。全長約八〇〇浬、ラテライトと稱する赤土地方を洗つて流下する爲めに、河水は年中恰も紅殻を溶いた様に赤濁し、ソンコイの名も「紅い河」の義である。中流以下は舟運の便あり、佛國の南支進出の要路として重視せられ、ハノイから雲南の昆明に達する滇越鐵道は、此の河に沿うて敷設せられたる部分が多い。

南北の兩平野は何れも悠久幾萬年、季節風に運ばれたる多量の雨が、上流の山骨を削つて濁水滔々、河畔に沈積せしめたる沖積土より成り、地味肥沃にして農業が盛んに行はれる。其の殆んど總てが水田で、一望

萬頃の大沃野は稻の生長に伴れて眼路の及ぶ限り、或は一面に敷き詰めたる青疊の世界となり、或は又種々たる黄金の海を現出し、其の壯觀は狭い日本の内地では全く想像も及ばない。

中央部の地方は土地礧礧にして沃土少なく、殊にラオス地方の如きは山岳重疊して、行人を阻む所が少くない。漠々たる雲霧が山峽を立て籠め、瘴氣漲る處虎豹の咆哮物凄く、交通不便にして土民以外には、殆んど人跡未踏とも云ふべき有様である。

海岸線は其の延長約二七〇〇浬、此の海岸線に沿うて古來支那の勢力が南進し、支那の文明と、支那式社會制度に基づく安南國が建設せられたのである。

東京灣とタイ灣は其の灣入が特に著しいが、安南の中部沿岸は山脈直ちに海岸に迫つて斷崖絶壁多く、到る處に深澳が存するも良港灣は發達せず、往年日露戰爭の際バルチック艦隊が炭水積取りのために寄港して、物議を醸したるカムラン灣の稍著しきを見るのみである。カムラン灣は灣入深くして風浪を避くるに適し、灣内紺碧の水深くして大船を入れるに至便な上に、附近一帶の地層は花崗岩より成るが爲めに爆撃に堪へ、又灣の北部には大きな潟を控へて水上飛行機の根據地としても眺へ向である。昭和十四年二月我が國の海南島占領を機として、フランス朝野の印度支那に對する關心が急速に昂まり、政府は遽にカムラン灣の軍事施設強化に乗り出し、完成の曉には新嘉坡、マニラと相並ぶ重要な極東の軍事的基地として豫想されて居たが、第二次歐洲大戰に於ける本國の敗退から、今は沙汰止みの儘に過ぎて居る。



東京灣の西北端には石灰岩及び大理石から成る小群島が、海水に侵蝕されて奇景絶勝をなす所がある。紺碧の海上には奇岩怪嶼が到る處に林立し、或は動物の姿態をなすものあり、或は什器の形をなすものあり、我が國の松島に似て更に趣は雄大で、誠に絶好の銷夏遊樂の地として自ら東洋第一の景勝と誇つて居る。尙ほトンキン灣には鱻の棲息するものが多く、採獲されたる此の怪魚は、支那料理中の珍味鱻の鱠の原料として盛んに支那に送られる。

#### 【佛國の西沙群島占領】

西沙群島は海南島の東南にある一群の珊瑚礁島で、印度支那と香港を結ぶ交通上の要路に當る。

元來支那の領土で、十數年前から日本人も此の地に渡航し、海藻及び燐礦の採取に従事して居たが、其の位置が佛印から容易に飛行機で到達し得る範圍内にあるので、同島が他國の手に歸することは、佛國にとつては戰略上重大問題であるとの底意から、海南島一帯に於ける日本軍の進撃が活潑となるや、佛國は俄に昭和十三年七月同島の占領を敢行し、「西沙島は元來十九世紀の初頭舊安南王國の手によつて占領されたもので、爾來安南王國の屬領となつて居る。最近佛國政府は西沙島沖の航海の安全を圖る爲めに、同島に恒久的な燈臺と氣象觀測所を建てたので、少數の安南人警官を派遣して保護に當らせて居るのである。」と、當然の事の様に詭辯を弄し、火車泥式に自領なる旨を世に公にしたのである。

日本は其の不法を責めて直ちに抗議し、「同島は明瞭に支那の領土で、從來佛支兩國の間に係争中のものである。隨つて紛争の解決前に、右群島を勝手に占領するが如きは、全く其の眞意を了解するに苦しむ。帝國海軍は南支沿岸に對する交通遮斷を實施して居るので、日本政府では將來右實施上に必要ある場合、又は帝國臣民の同島に於て有する事業上の權利保護の爲めに必要とする場合には、夫々適當なる措置を執るものである」と、同島に關する佛國の行動を遺憾とする旨の覺書を交付したのである。

### 三、氣候

全土熱帯にあるを以て炎熱甚だしく、又季節風の影響によつて年内乾濕の二季に分たれる。

乾季は毎年十一月から翌年の四月迄の間で、連日殆んど降雨を見ず、氣候も概ね爽快であるが、之に反して五月から十月に至る間の雨期には一般に雨量頗る多く、氣温亦甚だ高くして健康に適せない地方もある。

然し更に仔細に觀察すると、(1)土地が南北に長いこと、(2)東海岸に平行して一大彎曲線をなせる安南山脈が、氣候及び降雨の分配に多大の影響を及ぼせること等から、各地に於て相當の相違が認められる。即ち交趾支那では一年を通じて暑熱一様の常夏の状態で、且濕氣が甚だ多い關係から歐洲人の健康には頗る不適當であるが、トンキンに於ては夏の暑い時には三十七八度の高温に上るも、十二月から二月頃迄の冬の間は日本の三、四月頃の氣候となり、土人は單衣を着て震へて居る程で、歐羅巴人は此の冬の間夏の疲勞を恢復することが出来ること云ふ。安南も年中暑氣は甚だしいが、海に接近して軟風に緩和されるので、歐洲人の居住は交趾支那に於ける程苦痛ではない。

### 四、産業

佛領印度支那を資源的に見ると農、林、水、鑛産が頗る豊かで、フランスが最大の寶庫として、之が確保に邁進して居る理由が頷ける。



先づ佛印では暑くて雨が多い上に、平地は地味が頗る肥沃なので、農業が盛んに行はれて、我が國で見ると様な水田風景が到る處に開けて居る。米の年産額約七〇〇萬噸、全土年二回の收穫があるが、殊に北方のソンコイ河の流域に産する東京米と、メコン河流域地方より産出する西貢米とは共に其の名高く、國內消費の餘剰は或は日本に送られ、又はマレー土人に供給される等、盛んに國外に輸出されて、其の金額は毎年此の國全輸出額の五〇%以上に當る。

此の外棉花、甘蔗、煙草、コーヒー等の農産物あり、未耕の原野もまだ／＼廣く残されて居るが、從來は極端な烈日から猛烈な排日が續けられて居た爲めに、日本人は手も足も出せない状態で、沃土徒らに夏草の茂るに任せたるのみ、見渡せば空には眞鶴、鍋鶴、或は五位鷲、ペリカンの群れが飛び交ひ、水邊の彼方には八重の紅蓮が白露を轉ばす處、悠長な安南土人が昔ながらの農法によつて、徒らに地力を消耗しつゝあるのは誠に惜しむべきである。

其他ラオスの山中には船舶用の堅材チーク林が繁茂し、又近年フランス政府の保護下に佛人のゴム栽培に投資するものが多く、椰子實、胡椒、果實類等と共に重要な財源をなす。

動物には牛の牧畜が甚だ盛んであるが、尙ほ象も家畜として廣く飼養される。又山地には野象が群をなして彷徨し、夜は豹や獅子の出沒あり、時には人里を襲撃して家畜を奪ひ去ることも稀でない。嘗つて鐵道や電線を敷設したる當初には、象の爲めに鐵道のレールが壓し曲げられ、又電線が數里の山奥へ曳き摺られて

居たことも再々あると傳へられる。

鑛業は石炭を第一として、鐵鑛、錫、亞鉛、タングステン等の産出も多く、我が國へも輸入されて居る。就中石炭は年産約二〇〇萬噸、其の六〇%以上を産出するトンキン灣岸のホンゲイ炭山は、炭層の長さ約一八〇呎、深さは五〇乃至一五〇米、海に面して輸送が頗る便利なので、抗夫達は青空の下に鶴嘴を揮つて、盛んに優質の無煙炭を掘り起し、直ちに船に積んで海外の各地に送る。我が國はホンゲイ無煙炭の大得意先なのである。尙ほ佛印の鑛物埋藏については、未だ完全なる調査が行はれて居ないので的確な事は判らないが、トンキン地方には鑛物資源が多量に埋藏されて居る見込で、之が今後の開發には多大の期待がかけられて居る。

工業は斯くの如く豊富な材料を擁して居るにも拘らず、甚だ不振の状態にして、纖維工業の稍々著しきを除けば、セメント、製粉業等が行はれて居るに過ぎない。

フランスの佛印統治上に於ける強權抑壓の方針は、經濟政策の上にも鎖國的、排他的主義となつて現はれて居る。即ちフランスは領内に外國勢力の侵入することを極端に嫌惡し、土人の利益を無視して、外國資本及び製品を飽迄排撃する政策に出で、居るので、随つて此の寶庫佛印の開發は、殆んどフランス資本のみによつて遂行されて居る現狀である。恐らく我が三井、三菱の兩社が久しく苦心の結果、珪砂の採取に成功して稼業を繼續して居ると、佛印開拓の先驅者臺灣拓植がマンガン、鐵鑛の採掘權を得て事業を經營して居



るのが、佛印領内に於ける第三國の企業としては最も著しきものであらう。近來援蔣禁絶監視團の河内乘込みから、彼我の交情も次第に温められて、邦人の佛印に進出するものが遽に増加し、之に伴つて鑛業方面への投資も、着々實現せんとしつゝある事は誠に喜ぶべきである。

佛印の外國貿易は近年著しく發達し、米、木材、棉花、煙草等を輸出して、織物類、金屬品、工藝品等を多く輸入するが、特に世界最大の米産地として米の輸出が莫大に上る關係から、毎年輸出超過の盛況である。輸出額の三〇%、輸入額の五〇%はフランス本國との間に行はれる。

次に日本との貿易關係は、從來日本は石炭、錫、鐵、漆等の原料品を輸入し、佛印へは絹織物、陶磁器、ガラス製品等を輸出して來たが、其の總額は輸出入を合せて毎年僅に一千萬圓内外に過ぎず、且日本は連年輸出の倍額以上の入超である。地理的關係から觀ても、當然發達すべき筈の兩國貿易が斯くの如くに貧弱なのは、フランス本國の印度支那獨占慾から不當な關稅障壁等、嚴重な貿易措置に禍される爲めである。元來東洋民族である土着人に對しては、彼等の嗜好や生活様式、或は風俗習慣等から考へても、東洋諸國の生産品の需要が大であることは當然である。然もフランスは之等東洋諸國からの輸入品に對しては法外の重税を課し、高價にして土着人の生活に適合しない自國の製品を、無税として盛んに輸入して居るのであるから、全く土人の利益を無視した不都合極まる押賣りである。然し邪は決して正に勝たぬ。今や世界の秩序は大變革期に入つて居る。獨逸に完全に屈服した本國の經濟力が、佛印を自己の獨占市場として保持することは最早

不可能となつて來た。東亞の安定勢力たる日本の經濟力によつて、久しく痛めつけられて居た二千三百萬民衆の生活が、窮乏のドン底から救ひ上げられる日が必ず遠からず訪れる事であらう。

### 五、住民

佛領印度支那は南海の天産厚く、物産は極めて豊かであるにも拘らず、人口は約二三〇〇萬で、人口密度は一方料につきて約三〇人に過ぎない。其の中の約七二%、即ち一六〇〇萬人を占むるものは安南族で、主に平野及び海岸地方に住み、佛印住民の中心勢力をなすものである。其の他南部には約三〇〇萬のカンボチャ族があり、又山岳及び高原地方には支那の雲南邊りから南下して、半島の先住民族と混血したるミョウ族、慄悍犷猛なインドネシア種のモイ族等が住む。

安南族は彼等の國土が傳説時代以來支那人の統治下にあり、殊に漢以後の一〇〇〇年間は支那の領土にして、其の獨立後に於ても諸王朝は何れも支那の封冊を受けて、貢物を獻じて來た關係上、文化は全く支那系文化であり、彼等の思想も支那の思想と同一で、儒教は道教、佛教と共に一般に行はれ、又祖先崇拜、長老尊敬の念も支那流で頗る厚い。

安南族も昔は極めて勇猛果敢、尙武の精神に富んで居た。建國以來悠久二千年の間、幾度か外敵の侵寇を受けたが、常に撃退して、敵をして一步も領内に入れしめなかつたのであるから偉い。蒙古の忽必烈の侵寇の時の如きは、國人は「殺韃」の二字を腕に文身してよく闘ひ、元史をして「冊江に至り、浮橋を繋ぎ江を



渡る。左永唐・兀鯨等の軍未だ渡らざるに、林内に伏兵發し、官軍溺死するもの多く、力戦して初めて境を出ず」と嘆じさせて居る程である。

然し此の果敢勇武な安南民族も、今から約六〇年前の明治十六年、突如として襲ひ來つた歐洲の侵略鬼佛國ナポレオン三世軍の出現によつて、脆くも潰え去りたることは誠に氣の毒の至りである。獅子奮迅の武勇も、猪突縦横の意氣も、歐洲人の新式兵器の前には全く施す術がない。過去一千餘年の試練と努力の結果、營々築き上げた安南大帝國も、國人の悲憤と驚愕の裡に、全版圖を擧げてフランスの手に收められ、爾來今日迄極端な其の強壓政治下に、懶惰無氣力の去勢された生活を續けて居るのである。

外國人は支那人の約七〇萬を除けば、歐洲人は約四萬人で、其の中の三萬餘は印度支那の統治階級たるフランス人であり、此の中には約一萬餘の駐屯フランス軍隊も含まれて居る。日本人はフランス政府の鎖國政策に禍されて、事變前には在留僅に二〇〇餘人に過ぎず、嘗つて天竺德兵衛や角屋七郎兵衛等の、和人華かなりし發展も今は全く昔の夢である。

### 【贈從五位角屋七郎兵衛】

慶長十五年伊勢大湊の廻船問屋の二男に生れたが、資性剛愎、二十餘歳の時志を立て、蒼波萬里の安南に渡り、貿易に従事して俠骨を萬里の異邦に謳はれて居た。偶々寛永十三年徳川幕府は峻刻極まる鎖國令を出し、海外との貿易を禁ずることは勿論、更に外國に居住する邦人の歸國をも嚴禁したので、爾來三〇年間消息全く不明であつたが、寛文六年

幕府は海外居住者の本國との通信を許したので、始めて長文の書翰が届けられた。此の書信によつて七郎兵衛は、安南貿易に成功して富豪となり、此の國の王族阮氏の女を娶つて妻となし、一子を擧げて彼の土に永住し、俠商として聲望四隣を壓する成功振りが判つたのである。

豪放闊達、血氣に任せて縦横に活躍し、蒼海遙かの異域に於て、巨萬の富を擁する大分限者となつて、何不足ない身分であつた彼も、流石に老いては故國懐しさの情に堪へなかつたものと見えて、それからは便船毎に安南の名産を齎らし、又日本からも數々の日用品を取り寄せた。奈良漬、干瓢、梅干、定齋藥、樺色皮の足袋等が、彼の注文品の中にある事から見ても、如何に彼が平素日本の生活を慕つて居たか判る。彼は又頗る敬神崇佛の念篤く、嘗つて銀百二十匁を伊勢大廟に寄進して、「去年我等煩ひの時立願の銀也」と記して居るが、萬里の山河を隔つる異邦に漂泊して重き病に悩む時、如何に雄々しい七郎兵衛でも孤影悄然、只管故國の大廟を頼み參らせて、涙は滂沱として禁じ得ないものがあるつたこと、憐れに堪へない。

又彼は晩年住宅の近くに佛寺を建立し、祖先が信州松本の出身である所から特に寺號を松本寺と名づけ、其の梵鐘や扁額を長崎に注文して居る。斯くて日本人の爲めに萬丈の氣を吐いた俊傑も、寛文十二年正月限りなき愛着の絆を故國に繋ぎながら、遂に六十三歳を以て安南の地に歿した。昭和御大典の御儀に際し、此の邦人海外發展の先驅者に對して、篤き大御心から特に從五位を贈らせ給ひ、深く其の志を憐ませ給ふたが、誠に天恩枯骨に及ぶと云ふべく、異域に眠る彼の英靈も、天恩の優渥なるに感激して居ることであらう。

支那人の移住者は、海を傳ふて先づ海外都市に植民した福建及び廣東人と、陸路南下してソンコイ河、或はメコン河上流の溪谷に土着したる雲南又は廣西人とから成る。佛印政府では彼等支那人に對して人頭税、



居住税、或は旅行税等、繁雜な規則と苛斂誅求を行つて入國を防壓し様と努めて居るが、元來が粘りの強い支那人の事であるから、あらゆる困難を凌いで今でも毎年二萬人位は入國を續けて居る。随つて彼等の印度支那に於ける經濟的勢力は實に素晴らしいもので、精米工場の六五%は支那人の經營にかゝり、商業は擧げて彼等の手にあり、鑛業權、土地所有權、航行權、漁業權をも獲得して、其の根強い發展は誠に驚嘆すべきものあり、フランスの當局も彼等の勢力を無視しては手も足も出ない状態で、所謂華僑の送金として本國に送られる金が不況の年で一千萬元、好況の年には四千萬元にも上ると云ふ發展振りである。

## 六、沿革と政治

### (1) 沿革

印度支那の地が始めて支那史上に現はれたのは堯の時代にして、南交と呼び、其後秦の始皇帝が郡縣制を布きたる時には、象郡と稱して其の治下にあつた。唐代に東京の地に安南都護府を置き、都護を任じて統治せしめたのが安南の名の起りであると云ふ。五代の末に丁氏が獨立して瞿越國を建て、宋初に入貢して太祖より交趾郡王に封ぜられ、勢い一時四近を壓したるも、其の死後は又國亂れて振はず、爾來或は治まり或は亂れ、時には南北に分裂して對立の形勢を續けたることあり、或は支那に朝貢して其の封冊を受け、或は又離叛して征服せられ、政情混頓、然も始終支那の一保護國たるの姿を以て近世に及んだのである。

フランス人が半島侵略の食指を動かしたのは、十八世紀の中頃以後の事である。一七八七年にはフランス

の軍艦が半島の東海岸を訪れ、時の安南國王から交趾支那南方の一島を割讓される約束が成立したが、未だ其の實現せざるに先立つて國王が病死し、國內攘夷の聲が轟々として國論容易に決しなかつた。偶、一八五八年(安政五年)フランスの宣教師が、土人に殺害されたる事件が勃發するや、時の佛帝ナポレオン三世は好機到來と計りに兵を出して安南を攻め、一八六二年西貢條約によつて交趾支那と償金を得、次いで次第に其の侵略的野心を露骨にして、翌年にはカンボヂヤを保護國とした。

折柄攘夷熱の熾んな安南國では國民上下安んぜず、佛國を恨んで兵を擧げたが、精巧な新式の武器の前に兵士の喚聲も役に立たぬ。一戦の下に打ち破られて、一八八二年には早くも事實上其の保護國となつて仕舞つた。清國は從來安南が其の封冊を受けたるを理由としてフランスと争ひ、一八八四年には之と開戦したるも脆くも破れ、多年翼下に哺くみ來つた安南を放棄した。此處に於てフランスは一八八七年東京、安南、交趾支那、カンボヂヤを合せて佛領印度支那と名づけ、總督制度を布いて荐りに威武を輝かし、次いで一八九三年にはラオスをも保護國となし、又隣接の暹羅を壓迫してメコン河左岸の領地を割讓せしめ、斯くて侵略の手を染めてより僅々三十餘年にして、約七四萬方軒の領土と二〇〇〇萬の住民を、其の統治下に置くに至つたのである。

### (2) 政治

佛領印度支那聯邦を形成する五州は夫々性質を異にするので、今日政治上に於ても内容は頗る複雑であ



る。

即ちトンキンと安南は嘗つての安南王國の領土で、現在でも形式的ながら安南皇帝が順化を首府として君臨し、フランスは之に對して保護權を持つて居るのである。西南部のカンボヂヤも亦王國で、國王は虚位を擁して首府プノンペンに在り、同じく佛國は保護權を持つて居る。交趾支那は昔は安南王國の領土であつたが、現在では佛國に割讓して純然たるフランスの領土である。西部の山岳地帯に南北に長く横はるラオスは、土地は廣いが單なる地理的な名稱に過ぎずして、從來から國家を形成する迄には至らず、唯だ北方に一、二の小さな公國があり、あとは未開の土民が住んで居るのみで、佛國は之等の公國と保護條約を結んで、事實上勢力を扶植して居るのである。其他河内、海防、トゥランの如き主要都市は佛國に割讓せられて、一種の特別市制が採用されて居る。

現在フランスは河内に印度支那總督を置いて全土を統轄せしめ、各州の中東京、安南、カンボヂヤ、ラオスの如き保護領には理事長官を、又交趾支那の如き純粹なる植民地には知事を置き、總督の指揮下に各地方の行政を行はしめて居る等内容は區々であるが、保護領と云ひ植民地と云ふも單に名稱を異にするだけで、フランスの權力の及んで居る點では全く同様にして、純然たる其の植民地であり領土の一部である事には變りがない。

フランスの印度支那經營は強壓と搾取の二語で盡さる。フランス人の居住するもの僅に三萬人に過ぎず、

然も其の半ばを占むるものは軍人にして、高壓横暴、土人を虐使することのみを知つて、經濟上何等の施設を加へる事なく、人をして「フランスの植民地は恰も練兵場の如し」と酷評せしめて居る程である。

佛人は口を開けば佛印統治の善政を矜り、其の領有以來印度支那は西洋文明の洗禮を受け、鐵道は敷設せられ、道路は開設せられ、衛生其の他の文化的施設も、昔日に比して全く面目を一新したりと誇稱するも、之は大抵佛人の居住する地域、又はフランスが佛領印度支那の統治上必要とする施設のみにして、一度佛人と關係薄き地方に足を入れると、文化的施設は片影さえも認められない現状である。

農業が國人の主生業であるにも拘らず、灌漑、治水等の工事には殆んど手が着けられて居ないので、少し長雨が續くか、颱風の襲來に遭うか、或は蝗害に見舞はれると忽ちに飢饉騒ぎが持ち上がる。然も佛國官吏等は、有色人種は總て白人の奴隸として存在するものであるかの如くに考へて、無情暴慢、武力を用いて無理矢理に壓迫し、依然重税を課し、苛斂誅求を繰返へす。無智と忍従で鍛へられた土人達も、流石に耐へ切れなくなつて反抗の喚聲を擧げると、忽ち空から爆彈の雨を降らせて、人も家も作物も皆叩き毀して仕舞ふ。土人達も今では自暴自棄、襤褸を着て小舎に住み、彼等の殘酷なる處置に戦々兢兢、只管盲従に努めて居るが、心の底には排佛憎惡の念は極めて熾烈に燃えて、根強い獨立運動となつて瀾漫して居るのである。

### 【佛印の強壓政策】

フランスは佛印に於ける搾取政策を容易ならしめる爲めに、土着民の政治的發言權を封じて、民族運動の高揚を抑壓



することに努めて居る。

自らフランス高度の文化と平和を移入して、未開國民を指導誘掖するものであると高言するだけあつて、佛領印度支那にも所謂代表機關なるものだけは設けられてある。即ち中央行政に對しては經濟財政最高會議、又州行政に對しては經濟財政會議、土人代表會議等形式だけは整へられて居るが、然し之が代表選任の方法は官選若しくは間接選舉によるもので、其の構成も佛人、土着民混合のものは常に佛人が多數を占め、且つ其の權限も大抵が諮問機關の範圍を出でず、全く羊頭を掲げて狗肉を賣るの類いである。

例へば最高級の代表機關として、總督府に設けられた印度支那經濟財政最高會議は佛人二八名、土着人二三名より成り、其の選任方法は一二名は總督指名、其他は地方議會又は農・商會議所等から選舉される仕組で、土着人は元來が少數である上に、假令若干の佛人委員を味方にして、自分達に不利な議案の否決を行つても、單なる諮問機關であるから夫れ以上は總督の考へ次第で手も足も出ない。寧ろ結果としては唯だ員に備はるのみと云ふに過ぎないのである。

其他佛印では土着民に對する出版、集會、結社、言論の自由は極度に制限されて居る。既に印度や蘭印に於ける決議機關が、本國人よりも土着民の方が優勢なるを想ふ時、如何に安南民族が佛人の不法な桎梏の下に、正當な權利の行使を奪はれて居るかが判るのである。

### 【佛印の搾取政策】

フランスは又更に租税の重課と云ふ經濟的壓政を以て、安南民族の統治に當つて居る。而して是等重稅政策の第一に擧げられるものは、人頭税とアルコール並に阿片の專賣である。

人頭税は地租と共に印度支那政廳收入の大宗をなすもので、土着民は十八歳以上六十歳迄、フランス人は二十歳以上のものに課する一種の所得稅で、稅額は州によつて多少異なるが、納稅者の社會的地位や資産等を全然無視して、貧富

一律に賦課する。現在トンキンでは十八歳以上の土着民は、苦力たると百萬長者たるとを問はず、一律に一年約三圓を課せられて居る。

一ヶ年三圓前後の稅額は、我々日本人としては大した負擔とも思へぬが、一日十二時間以上も勞役して、僅に三十錢内外の所得を得るに過ぎない土民にとつては、極めて苛重な負擔であつて、此の外町村稅等を加算すると下級大衆の公課負擔は、其の一ヶ月の收入或はそれ以上に達する。然も其の徵收に際しては期日前から徵收吏を村々に派遣し、梵鐘を打鳴らして期日の接迫を警告し、情け容赦もなく取立てるので、土人の中には納稅の爲めに家財を賣り、妻や娘を賣る様な悲劇を演ずるものも稀でない。

酒精の專賣に就ては、元來印度支那の土人は數百年前から自家用アルコールを醸造し、彼等が一日の勞苦を忘れる爲めの百藥の長として、極めて珍重して來たのみならず、醸造糟は豚の飼料として利用されて、土人の生業中最も重要なものとなつて居た。然るに一九〇二年時の總督がアルコール專賣制度を設定して、フランスの醸造會社に其の醸造並に販賣を一任して以來、土人は其の生計の途を奪はれて仕舞つた上に、總督政廳では土民のアルコールに對する愛着心を巧に利用して、惡質の製品を極めて高價に押賣するので、土人の生活は愈々苦しくなる。斯くて一ヶ年の酒精販賣收入額は三〇〇萬圓以上にも達して、佛印政廳の好個の收入財源となつて居るのである。

阿片も亦專賣で、土着民に對しては特權として吸飲を許して居る。而して阿片專賣による總督府の年々の收入は八〇〇萬圓にも上り、豫算歲入總額の一割以上を占めて、關稅に亞ぐ佛印收入の大宗をなして居る。

斯くてフランスの印度支那統治は、租税の重課によつて土人の生活を極度に壓迫し、他を顧みる暇なからしめると同時に、阿片の吸飲を許して民族的衰亡を圖ることであつて、然も苛酷な此の功利策は表面成功して居り、土民は次第に退嬰無氣力の民と變つて行くのである。



## 【絶えざる獨立運動】

重壓と搾取に苦しめられて退嬰無氣力、民族的衰亡の一路を辿るかに見える安南民族にも、其の心底には今尙ほ進取獨立の東洋民族的氣概が残つて居ることを忘れてはならぬ。之が即ち始終絶える事のない安南人の獨立運動である。安南人の民族運動は早くも明治十七年、安南人が佛國に制せられて其の獨立を失つた時から始まる。何れも最初は純粹的、愛國的な國權恢復運動であつたが、フランスの佛印統治が進むに伴つて次第に之等の民族運動は、飽くなき搾取と強壓に耐へ兼ねた民衆の暴動と變つて來た。

就中著しいものを挙げると、明治四十一年には安南及びトンキンに相次いで反佛運動の暴動が起り、廣南省では三〇〇名の群衆が郡廳を襲うて知縣を殺害し、引續いて數千人の暴民が數ヶ所の兵營を襲撃して、フランス人の手先だとして多數の安南人官吏や收稅吏を殺傷した。大正四年にはトンキンの富壽省で銃を持つた群衆が兵營を襲撃し、更に翌五年には三〇〇名の暴徒が槍や刀を揮つて西貢の總督府を襲つたのをきつかけに、次々と交趾支那の約半分の地方に叛亂が勃發して、一般の生業は全く停止し、治安は亂れて混亂状態に陥つた。而も此の騒動が終ると次には安南の順化に在住する國王維新が、當時歐羅巴に派遣されることになつて居た安南義勇兵約三千人と共謀して、一舉に國權を恢復せんとして宮中を脱出して來たが、計畫齟齬して大事に到らなかつたと云ふ様な事もあつた。

昭和四年には暗殺團がサイゴン、河内、海防等で跳梁を極め、逮捕せられるもの七〇〇名、死刑の宣告を受けるものが三〇〇名にも上つた。昭和五年二月にはトンキンの安沛兵營に安南人軍隊の暴動が起り、フランスの將校或は下士官等が殺傷された。此の暴動は比較的短期間に鎮壓されたが、参加したるものは安南兵の外民衆が二千名にも及び、數百名が無期懲役或は死刑に處せられた。死刑にされた一團は、斷頭臺上に立つて次々に「越南々々」と祖國の名を呼んで、從容として死に就いたと傳へられる。

續いて同年五月には北部安南及び交趾支那に暴動が起り、數千人の群衆が官廳を襲撃した。フランス官憲は之に對し軍隊を動員して村落を包圍し、機關銃の掃射を行はしめると共に、一方飛行機から爆彈を投下して村落を焼き拂ふと云ふ様な、強壓手段を以て之に應じたのである。其の當時最初飛行機を以て群衆を爆撃して百人以上もの死傷者を出したが、其の日の夕方更に同一場所に群衆が集まつて居ると云ふので、又も飛行機で爆撃して數十人を殺傷した所、何とそれは前の爆撃で死んだ者の後始末をする家族や、親族達であつたと云ふ様な悲劇さえある。

今日佛印の警察状態は佛人軍隊約一萬、土人兵約二萬、及び土人豫備兵から採用した警察隊一萬五千を以て治安の維持に當つて居るが、一千六百萬の安南人を統御するのに僅か之だけの軍隊を以てすることは、明かに至難の事である爲めに、フランスは此の警備の手薄を補ふ方策として、叛亂者を出した部落は全部襲殺すると云ふ殘忍極まりなき連坐法を採つて居るとの事である。斯くの如く人道を無視した植民行政によつて、フランスは漸く佛印を支配し、其の排佛思想の擡頭を抑壓して居る現状であるが、而し邪は決して永く正に勝つものでもない。麥の芽は踏まれることによつて益々強靱となつて來る。暴壓と搾取の試練を経て、安南民族の烈々たる排佛と獨立の精神は益々磨かれて行く。今や歐羅巴に於けるフランス本國の國際情勢の著しい變化と相俟つて、若し第三國のよき理解と指導援助があつたならば、彼等は容易に過去の繁榮を取戻すことであらう。

## 七、都 邑

【ハノイ(河内)】 ソンユイ河の下流に位し、河口を溯ること約一五〇軒、三角洲地方の要處を占む。人口約二〇萬、一八八四年佛軍が此の地を占領するや對支那發展の根據地として、莫大な費用を投じて沼澤の中から築き上げたものであるだけに、街衢整然として頗る美觀を呈して居る。印度支那聯邦の首府にして



總督の駐在地たるのみならず、鐵道交通の要衝に當り、北方はラオカイ(老開)を経て雲南の昆明に達する滇越鐵道、ランソン(諒山)を経て廣西の龍州を結ぶ諒山線、又南方は海岸を縫うて西貢と連絡せんとする安南鐵道等、數多の幹線の集中點をなし、加ふるに海港ハイフォンとの間には鐵道及び水運の便あり、四通八達の要地にして百貨輻輳し、商工業盛んにして特に米の集散が頗る多い。

市内には全土統治の淵藪たる總督府、印度支那全土のあらゆる物産、工藝品は勿論、弘く東洋各地の名産品を蒐集陳列せる商品館、東洋全土に亘る人種、考古、史傳等、各般の文化研究所たる東洋學院及び附屬博物館等を始め、銀行、大商店等の大厦高樓が多く櫛比して、景觀全く歐米の文化都市に比して劣らざるものあるが、一度裏通りの土人街に入ると狹隘汚雜、檳榔を嚼んで唇を眞赤に染めた女や、汚れた細い筒袖の男が右往左往して喧騒を極め、被征服民としての慘めな姿をまざりと現はして居る。我が國の總領事館も此の地に置かれて居る。

【ハイフォン(海防)】 ソンコイ河のデルタを溯ること約五〇杼の地にあるトンキン灣の海港にして、人口約一五萬、背後にはトンキン平野の農産地を控え、更に遠く雲南産物の中繼地に當るので、香港を對外貿易先として商況頗る活潑である。殊に米の出廻期には一段と活況を呈し、對香港との海岸航路船は勿論、大船の出入多く、我が大阪商船の基隆・ハイフォン航路の定期船も入港して、大に埠頭を賑はす。市街には支那人或は佛人の大商店が軒を並べ、飾窓美しく客を呼び、廣い街路の兩側に植ゑられた並木

は、四時綠蔭を投じて行人に白晝炎熱の苦を忘れしめる。景觀全く佛國風に作られて居る。

【ユエ(順化)】 東海岸の略ぼ中央部、よく開拓されたる狭い海岸平野の縁邊に位して、人口約四萬、十七世紀以來安南國都城の地で、支那風の壯麗な王宮には今も安南國王が空位を擁し、諸大臣を隨へて悠長な月日を送つて居る。金色燦然たる王座、華麗を極めたる謁見室、歴代帝業の隆盛を象徴する大鼎等、壯嚴並びなき王室の美も、國亡んでは唯徒らに往時の盛業を偲ばしむるのみで、誠に寂莫極まりなき次第である。

海岸鐵道が北はハソイに、又南は安南唯一の開港場ツーランに通じて、製材業が稍々盛んに行はれる。ツーランから更に東南五里のファイホーは、今では肉桂の輸出で知られる小港に過ぎないが、古くは貿易港として大に榮え、我が朱印船や支那船の來往が多く、繁華な日本人街も建てられて、港町としてなかくの賑ひを呈して居た所である。昔日本人の手になつたと傳へられる日本橋が今も残つて居るし、又俠商角屋七郎兵衛活躍の話も傳へられて居る。

【ファイホー(會安)の日本橋】 角屋七郎兵衛が縦横に活躍したる頃には、彼を慕つて日本人の來住するものも多く、古き貿易港ファイホーにも相當繁華な日本人街が開かれて居たことゝ想像される。ファイホーの街道筋に當る町中の、水も濁れくの流れに架け渡した屋根瓦葺きの「日本橋」は、恐らく之等日本人の寄進によつて出來たものであらう。橋の入口と出口の袖壁には一方には桃、他方には佛手柑を色鮮かに畫き、又入口と出口の間近には一方に犬、他方には



猿の等身像が据えられてある。橋のたもとには「もと此の橋は來遠橋と稱し、當時在住の日本人が架設したものであるが、痛くも腐朽したので修理して、永久に其の志を傳へる」旨を記した由來記の碑が建てられてある。兩側の欄干に沿うて縁が張出しているので、熱帯の烈日を避けて土人が午睡を貪つて居る。見るからに貧弱な短い橋ではあるが、其の昔日本人の南洋發展の雄圖を物語る好箇の記念物として、橋畔に立てば往時を追想して、低徊容易に去る能はざらしめるものがあると云ふ。

【サイゴン(西貢)】メコン河の三角洲を流れる西貢河に臨み、人口約一四萬、フランス東洋艦隊の根據地にして、商港と軍港とを兼ねて居る。一八三六年時の安南國王は、一佛人に委嘱して市街の防備を講ぜしめたが、此の防備こそは安南を敗北せしめたる一因であると云はれる。即ち一八五八年佛軍がサイゴンを陥れるや、先づ此の砲塞に據つて軍事上の地歩を固め、次第に附近へと勢力を伸して行つたのである。爾來一九〇二年首府をハノイに移す迄の約四〇年間、佛國東方經略の根據地となつて居たゞけに、舊王宮を始めとして動・植物園、造船所等規模宏大な建築物が多く、市街壯麗にして「小巴里」の名あり、街路には綠蔭滴る計りの行路樹が、美しく繁茂して烈日の直射を遮り、熱帯都市の面目躍如たるものがある。

米の輸出夥しく毎年約一〇〇萬噸にも及び、隨つて市内には澤山な米穀取引所があり、又米を一杯に積み上げた大倉庫が軒を並べて林立する。我が國に來る外米に西貢米の名ある所以である。其他皮革類、砂糖、玉蜀黍、各種の林産物、胡椒等の輸出も甚だ多く、毎年佛領印度支那總貿易額の約七割は、此の港を通じて行はれる盛況である。

近郊のシヨロンは印度支那第一の米穀取引地にして、人口約二〇萬、明末に廣東或は福建邊りの支那亡命移民が、集團をなして來住したのに端を發すると云ふが、殷賑遙にサイゴンを凌ぐものあり、サイゴンと共に巨富豪商の大部分は支那人で、精米も貿易も全く彼等の手中にあり、華僑の經濟的發展は誠に驚くべきものがある。

【フノンペン】サイゴンの北西約二〇〇軒、メコン河とトレンサップ湖を結ぶ運河との分岐點に位し、人口約八萬、往昔燦然たる文明を保有したるカンボヂヤの王都である。

王宮は四方約十町、中央の玉座宮を中心として舞樂殿、寶物殿、諸官衙、廷臣邸等が立ち並び、輪奐の美を極めて居る。殊に其の中でも謁見室の如きは天井と圓柱と扉とに寶石、金、銀、七寶等を鏤めた絢爛人の目を眩ます計りのものであると云ふ。國王は今も虛位を擁して此の宮に住み、二五〇人の舞姫を常侍せしめ、形ばかりの諸大臣を隨へて、雅樂と演舞の中に安逸の日を過して居るのである。尙ほ王室の一廓内にある佛堂には、全身に金剛石を鏤めた、黄金製の光輝燦然たる此の國の英主ドロン王の等身像が、安置されて居ると云ふから、今日の貧弱な此の田舎町も、嘗つては一大雄國の都城として、繁榮四隣を壓したる往時の盛大さが偲ばれる。

#### 八、日本と佛領印度支那

戰國時代以降卓落の才を抱いて、島國の裡に跼蹐することを肯んぜず、雄心勃勃々、萬里の蒼波を蹴つて此



の土に渡り、貿易に従事して巨富を鍾め、日本人の爲めに萬丈の氣を吐いた俊傑は、前記の角屋七郎兵衛を始めとして其の例に乏しからず、日本人街も到る處に建設せられ、鬱蒼たる椰子の蔭にも長槍、長刀、さては緋緘の甲冑映ゆき行列に、土人の膽玉を震へ上らせる程の盛況を見せて居たが、之も徳川幕府の峻嚴極まる鎖國令の爲めに、故國との交通を絶たれてからは全く孤立に陥り、一人減り二人残くなり、遂に跡方もなく消え失せて、僅にファイホー街頭の「日本橋」や、砂濱に埋もれた邦人の墓碑に、在りし昔の倂を追懷せしめるのみとなつて仕舞つた。

明治維新以後も意地悪いフランスの鎖國政策に禍されて、此の地への發展は全く阻止されて來た。日露戰爭に於ける日本の大勝利は、白人には到底抗爭不可能であるとの先入觀念を持つて居た東洋諸民族に、大なる刺激を與へ、其の民族意識、國家意識を俄然昂揚せしめるに至つたが、特に安南人も戦後は日本に對して非常な憧憬の念を持ち、日本の援助によつて、獨立を達成する事を念願として居た程である。然るに日本では彼等の熱望を裏切つて、専ら佛國の猜疑心を解く事に努め、殊に明治四十年日佛協約の締結に當つては、安南人留學生の退去を強要する等の舉に出でたために、日本依存の觀念が俄に減退したのは誠に惜しい。而も佛印在住のフランス人は、日本の近年の躍進に對して一種の嫉妬の念を抱き、日本を目して自己の地位を脅かすものとして、極めて警戒的で、隨つて平素安南人に對しても、日本を帝國主義的侵略國なりとの觀念を植付けるに努めて居るので、相俟つて今日安南人の一部には、日本を快よく思つて居ないものがあるのは

誠に困つた次第である。

近年支那事變の勃發と共に、フランスの日本人壓迫は愈々露骨となつて來た。日本は支那に於ける抗日勢力を潰滅せしめ、更生支那と相提携して、東亞新秩序の建設を目標として戦つて居るのであるが、日本が大陸に發展する事を好まぬフランスは、日本の勝利を其の儘佛印に對する脅威として幻影を畫き、事變勃發以來反日援蔣の政策で一貫して來たのである。之が爲めに全佛印に在留したる僅か二百餘名の日本人は、何れも極端な白眼視の中に脅えさせられて居たのであつて、佛印北部の河内と海防の兩地には、夫々五〇名位の邦人が住んで居たが、彼等は全く軍事探偵視され、事變以來追放されたものも數名に上ると云ふ亂暴さであつた。

其の上フランスは凡ゆる手段を盡して日本の國力消耗と、大陸發展抑止に努めて來たのであつて、或は日支の紛争に乗じて、佛印とフィリピンの間にある支那領西沙群島を占領したり、盛んに援蔣ルートを擴充して、武器の輸送に大童の働きを見せたり、我が聖戰の遂行に絶えず惡意の妨碍を續けて來たのである。

#### 【佛印の援蔣ルート】

フランスの銷國主義と資源未開發の爲めに、從來日本との關係は極めて稀であつた佛印も、一度今次の支那事變が勃發するや、此の地が本國政府の對蔣援助方針に従つて蔣政權武器輸入の關門となり、或は其の對外策動の本據となつてからは、俄に日支抗戰の舞臺に大きく浮び上つて來た。殊に廣東の陥落と粵漢、廣九兩鐵道の切斷によつて、香港が文



字通り孤島と化して以來は、佛領印度支那は愈々蒋介石にとつて懸け替へのない重要地位を占めて來たのである。佛印の援蔣ルートには次の二つがある。

(1) 海防—昆明ルート 海防から起つて支那と佛印の國境老開を経て、雲南省の省城昆明に達する全長八四八軒の滇越鐵道の線である。佛印に於ける他の諸鐵道が官營であるのに對して、本線のみが印度支那雲南鐵道會社の經營となつて居るのは、フランスが國際關係の影響を考慮したる結果であると云ふ。海防で陸揚げされた武器は、此の鐵道によつて雲南の奥地昆明に運ばれ、此處からトラックで湖南の衡陽、その他各所の軍事據點、或は蔣政權本據の四川省重慶に移されるのであつて、便船毎に佛印の海港ハイフォン埠頭に、蔣政權宛ての武器が山積したる事から觀ても、或は佛印當局と蔣政權とが特に河内に聯合輸送能力増進協議會を常置して居たことから考へても、此の鐵道經由による武器の搬入が如何に莫大であつたか判るであらう。更に此の鐵道は又一方支那の奥地に産するタンダステン、桐油、其他の土産品を外國に輸出して、蔣政權の爲めに重要な外貨獲得のルートであつたことも忘れてならぬ。

(2) 佛印—廣西ルート 蒋介石の湖南死守の體制に對して、貴州・雲南を經由するコースは稍遠距離に過ぎるので、それより近いコースとして價值が再認識されて來たのは佛印から、廣西—湖南へと云ふ道順である。海防で陸揚げされた蔣政權宛の武器は、汽車又はトラックに積んで廣西省の國境近くに運び出され、此處でカーキ色の制服に青天白日の帽章を着けた蔣政權の輸送員の手に渡されると、彼等は山の様な軍需品を直ちにトラックや民船に積み替へて、遠く前線の各地に送つて居たのである。

此の外フランスの援蔣ルートには、廣州灣コースと北海コースの二つがあつた。廣州灣は廣東省雷州半島の東岸にある海灣で、フランスは三國干渉の代償として、其の頸部約五〇〇方軒の地域を清朝政府から強制的に租借したのである。嘗つてフランスは此の地に據つて、九龍半島の突端に連る英領香港と、南支に於ける覇を競はんとして失敗してか

らは、租借以來約四十餘年、何等治績の見るべきもなく、荒廢昔の儘に棄てられて居たが、此の小港が廣東の陥落後は一時對蔣武器輸入港として俄に活潑な活動を開始した。又北海は佛領印度支那と雷州半島の略ぼ中間に位する一小港であるが、此處もフランスの援助の下に武器輸入、奥地蔣政權の海外通路として、一時は頗る活氣を呈したのである。

斯くて之等フランスの援蔣輸血路は、ソ聯の西安—蘭州—新疆を繋ぐ所謂コミンテルン・ルート、英吉利の雲南—ピルマを結ぶ所謂滇緬ルートと共に、瀕死の蔣政權に活力素を注入し、國際信義を無視して、我が東亞の聖戰遂行に多大の障礙を齎らしたる惡むべき邪道であつた。

其の後昭和十五年三月には親日更生新政權が支那に誕生する。皇軍は猛攻進撃破竹の勢ひを以て南支の山野を席捲する。更に歐羅巴ではフランス本國が獨逸の猛攻に遭つて、難攻不落を誇りたるマジノ線は脆くも潰え、國都巴里は陥落して、降を軍門に乞ふと云ふ急轉振りに、俄に慌て出した佛印では急に態度を改めて、日本政府からの嚴重な抗議に屈して援蔣軍需品の輸送を禁止することを承認し、我が監視員は河内、海防、或は國境各地に派遣されて、茲に全ルートは固く鎖されるに至つたが、更に昭和十五年九月には日本と佛印間に軍事協定が成立し、皇軍は國境を越えて佛印内に平和進駐を行ひ、愈々事變處理と新東亞の建設に、一新段階を畫するに至つた事は誠に痛快至極である。

次に日本との貿易關係を観ると、まだフランスを覺醒せしめなければならぬ、多くの問題が残されて居るのは甚だ遺憾である。

前にも述べた様に日露戰爭後我が國民の武勇を慕ひ、其の優れたる文化に限りなき憧憬を燃して、佛印からは盛んに留學生を送つて來たのであるが、日本は明治四十年日佛協約の締結に當り最惠國の待遇を得んとして、フランスの歡心を得る爲めに其の要求を容れて、在日安南人志士の退去を求め、其の活動を禁壓する



の擧に出でた。當時彼等安南の志士達が、失望と落膽のうちに悄然と支那に去つて行つた姿は、考へても氣の毒の至りであつたと云ふ。然も斯程の奉仕を以て極力要求したる我が最惠國待遇の要求も、佛國は日本の地理的好條件を必要以上に警戒して、之を認めなかつたのである。

爾來我が國はしばしば其の改正を要求したのであるが遂に纏らず、唯だ僅に昭和七年日佛間に、日本及び佛印間の貿易に關する暫定協定が締結されて、若干の日本商品に對して漸く最低率を適用し、又若干の商品には中間税率として、稍々緩和された率が適用されるに至つたが、其後フランス側では最低率の限度を次々と引上げて、一年半後には結局暫定協定取極め以前と同様に、日本品の進出は全く困難となつて仕舞つた。斯くて我が佛印貿易は今日に至る迄極めて不利な條件の下に、其の正當なる進出を阻害されて居るのであつて、現に佛印より日本への輸出は年額約九〇〇萬圓の巨額に達するに反して、我が方の對佛印輸出は約二〇〇萬圓程度に止まる實狀である。土民の利益は一切考慮せず、専らフランスの本國、及び在留フランス商工業者の利害を中心として決定されたものであるだけに、土着民は良質安價な日本商品入手の途を絶たれ、徒らに高價な佛國製品を買はされて居ることは、日本として不満は素よりのこと、土着民にとつても誠に氣の毒な次第である。

今や日本は東亞協同體確立の大旗を掲げて邁進しつゝある。而して之が爲めには須らく東亞協同體を構成する諸民族に就て、十分に理解することが先決問題である。即ち我等は安南民族に就ても、更に其の智識と

理解とを深めると同時に、彼等に日本の眞の姿を知らしめる事が必要である。由來東亞の天地は悠久此處に五千年、支那大陸を中心として興亡盛衰の歴史を繰返へして來たのである。随つて東亞の諸民族は或は言語に於て、宗教に於て、或は又學術技藝に於て、風俗習慣に於て、大なり小なり相類似する處あるは疑ひを容れない。我が大和民族と同様に、安南民族も亦優れたる東洋文化によつて育てられ來つたものである。斯くて彼我の正しい認識が深められたならば、素より「血は水より濃し」で、堅き共一の文化的紐帶に結ばれたる兩國民の握手提携は容易に成り、随つて東亞協同體の盟主たる日本の實力は大に發揮されて、彼等にも亦不法極まる白人の桎梏から脱するの日は、必ず遠からずして到來するのである。

## 第二節 タイ國(暹羅)

### 一、位置と面積

昭和十四年六月二十四日立憲革命記念日を期して、歐羅巴人のつけた從來のシヤムなる名稱を棄て、國名をタイと改め、新興國家へと華々しくスタートしたタイ國は、爾來民族意識の昂揚目覺しく、國家再建工作の進捗見るべきものあり、確に有力なる東亞協同體への一員として、大に將來への發展を期待されて居る。

蓋しシヤムなる語は「屬國」を意味し、誠に屈辱的な名稱であるが、タイは「自由」を意味し、將に伸び



んとする此の國にとつては相應しき名稱で、敢然として此の國名改稱を斷行したる處にも、此の國民の意氣の程が察せられるのであつて、吾等は友邦國民として、先づ以てタイ民族の將來を祝福する次第である。其の位置は印度支那半島の中央部を占め、東は佛領印度支那、西はビルマ、北は佛印とビルマが其の北境に於て接壤し、南は長くマレー半島に延びて、北緯六度の邊りにまで達する。面積約五二萬方浬、日本全土の約七割餘にして、我が國の總面積から北海道と九州及び四國を除いた廣さに略ぼ匹敵する。

## 【タイ國の失地回復の叫び】

一七八六年マラッカ海峡に面するピナン（彼南）地方英國に奪はれたのを最初として、爾來一五〇年もの長い間、東洋侵略に猛進する英佛兩國に狙はれて、唯だ獨立を保持するだけが精一杯であつたタイ國は、二つの侵略鬼を左右にして、云ふが儘に領土を割かざるを得なかつたのである。當時或は之に抵抗すれば、機會を窺ふに汲々たりし兩國の好餌となつて、或はタイ國今日の獨立はなかつたかも知れぬ。身を切られ肉を殺がれても、尙ほよく耐へて來たタイ國、右なる狼に嚇かされ、左なる猛虎に脅かされ、戰々兢々、只管獨立保持の努力にのみ逐はれて來た上品な白象の國タイ國、其のタイ國に近來失地回復の叫びが極めて熾烈に擧げられる様になつて來た事は、世界の動亂下、新體制東亞の力強い鼓動の一つとして頗る注目される處である。

實際タイ國が今日迄に英佛兩國に奪はれた土地は、今日のタイ國面積に比して、其の一倍半にも當る廣大なものと云ふ。昭和十三年の六月憲法發布の記念祭に當り、タイ國では昔の國土と失地を一目瞭然たらしめる色分け地圖を作製し、軍隊や青年階級に配布して英・佛公使の嚴重な抗議に遭つたことがあるが、其後今日では之を歴史地圖として、屈辱的な割讓の年月日を記入した領土變遷圖が、諸學校の教材として使用されて居るのである。

而して右の失地表によると、

## 第一回 ピナン地方

一七八六年英國に奪はる。英國は當時同地方を無條約で租借して居た。

## 第二回 メルギー地方

一七九三年英國のビルマ征服に伴ふ壓力により、英國の支配下に歸屬する。

## 第三回 交趾支那、カンボヂヤ地方の南部

一八六七年佛國のために完全に侵略さる。

## 第四回 トンキン地方

一八八八年佛國へ割讓。當時タイ國領であつた同地方に内亂が起り、佛軍は其の鎮壓援助に名を藉りて出動、同地方は安南に屬すべきものなりと主張して、遂に泰國より之を奪ふ。

## 第五回 メコン河左岸の流域一帯

一八九三年佛國に割讓す。此の際國境決定につき意見一致せず、事態惡化するや、佛國は軍艦を以てタイ灣の封鎖を行ひ、タイ國を屈服せしめた。

## 第六回 カンボヂヤ地方北部

メコン河の右岸一帯並びにルアン・ブラバン地方と共に、一九〇四年佛國に割讓す。

## 第七回 バツタンバン地方

一九〇七年一佛人のタイ國外事裁判所への權利主張の提訴に對する外人參審官の決定に基づき、タイ國は之を拋棄するの餘儀なきに至つた。



## 第八回 馬來半島のケター、ケランタン地方

一九〇九年英國は佛國のバツタンバン奪取と同一手段で、此の地方を侵略した。

若き血に燃ゆるタイの青年達は、「今のタイ國は我等の領土の一部である。英佛から返して貰はねばならぬ領土の方が多いのだ」と、連りに失地恢復の叫びを擧げて居るが、今や第二次歐洲大戰に於ける英佛の落日衰頹の姿と思ひ合せて、世界の情勢は古來幾盛衰、而も飽迄根強く生きて來たタイ民族にとつて、多年の要望實現の曙光が、着々として輝き初めて居るのである。

## 二、地 勢

西藏高原の東南部より南走する印度支那山系の餘脈は、此の國に入つてメナム河の東西に分派し、緩漫なる傾斜をなして、中央部の廣大なる平野を圍む。特に北方國境の附近は風光明媚にして、山容水態我が國に髣髴するものがある。

メナム河は上流をビルマとの國境附近、此の山水明媚の幽境に發し、廣大なる中央平野を南流してタイ灣に注ぐ。全長約一二〇〇浬、無數の運河を以て連絡されたる數多の支流と共に、「米の國」シヤムを培ふ母體にして、此の國の大富源を涵養するのみならず、中央大平野の縁邊、密林晝尙ほ暗き自然の城壁と相俟つて、南洋唯一の獨立國家タイ國の國土統一の中心をなすものである。

「水の母」と呼ばれるだけに水量頗る豊かにして、毎年雨期には濁水滔々、岸に溢れ堤を越えて、沿岸地方は都市も村落も一面泥の海と化して仕舞ふが、一度水がひけば跡には良土を厚く堆積せしめて、豊饒なる

沃野を一帶に展開する。河畔には毎年の此の氾濫に備へる爲めに、筏に組んだ竹の上に小舎を建てた浮家が多く、雨期になると一定の場所に市をなし、諸種の商賣が賑やかに行はれるが、乾季になると何處ともなく離散して仕舞ふ。水邊から遠く離れた家屋でも、タイ國では通例床下は五、六尺の高さにとり、梯で家に入し、床下は雨期に於ける氾濫の用意と、乾期に於ける納涼所に充て、居るものが多いと云ふ。

タイ灣はマレー半島と交趾支那との間に深く灣入せる大灣にして、長さ七七〇浬、灣の幅は三八〇浬、灣頭にはメナム河が注入して、其の河口にバクナム港が發達する。紺碧の海面を吹き渡る南支那海の涼風は爽快限りなく、綠濃き熱帯林の蔭には、常夏の國タイの避暑地が到る處に發達して居る。

## 三、氣候と産業

## (1) 氣候

一年は五月から十月に至る間の、雨の極めて多い南西季節風の期間と、十一月から翌年の四月に至る間の、雨の少ない乾燥した北東季節風の時期との二つに區分される。

此の一年間に於ける雨量の配布が、タイ國では米の栽培に非常な關係があるのであつて、雨量が少なければ、必然的に收穫量が減少する。寧ろ洪水の年よりも旱魃の年の方が、此の國では凶作を招くのであつて、それは洪水の年なれば低地は勿論不作に終るが、高い地方では尙ほ收穫を擧げる事が出来るからで、一般にアユチアに於けるメナム河の水位を以て、其の年の米の收穫量を豫想する事が出来ることさえ云はれる程であ



る。  
國土の大部分が北緯十二度から、二十度附近に至る熱帯地域に位する爲めに、気温は所謂常夏の状態にして、一年の平均二七度に上り、メナム河の下流地方では最暑月と最寒月との平均温度の差は、僅々一〇度に過ぎず、年中葉は緑りに花は紅に、住民は半裸の一つ衣装で過されるのである。

## (2) 産 業

タイ國は純粹な農業國である。高温多雨なる其の氣候と、定期の氾濫を繰返へすメナム河の廣大な沃野とは、相俟つて米の栽培に最も有利にして、一望漕てなき其の美田良圃は、毎年時を擇ばず穰々たる黄金の海を現出する。

随つて其の收穫量も莫大にして、年産約四〇〇萬噸に達し、國民の常食は勿論米であるが、それでも毎年の輸出額は約一二〇萬噸にして、此の國全輸出額の約七〇%に上る。實に米はタイ國の生産物を代表する女王物的な存在にして、鐵・石炭の多量な産出が今日の物質文明を齎らした一基調とするならば、東亞民族の主食物たる米の豊富無盡な産出地たる此の國の大平原も、確に世界の文化を支持したる大きな勢力であると云ひ得るであらう。

而も内に廣大な沃野を擁するタイ國では、國內可耕地の廣さは全面積の約四〇%に達するも、人口密度の低い關係から現在の耕地面積は僅に一〇%餘に過ぎず、其の栽培法も亦極めて原始的にして、水牛に曳かせ

てザツと土を掘返へした上に、バラ／＼と靱を蒔いて置くだけである。苗代を作つたり、植付をしたり、草を除つたり、肥料を施したりする様な面倒臭い事は一切抜きであるが、それでも肥沃な地味と豊かな太陽熱のお蔭で、立派に稻が實のると云ふのであるから素晴らしい。其他米以外に棉でも茶でも甘蔗でも、何分餘剰の耕地が頗る廣いのであるから、人手さえ間に合へば幾らでも收穫が擧げられる。誠にタイ國は蒔いて寝て待つ農民の樂土である。

更に未耕地の廣いタイ國では全土の七割は鬱蒼たる大森林で、世界木材界の王座を占むるチーク材を始め、紫檀、黒檀等の如き有用林木の産出が多く、殊に北部地方には最も著しい。又南部の半島部ではゴムの栽培も盛んに行はれる。

礦産物には錫、鐵、タングステン、亞鉛等の産出があるが、就中錫は最も有名にして、半島部を主産地として世界豊産地の一として知られ、錫は米に亞ぐ重要輸出品である。又家畜には象、水牛、馬等が多く、殊に象は野象を狩つて家畜とするが、柔順にして力強く、チーク材の運搬等には頗る有用である。

工業は人口が少くて勞力の供給が困難な上に、動力の供給源を缺如する關係から、發達殆んど見るべきものがない。殊に動力關係ではタイ國では石炭の産出が少ない上に、「水の母」メナムの大河は河口から三五浬の上流バンコック市でも海拔僅に一・八米、バンコックから更に五三五浬湖上したるデイン・チャイ附近の河岸でさえ、僅に四四米と云ふ誠に緩やかな流れであるから、水力電氣が起せない。而も急流のある山地は



人里遠く離れた所で、大平原中樞地域の電力には間に合はぬ、今日ではファンダンにある靱殻を利用して火力電氣を起して居るが、幾ら多いと云つても靱殻の事として供給には限りがある。随つて電氣事業の發達は誠に幼稚極まる状態で、國內でも電燈の點つて居るのは僅に首府のバンコック位なものであると云ふから、此の動力不足の關係で、此の國には工業らしい工業は一つも發達して居ない。

棉製品でも食料品でも、金屬製品でも機械類でも、其他紙といひ陶磁器と云ひ、總て海外からの供給に俟つのであつて、随つて其の輸入額は毎年頗る巨額に上る、貿易上之が決濟をなして、然も毎年約五千萬圓餘の出超を示すものは、米・錫・ゴム・チーク材の四品を主とする輸出品で、中にも米は全輸出額の七〇%を占めて此の國經濟の根原をなす。殆んど米一本建で國を樹て、居る關係から、毎年の米作の豊凶や、海外市場の變動によつて、一國經濟の土臺が始終不安動搖の裡に漂ふことは、「米の國」タイの大きな悩みである。

#### 四、住民

タイ國は廣さが日本總面積の約七五%に達するも、人口は僅に一四五〇萬にして、日本全人口の約一四%に過ぎない。若しタイが日本と同じ國力に達して居たならば、元來が平野に富む國であるから、優に一億の人口を抱擁し得る筈であると云ふ。此の人口の少ないと云ふことが、此の國をして強大ならしめる上の最大な弱點なのである。

幸ひにしてタイ國では其の人口増加率が南洋では最も高く、世界全體としても高率の部に屬する方である

から、此の點では南洋中最も將來性のある國と云ひ得られるが、然し之も仔細に其の内容を観察すると、從來は華僑の移民増加に因る所が頗る多かつた様で、嚴重な其の入國制限が實施されるに至つた今後に於ては、今日タイ國政府の要望する三千萬の人口に達する迄には、尙ほ相當な年月を必要とすることであらう。全人口の中五〇萬は支那人、四〇萬は印度人及びマレー人で、歐米人は極めて少くして二千人に達せず、日本人も在留するもの僅に五百人に過ぎない。

タイ人は自ら「自由の民」として「自由の國」を誇つて居る。温順で親切で、慈悲心に富み、情味豊かで平和を愛好すると共に、一方では烈々として燃ゆるが如き氣魄と氣概を藏して居る。若し彼等の獨立と自由を脅かすものがあれば、斷乎として之を排撃し、他民族の支配に屈しないと云ふのが、タイ民族の誇りある傳統である。南洋の他の國土が何れも英・米・佛・蘭・葡等の諸國の侵略に遭つて、其の領土となつて居るにも拘らず、タイ國だけが依然として獨立の體面を保ち、東亞の名譽の爲めに氣焰を擧げて居るのは、其の民族の胸底深く此の偉大なる魂が宿つて居るが爲めである。

#### 【佛教盲信の國】

タイ國は世界に類のない佛教盲信の國で、上は國王から下は陋屋に佗び住居する下民に至るまで、男子は一生に一度は佛門に歸依して、嚴肅なる修業を續けるのが神聖な義務の一つとされて居る。即ち一度佛門を叩いて得度したものでないと、社會的に一人前の人間になれないとしてある。されば官吏でも軍人でも學生でも、總てが三ヶ月とか半年とか、



佛門に入る時には公然と休暇が與へられる。

随つて此の佛教精神の普及から、タイ人は一般に慈悲心が強く、老衰や不具者等には喜んで喜捨する。中流以上の家庭では、貧しく憐れむべき厄介者を多く養ふことを一種の誇りとする風がある位で、孤兒や老病者を喜んで引取る美風があるので、此の自發的な救恤事業の發達から、公共の救恤機關は必要がない程であると云ふ。物乞ふ僧が門口に突立つた儘で、物を與へる俗人が跪いて合掌する此の國の街頭風景は、異國人には頗る奇妙に感ぜられるが、タイ人には布施の心がそれ程迄に徹底して居るのである。

日本の「坊主」と云ふ言葉は、タイ語の「ボンズ」から來たものであると云はれるが、全く國民皆僧と云ふのが此の國である。キリスト教やマホメット教、或はインド教等も古くからタイ國に入り込んで布教に努めたが、タイ人は佛教以外の他宗には絶対に心を動かしたことが無い。歴代の皇帝は皆佛教の篤き信者で、皇室に關する儀式は總て佛式であり、曆でも此の國では佛陀入滅の年を以て紀元元年と定めて居る。

随つてタイ國では又國內到る處に寺院が甚だ多い。首都の盤谷市内の如きは寺院四百、僧侶の數は七千と稱せられ、毎拂曉黄衣の僧が數百名も列を作つて市内を托鉢して廻ると、市民は其の姿を見て合掌して居るなど、此の國でなければ見られぬ光景であると云ふ。事實タイ國で見物するものは寺だけで、あらゆる文物、工藝、美術の粹は、此處では總て寺に集められて居るのである。

尙ほ此の佛教盲信は、一方では從來タイの國力を減損せしめたる事が少くないが、他方では全國民が宗教的に完全に統一されて居ることが、此の國が常に外邊の列國に壓迫されながらも、尙ほよく今日の獨立を保てる大きな原因の一つであると云ふから面白い。

### 【タイの特異なる風習】

一般に男子は幼年時代から頗る煙草好きで、殆んど國民男子の總てが愛煙家であると稱して差支へない程であるが、酒は佛教の戒律に觸れるので、宗教觀念の乏しい土民の階級を除けば、一滴も用ひないのが普通である。公開の宴席でも來客の接待に酒を出すのは非常な恥辱とされて居る程で、自發的の禁酒國として、タイ國は世界でも唯一のものであらうと云はれる。

タイ國固有の國民服はパンヌウ穿きである。パンヌウと云ふのは廣い長い布を腰に巻き、前で結んで剩つた布をクルクルと巻いて、跨の間からお尻の所に挟んだ、恰も腰巻と禪との合の子の様なものである。見た目が甚だ不體裁であると云ふ點からか、今日新政府では役人に限り其の使用を禁止し、日本の様に詰襟又は折襟の上衣に、ズボンを着けさせる事にして居るが、中流以上の婦人が日曜は赤、月曜は黄、火曜は桃色、水曜は草色、木曜は茶、金曜は空色、土曜は紫と、週日によつて夫々定められたる色彩に取り替えたパンヌウ姿は、誠に奥床しくもあり、又見る目も頗る鮮かである。

又タイ國では女も男と同じ様に散切り頭であることは、慣れぬ者には誠に奇異に感ぜられると云ふ。昔ビルマの侵略を受けた時、女も男装して戦つた遺風から來て居ると云ふのであるが、男女共にパンヌウ姿であるから、性の區別が甚だ曖昧である。但し笠を被ると男の笠は先きが尖つて居るし、女の笠は先が平たいので、容易に區別がはつきりするとの事である。

### 【華僑の横暴】

タイ國在留の支那人は、此の國の統計では約六〇萬と擧げられて居るが、之はタイに生れた支那人として、國籍法上登録された人數を指すもので、實際の華僑の數はナカ／＼それ所の數ではない。從來福建や廣東、雲南の各地から、故國の生活難と内亂の危急を逃れて、此の國に渡航するものが毎年頗る多かつた。而も來て見れば土地は豊饒であり、國



は平和で、本國での暮しに較べると誠に極樂の世界である。そこで家を構へ、タイの女を娶り、混血兒を生む。所がタイの法律では此の國で生れたものは總て自國民として、全く差別を設けない。彼等の生ませた混血兒にも兵役の義務を負はせて居る位であるから、支那人とタイ人との區別は薩張りつかぬ。斯くて支那人の血は凄じい勢ひでタイ人の中に入るのであつて、之等の混血兒を合せると、恐らく支那人の數は三―四〇〇萬にも達するだらうと云はれる。

元來が粘り強い支那人であるから、何時の間にか深く經濟界に根を下ろして、今では此の國の製材や精米、或は製革、製鹽等の大きな工業方面は勿論、下級の勞働者、鑛山の坑夫等凡て支那人の獨占状態で、海外との貿易の如きも殆んど彼等の掌中にあり、タイ人自體は經濟力の中樞を全く彼等に握られて、其の生活さえ脅かされる現狀である。

例へばタイの農民が水田を耕し粃を蒔いて稻を育てると、支那人が來て青田の中に金を渡して買入れて仕舞ふ。聽て收穫時になると此の買入れた稻を、自分の經營する精米所に運んで精米し、袋に詰めて國內への配給は勿論、國外への輸出も殆んど自分達の手で行ふ。即ち經濟上の實際から觀るとタイの農民は、支那人に雇はれて稻を作る機械の様なのである。

元來タイの國民は佛教の感化によつて、物質を軽く視る風がある。僧侶の托鉢には身の皮を剥いても布施するが、商賣をして金を儲け様と云ふ様な營利の觀念には極めて乏しい。人に與へる事を樂しむも、儲ける事を樂しむ點では極めて冷愴である。タイ人の此の國民性の短所が其の儘支那人の長所と相接觸するのであるから、華僑の此の國に於ける發展は、素晴らしい勢ひで進んで行くのである。

### 【白人の壓迫】

内からする華僑の横暴と相俟つて、タイ國を脅かすものは外から來る白人の壓迫である。東西から連りに領土を蠶食せられたるタイ國では、現在の領土を保つ爲めには時に「夷を以て夷を制する」の策略に出で、英國に好餌を與へて其

の力を借つて、佛軍を國境線迄撤退させると云ふ様な苦肉の策迄も經驗して來た。斯くて英佛の兩國は其の境界が相接するに伴れて、兩國間の紛争が次第に度重なる様になつて來たので、此處に一旦矛を收め、緩衝地帯として形の上だけにタイ國を保存し、寧ろ實質的に國內政治の中に食ひ込んで、内部から之を支配する政策に轉向した。之が即ち此の國の外人顧問制度である。

新興タイ國では度々外人顧問の整理を斷行したが、それでも尙ほ今日六十餘名の多くが員に備はり、之が實質的なタイ國政治の支配者となつて居る。而して之等顧問の割込運動に關しては英國は最も露骨にして、全員の約半數に當る三〇名近くは英吉利人であり、又顧問の中でも最も重要な位置を占むる財政顧問は、最初から英人が獨占して居るのである。

随つて現在タイ國は經濟的にも金融的にも、全くイギリスに左右されて居るのであつて、現に此の國の對外貿易の七〇％は英帝國に依存し、公債の九割迄は英國系の借金であり、又國內に流通する紙幣の準備金の大半はロンドンの英蘭銀行に預托されてある。英國は借款の形式によつてタイ國の鐵道や灌漑事業に投資し、英國仕込みの留學生を援助して政府の中樞に据え、政治的にも經濟的にも對英隸屬の羈絆から容易に脱せられない様、眞綿で咽喉を締めると云ふ誠に巧妙な政策を採つて居るのである。

今日では首府のバンコックも六外國銀行の中四つ迄が英吉利系であり、米に次ぐ重要物産である錫についても、採掘會社六〇社の中五〇社迄は英吉利系で、其の他チークの伐採でもゴムの栽培でも、概ね英吉利の資本下に事業が續けられて居る。現在英吉利が世界の市場に木材供給國として君臨して居るのは、ビルマからタイ國にかけての廣大な林産資源チークを獲得して居るが爲めであり、又錫鑛業に傑出したる地位を占めて居るのは、舊タイ國領であつたマレー半島から、南部タイに亘る豊富な錫鑛山を獨占して居るからである。されば之から觀ても日本が新興タイ國の育成發展を心



から歓迎して居るのに反して、英國が其の發育を警戒し、出來得る事なら若芽の中に摘取らんものと、常に奸策を怠らざる理由が容易に判るのである。

斯くて華僑と白人、殊に英吉利人の爲めに國家經濟と云ふ急所を握られて、其の壓迫下にタイ國は生長の芯を止められて居る現状で、之は此の國の先覺者達が、常に痛憤措かざる處である。

## 五、歴史と政治

### (1) 歴史

國民の大部分を占めるタイ族は、もとは支那の中原地帯に勢威を張りたる大民族であるが、其の後南下して南支那の雲南に據り、嘗つては北方の唐帝國と肩を並べる南紹王國ナンシャウを建設し、遠く西藏、安南の地方迄も征服して、特殊の文化を發達せしめ、富強一世を歴したるものである。

一二五三年さしも豪華を誇りし南紹王朝も、世界を席捲したる蒙古帝國の侵略を蒙り、忽必烈軍の鐵蹄下に蹂躪されて崩壊し去るや、自ら「自由の民」コソノタミを誇るタイ民族は、異民族の支配下に屈するを潔しとせず、遂に「自由の國」ムアソノクニを建設すべく民族の大移動を起して、メナム河の平原に定住し、先住民族たるモーン族やクメール族を逐ひ、後には次第に之を同化して、遂に今日の如くタイ國を建設するに至つたのである。

爾來諸王朝盛衰あり、時には隣邦ビルマ人に隸屬したる事あるも、アユチャヤ在留日本人の助力を以てビルマより獨立し、其の餘力を驅つて東隣のカンボヂヤを征服し、十四、五世紀の頃には其の全盛時代を現出した。

次いで十六世紀に入ると、内には王位の争ひが絶えず、外からは異民族の侵寇が續く、内憂外患に苦しめられて、次第に落日の影濃く立ち籠めて居たが、遂に一七六六年には南北兩面より進撃するビルマの大軍の爲めに、首都アユチャヤは重圍に陥り、一年有半に亘る力戰奮闘も其の效なく、市街は掠奪放火され、王族は數萬の市民と共に捕虜となり、アユチャヤ王朝四〇〇年の榮華の跡は、一朝にして全く灰燼に歸して仕舞つたのである。

然し國民はもとより「自由の民」を誇れるタイ民族である。彼等の血管の中には、祖先以來承継し獨立と自由の血潮が、沸々としてたぎつて居る。偉大なるシャム魂は、忍苦の大試練を経て愈々光輝を加へて行く。即ち戦後一度勇將ピヤ・タクシンが國土恢復を叫んで起つや、敗殘のタイ人は燃ゆる祖國愛を抱いて、窮乏の中から續々其の傘下に馳せ參じ、困苦缺乏に堪へてよく勇戰奮闘、悉くビルマの守備隊を驅逐して、首都陷落後僅に六ヶ月にして早くも獨立を恢復し、タクシンを奉じて國王とした。今から約一七〇餘年前の事にして、之が現バンコック王朝のラーマ第一世である。

ラーマ第四世の時代は對外關係で惱まされたが、王の聰明によつて、隣邦のビルマや交趾支那が悉く英佛に併呑される中であつて、よく獨立を維持し得た。第五世は我が明治天皇と略ぼ時を同じくして生れ、時を同じくして王位に即かれた英主で、在位四〇年の間に諸政の改革を斷行して國基を鞏くし、英邁「シャムの



明治大帝」として讃へられた。今も颯爽たる乗馬姿の銅像が、タイ國會議事堂の庭前に建てられて、全國民敬慕の的となり、附近を通過するものは誰でも、車上にあるものは帽子を脱ぎ、歩行者は合掌敬禮することになつて居る。

次いで第六世は其後を承けて内政を改革すると共に、外は歐洲大戰に参加して遠征軍を西部戦線に派遣した。ラーマ第七世は昭和七年の立憲革命後、間もなく退位して英國に去り、代つて現在のアナンダ・コイドン陛下の治世となつたのである。

忽必烈軍の鐵蹄下に蹂躪されて南紹王國が潰滅すると、其の治下に屈するを潔しとせず、一族を率ゐて遠く故土を去り、南洋の天地に新國家を建設する。ビルマ軍の侵入に遭つて首都を焼かれ、國土一度は夷敵の治下に屈したるも、半歳を経ずして早くも獨立を恢復する。此處に自ら「自由の民」「自由の國」を誇れるタイ人の、烈々たる氣魄が窺はれるのである。

## (2) 政治

白人列強の植民地に圍まれて、東西から挟み撃たれ、南北から壓迫されたるタイ國では、君民同憂の長い歴史を繰返へして來ただけに、民は國王を父と仰ぎ、國王は人民を子として愛撫する、大家族的な觀念が發達して居る。此の君民同和のタイ國に、近年勃然として擡頭し來つたのが、目覺めたる此の國の青年層によつて、聲高く叫ばれて居る「大タイ國」の建設である。

元來舊きタイ國は王族專制政治の國で、各國の顧問が權力を振ひ、恰も國際管理が行はれて居る様な状態であつた。然も内には華僑の經濟的横暴があり、外からは英佛、殊に英國の露骨な政治的、經濟的な壓迫がある。

其の上殆んど米一本建てとも云ふべき此の國の經濟組織は、海外市場の變動毎に一喜一憂を繰返へして、誠に不安極まりない。之では現状を長く續けて居ても、永久に浮ぶ瀬がない。宜しく一日も早く國內の諸政を一新し、國民生活の基礎を確立して、世界列強と伍して堂々東亞に濶歩し得る様な「大タイ國」を建設せねばならぬ。而して之が爲めには從來の様な、王族を取巻く一部特權階級の弱體内閣では役に立たぬ。本當の國民を基礎とする強力内閣を以て、此の非常時突破に當らねばならぬと云ふので、遂に長年の忍從生活が爆發して蹶起したのが昭和七年六月の國民革命である。

六月二十四日の朝まだき、憂國の至情溢るゝ少壯軍人と、之を率ゆる陸軍大佐ビヤ・バオン一派を乗せた裝甲自動車は、立ち籠むる曉の霧を衝いて王宮に向ひ、革命の宣言と新政權要望の最後通牒を國王に突きつけた。明敏なる國王ラーマ七世は早くも時勢を洞察して、直ちに諸政改革の大詔を發せられる。越えて十二月には憲法發布の運びとなり、續いて民選議員の選舉が行はれる。昭和十年三月には國王が退位せられ、當時御年十歳の皇甥アナンダ・マヒドーン殿下が即位される。舊シヤムの古い殻は一朝にして脱ぎ捨てられ、茲に立憲君主政治の新政體が、極めて平穩裡に出現したのである。



斯くて爾來諸政の革新は年毎に着々として實施せられ、今やタイ國は祖國愛に燃ゆる若き指導者達の下に、大タイ國建設の大理想顯現に向つて邁進を續けて居るのである。

**【起ち上るタイ國】**

毎年六月二十四日を此の國の神聖なる國祭日として、極めて盛大に祝ふのは、昭和七年六月二十四日の國民革命を永久に記念する爲めである。往昔四隣を睥睨したる、剛健にして自由を愛する祖先傳來の大精神が、尙ほ脈々としてタイ民族の血管中に傳つて居ることは、平素極めて温順しい國民の、此の大祭日に於ける熱狂振りによつても窺はれる。

此の革命こそは國王の明敏なる時勢洞察と、國民の佛徒として久しき訓練を経たる穩やかな性格との爲めに、凄絶なる流血の慘事こそなければ、タイ國にとつては實に國家維新の大轉機をなしたるものであつて、此の時ラーマ七世に突き付けられた(1)法權、財政、經濟の獨立擁護、(2)治安の維持及び犯罪の防止、(3)國民の經濟福祉の増進、(4)國民平等權の確立、(5)國民自由の確保、(6)國民教育の完全なる普及と云ふ六大新政要綱は、其後今日に至る迄着々具體化されて、「大タイ國建設」への理想は歩一歩、實現されつゝある。

憲法は發布せられ、久しきに亘る專制國家の舊套を脱して、國民には參政權が賦與される。軍備充實の必要を自覺して、銳意軍制の改革と兵備の近代化に努力する一方、國民には國防思想を宣傳し、盛んに國防訓練が實施される。青年訓練運動は遂に勃興して、陸軍部はカーキ服、海軍部は水兵服に身を固めて軍事訓練が盛んになる。國民覺醒運動が強調せられ、生活改善運動が絶叫され、田舎では未耕地の開拓が奨励される、都會地では諸官廳の土曜半休が廢止される。舉國一致の緊張振りを以て、落日影薄かりしシャムの過去から起ち上らんとするタイ國は、更生の意氣正に刮目すべきものがある。

近來英佛の兩國は聲を大にして、「其の國土は最も平和を愛好する英佛の兩國に包まれ、殊に兩國は所謂共同宣言により、互にタイ國の領土侵略を行はざる旨、並に他國にして斯かる野望を遂げんとするものに對しては、共同して之を阻止する旨を保證して居る。何を好んで不相應なる軍擴をなす必要があるか」と、タイ國の軍備擴充に對して連りに非難の聲を浴せて居るが、之に對してタイ國政府の爲政者等は、「今日の如き世界的な軍擴時代に、他國の言に信賴して安逸を貪るが如きは、全く痴人の夢である。誰か明日に於けるタイ國の地理的安全を確信し得るものがある。日・獨・伊の諸國が今日の隆昌を來したるは、偏に其の軍備に基因する。軍備こそは國の爪牙である。宜しく右の列強に倣ひ、國民は外國に頓着する處なく、十分に任務を遂行する確信を得るまで、軍備を整へる必要がある」と平氣で一蹴して居るのは頗る痛快である。

さても因循より躍進への若きタイ國の雄姿に接して、蕞爾たる弱國シャム何するものぞと侮り來つた英佛も、近來漸く晏如たらざるものあるは、誠に笑止千萬と云はねばならぬ。

**【華僑の彈壓】**

目覺めたるタイ國人の「大タイ國建設」の理想實現に當つて、大障礙を來すものは在留華僑の根強い活動である。元來本國の政治的背景を持たない彼等は、行く先にて或は鞏固な同業組合を作り、或は出生地別の結社を組織して、本國の風習を其の儘此處に持越して容易に同化しない。其の上孫文の民國革命以來華僑の祖國意識が頗る強くなつて來て、之に伴れて支那人の女の入國者が目立つて殖えて來た。そこで盛んに純支那人の子が殖える。而も之等の子弟の教育は、到る處に設けられた華僑學校で、支那から聘んだ教師が支那の教科書を用ひて行つて居る。

タイ國の國籍法は屬地法であるから、タイで生れた支那人も總てタイ人として參政權を持つ。所が其の背後にはタイ國の中産階級をなす數百萬の華僑が、國內の商權を握つて儼然と控へて居るのであるから、此の儘放任すれば遂にタイ



國の政治は、全く華僑に左右される日が来ないとも限らない。

加ふるに華僑は又タイ國で儲けた金を、ドシ／＼本國に送金する。彼等は家郷を離れて遠く異國に来て居る爲めに、望郷の念が頗る強く、或は家族の仕送りのため、又は本國への政治的獻金の爲めに絶えず送金するので、其の金が年額三千萬圓以上にも達すると云ふ。元來が農業國で、貿易外の收入としては何一つ見るべきものを持たないタイ國では、巨額の貿易出超も政府の外利支拂と、華僑の送金で相殺されて殆んど國內に止まらない。國家の財源を枯渇させる此の夥しい金貨の流出は、タイ國民の何としても我慢出来ない所である。

斯くて社會的にも經濟的にも將た政治的にも、華僑の存在が「大タイ國建設」上の大きな癌であることが判つて來るに伴れて、流石に寛容なタイ人も次第に焦躁を感じ出し、遂に大彈壓へと乗出して來たのである。

先づ嚴重な入國法が制定されて、一人につき邦貨約一五〇圓と云ふ相當高い入國税の徴収が始まつた。次いで親の同伴しない二〇歳未満のものや、十三歳以上の文盲者の入國禁止が斷行された。此の文盲者の入國禁止こそは、華僑にとつては此の上なき痛手で、國民の八〇%は無學文盲と云ふ支那人の中で、わざ／＼遠方のタイ國迄出稼ぎし様と云ふ連中の事であるから、もとより文字など知らう筈がない。此の點では流石の支那移民も手も足も出せない始末である。

華僑學校にも彈壓のメスは容赦なく加へられた。教師はタイ語試験の合格者たること、又一週二十一時間はタイ語で教授すること、云ふ様な嚴重な規則が設けられて、之に違反するものは例外なく閉校を命ぜられる。

支那事變が始まるとタイ國でも華僑等の日貨排斥運動が開始されたが、獨立國であるタイ國內で勝手に排日運動は怪しからんと、タイ國政府は敢然彈壓の態度を採つた。救國公債とか國防獻金とか云ふ様な、本國への政治的送金は勿論、募集も一切許さない。違反するものは遠慮なく國外への追放處分を喰はせる。漢字新聞の檢閲も嚴重も極め、國民政府の宣傳めいた事や、本國救援の事などを載せると直ちに發行を禁止する。

斯くて此の國の華僑は今や新政府の徹底的な彈壓の爲めに、瀕死の惱みに喘いで居る状態であるが、然し元來が根強い支那人の事であるから、彼等が過去久しきに亘つて社會的に、經濟的に植付けた大きな潜勢力と共に、いくら壓へられても底へ底へと根を張つて行く。此の點ではタイの新興政權も、殆んど持て餘して居る實情なのである。

### 【タイの國旗】

タイ國の國旗は從來は赤地に白象を表はしたものであつた。世界でも類のない佛敎國であるタイ國では、白象は佛の魂を持つた神聖な動物として非常に崇敬され、國王や聖者は來世では白象となつて生れ出ると一般に信ぜられて居る。昔から白象の出現は天下泰平の瑞兆として喜ばれて居るので、之を染め出した國旗を掲げて國土の誇りを示して居たが、今から凡そ二十餘年前に改めて、今日の様な三色旗を用ふる様になつた。

旗の幅の三分の一だけを中央部で横に藍色に染め、旗の兩側の六分の一だけを同じ様に横に赤く染め抜いたもので、其の色彩は上から順々に赤、白、藍、白、赤と云ふ順序になつて居る。而して此の國旗の示す精神は、第一に眞中の藍色はタイ國の王室の色を表はし、赤と白は平和を表はしたもので、即ち王室を中心として、國民が常に平和な生活を營んで行くこと云ふ國家の理想を表現したものである。

此の三色旗が制定されてからは、一般には白象の國旗は影をひそめたが、然し尙タイ王室の王旗や海軍旗、或は公使館の屋上に掲げられる國旗などには、今も尙ほ三色旗の眞中に白い象を小さく染め出して、白象の國の佛を残して居る。

### 六、都邑

【バンコック(盤谷)】 タイ國の首府にしてメナム河の兩岸に跨り、河口を距ること三五浬の地に位す。人



口約六〇萬、地理的に纏りのよい、此の國の一國一都の繁榮を示して居る。

國內鐵道交通の中心地たるのみならず、メナム河及び之より市内を縦横に通ずる運河、堀割によつて水運亦至便に、市民の三分の一は水上生活を營んで居ると云ふ。此の國百貨集散の大關門にして、米、チーク材等の輸出多く、タイ國貿易の大部分は此の地に於て行はれる。

市街には金色燦然たる壯麗な王宮を始めとして、諸官省、寺院、邸宅等宏壯なる建物が多く、四時綠り濃き街路樹の鬱蒼たる美しい舗装路は縦横に通じ、五色の彩り華かなる寺院の高塔は到る處中天に高く聳え、誠に東洋屈指の名都たるに恥ぢない。

但し之は表通りだけの景觀で、一度横街に入ると何分全市民の半分は支那人で、全市の商權は彼等の手にあり、煙草買ふにもお茶を飲むにも、店と云ふ店は總て支那人の店であると云ふだけに、街を往來する支那服の男女、ドラや胡弓の喧しい音色、獨特な一種の臭氣、ゴミくした雜鬧、總ての様子が全く支那風の感じである。

【舊都アユチャ】 盤谷から北方へ汽車で二時間餘、メナム河の畔、國內第一の米産豊かな沃野の中央に建てられた此の國の舊都で、慶長・元和の頃我が國の津田又左衛門や山田長政等が渡來して、日東男子の名聲を擧げた懐しい土地であるが、其後一七六七年ビルマ軍の來寇に遭うて全市焦土と化し、數萬の市民は捕へられて虐殺の憂目を見、數朝數百年の歲月を経て完成したる壯麗宏大極まりなかりし寺院も王宮も、一朝にして灰燼に歸し、今は僅に累々たる廢墟によつて往年榮華の跡を偲ぶのみ。在留日本人數百名に及び、威武王城を震駭せしめたる當時の日本町も、今は殆んど訪ねる

よすがもない。

## 七、日本とタイ國

タイ國の船が日本に來航したのは一五六三年（永祿六年）、肥前大浦灣の北部、横瀬浦に到着したのが最初である。次いで、文祿、慶長の頃になると彼我の往來も可なり頻繁となり、殊に戰國血腥き時代の後を享けて、城を奪はれ主君を失ひ、浪々の憂き年月を悶々の間に過したる不平の武士達は、狭い日本の天地に見切りをつけて、蒼海萬里の彼方に活動の新天地を開拓せんものと、圖南の雄志に燃ゆる俠商と相結んで、盛んに此の地に進出した。

元和の年中駿河の人、山田長政は膽太くして大志あり、シヤムに渡航して國王タンソンに召出され、隣邦ビルマの外寇を見事に擊退して偉功を樹て、國王より大に禮遇せられ、其の王妹を娶つて六昆王シソゴに列せしめられた。部下には常に精銳なる日本人兵八〇〇を中心とする堅軍を擁し、勢威アユチャ朝を壓するものあり、後王位繼承問題の紛糾から篡奪派の爲めに謀られ、遂に毒藥を盛られて悲憤な最期を遂げるに至つたが、華かなりし其の事蹟は今も青史に傳はつて、日本男兒の爲めに萬丈の氣を吐いて居る。

長政の此の快舉が、當時日本の青年層を刺激したることの頗る大なりし事は、相次いでシヤムに渡航するものが甚だ多く、爲めに兩國の貿易關係が俄に促進せしめられた事によつても判る。播摩高砂の人天竺徳兵衛が弱冠僅に十五歳にして、貿易船に便乗して遠くシヤムを始め南海の各地を巡歴、一旦歸國したる後復た



再び海を渡り、詳さに各地の地理、風俗、産物等を視察し、其の見聞を世に公にしたる天竺渡海物語によると、當時の貿易船は水夫八〇人、乗客三〇〇餘人と云ふ頗る大仕掛けのもので、日本からの貿易品は蚊帳、扇子、塗物、傘、銅器等であつたと云ふ。慶長年間徳川家康は屢々使節をシヤムに送り、之に對してシヤム國王亦我が國に使節を遣はし、時には鐵炮五〇挺を贈つて良馬を我に求め、通商の促進を希望したる事等が史上に残れる事から見ても、當時既に兩國の關係は相當親密の度を加へつゝあつた事が判る。

寛永十三年徳川家光が苛烈なる鎖國政策を斷行し、耶蘇教の禁令と共に海外との交通を嚴禁したので、兩國は全く相接觸する機會を失つたが、次いで明治維新後は彼我の交通復た開け、二十一年には修交條約が締結されて、國交の復活を見る様になつた。

殊に日露戰爭後我が國の名聲四海に普ねく、一躍世界列強の伍班に列するや、此の國人の日本に對する憧憬の念は益々加はり、我が國の援助と指導によつて大に國威の振興を圖らんとして、屢々皇族、大臣の來遊するあり、邦人の顧問又は教師として招聘されるもの多く、兩國の親善關係は年と共に濃度を増して行つた。唯だ當時我が國は東西から連りにシヤムを壓迫しつゝありし英佛への遠慮から、縫りつく様にして差し延べる友邦シヤムの手を沒義道に振り切つて、わざ／＼疎遠を裝はねばならなかつた事は、時勢とは申せ誠に腑甲斐なき次第で、此の國に對しては甚だ相濟まざる所であつた。

然しそれにも拘らず、タイ國の日本に對する信賴友好の念が、些かも傷けられる事のなかつたことは誠に

仕合せである。即ち昭和八年二月滿洲事變を主題とする國際聯盟總會の席上に於て、タイ國代表だけがアジヤの一友邦として敢然棄權し、日本に同情ある態度を示して呉れたことは、我が國民の齊しく感激したる所である。隨つて此の事があつてからは兩國の接近は急速に發展し、我が國から經濟使節や文化使節が渡航して親善工作に努めると、或は政治の研究を目的として、又は産業の視察を志して、此の國からも王族、大臣が續々入朝する。我が國人も亦心から之が歡待に努め、能ふる限りの指導誘掖を怠らず、相互の理解が親善への拍車となつて居るのである。

支那事變が始まると、此の國でも華僑の日貨排斥運動が猛烈に起つたが、タイ國政府は敢然之が彈壓に出で、命に背くものは容赦なく逮捕して、國外に追放する。又救國公債や國防献金等凡て政治的意味を有する國外送金は勿論、募金も一切嚴禁して許さない。心から正義の國日本に對して、同情を送つて居て呉れるのである。

昭和十五年六月には日本とタイ國との間に、友好和親條約が成立した。其の内容は、(一)締約國相互の領土權尊重、並に平和及び友好關係の確認、(二)兩國共通の利害問題に關する情報交換及び協議、(三)締約國の一方が第三國より攻撃せられたる場合に於ける、該第三國不援助の義務の三者を骨子としたるもので、批准交換の日より效力を發生し、其の有効期間を五ヶ年とする。

過去幾百年の久しき接觸に於て、其の間些かの紛争を見たる事もなければ、又現在に於ても政治的にも經



濟的にも、相互の利害が完全に一致するのが日・タイの兩國である。即ち兩國は經濟的には有無相通ずる關係にあり、政治的には共に東亞の獨立國として、新東亞の建設と其の維持の責任を分擔すべき地位にある。今回兩國が相互に其の領土權を尊重するのみならず、兩國間の平和及び友好關係の存在を確認する締約をなすに至つたのは、右の實情に徴して極めて自然のことである。吾等は兩國間に存在する緊密なる政治的、經濟的の利害關係をこゝに明確に再認識する事によつて、彼我の國交親善が一層促進せしめらるべきを想ふて、新條約の成立を心から祝福するものである。

### 【日・泰定期航空路の開設】

昭和十五年の二月以來我が國は、東京—臺北—河内—ウドルン—盤谷の間、五四〇〇軒の南方コースに、毎週一往復の旅客、貨物、郵便物輸送の定期航空路を開始することとなつた。實に之こそ我が定期航空路の飛躍的進出であつて、現在日・泰交通の殆んど全部が海運であり、横濱・盤谷線には大阪商船、三井物産の定期船が就航し、前者が十五日、後者が九日の日數を要したのが、定期航空便によれば運賃は六〇〇圓で稍々高いが、僅に二日で連絡することが出来る。従來からの盤谷寄航の外國定期航空路には、次の三種があつた。

- (1)、英吉利のインベリアル・エアウェイズ會社の英國—濠洲線は總距離二萬餘軒、毎週三往復で、英本國と盤谷間は五日、シドニー—盤谷間も同じく五日で連絡する。
- (2)、佛蘭西のエアール・フランス會社の佛本國のマルセイユから、タイ國、佛領印度を經由して香港に達する極東線で、毎週一往復で、總距離一萬三千餘軒、佛本國からバンコック迄は五日間で連絡する。
- (3)、和蘭のK・L・M會社のアムステルダムから泰國を経て、ジャヴァのバタヴィヤに到る蘭印線は、總距離一萬四千

軒、毎週三往復で、和蘭からバタヴィヤ迄の所要日數は五日半である。

然し之等の航空路を經營する三國は、何れも第二次歐洲大戰の渦中に投じて或は潰滅し、或は衰頹し、遠き西ヨーロッパの地に焦躁と煩悶を重ねるのみにして、過去に於けるが如き華々しき東洋への進出は、憐れにも當分は全く望まれない状態である。此の時に當つて我が帝國は戰禍幾年、然も尙ほ綽々たる餘裕を存し、空からの緊密なる連絡によつて、東亞協同體の盟主たるの貫祿を十分に發揮し、日・泰兩國の友好親善に多大の貢獻を寄與しつゝあることは誠に愉快至極である。

## 第三節 英領マレー(馬來)

### 一、位置と面積

英領マレーは嚴密に云へばマレー半島南部の外、印度洋上にあるコ、ス島、クリスマス島、及びボルネオに於けるブルネー、サラワクの兩王國、並びに英領北ボルネオをも包括したる廣い地域を指すが、此處では特に一般的に呼ばれるマレー半島南部の地方のみを擧げて、ボルネオ島に於ける地域は蘭領印度の部で語ることにする。

英領マレーはアジャ大陸の最南部を占めるマレー半島の中、シンガポールの南端北緯一度一五分から北方六度四四分に達する地域で、東は南支那海を隔て、世界第三の大島ボルネオに相對し、西南はマラッカ海峽を越えてスマトラ島の北部と相對峙し、北は接壤國タイを隔て、ビルマに通ず。總面積一三萬六千方軒餘、



我が九州と北海道を合せたるものと略ぼ同面積である。

政治上からは之を更に次の三種に區分する。

(1) 海峡植民地

シンガポール島、ピナン島、マラッカ、デンデングス等の地域で、ボルネオ東岸のラブアン島、印度洋上のココス島、クリスマス島と共に英國の直轄植民地にして、總面積は四千方糎、人口約一五〇萬、シンガポール駐在の總督によつて統治される。

(2) マレー聯邦

ペラ、セラシゴル、ネグリ・セムピラン、バハンの四土侯國が組織する聯邦で、面積七萬二千方糎、人口約二〇〇萬、總督は之等の國の高等辨務官を兼ね、英國の保護下に統治する。

(3) 非聯邦州

ジョホール、ケダー、ペルリス、ケランタン、トレンガヌの五土侯國が之に屬し、面積六萬方糎、人口約一七〇萬、夫々條約によつて英國の保護を受け、國內統治には英國人の顧問が參與する。聯邦州と異なる處は唯だ聯邦を組織せず、各個の條約によつて英吉利の保護領となつて居ると云ふ點だけで、實際の統治は少しも異なるない。其の住民は何れも英吉利の保護領臣民の資格であり、實際の行政權は總て英吉利の官憲に握られて居る。

マレー半島内には花崗岩や硅岩から成る山脈が幾つも相連り、夫れ等各山脈の間にある多くの河川は、強烈な熱帶特有の降雨を受けて水量が甚だ多い。到る處に千古斧を入れたることなき大密林が横はり、天を摩する巨樹喬木には籐や蔦の類が枝から枝へと縦横に絡みついて、晝尙ほ暗く、地上には或は落葉が尺餘に積

み重なり、或は雜草が隙間もなく繁茂して、全く行人を阻む。象、虎、豹或は野牛、犀、獐、麝等の猛獸珍獸が其の間に棲息するので、冒險好きな白人達によつて、屢々壯快な猛獸狩が此の密林の間で行はれる。

二、氣候と産業

(1) 氣候

英領マレーの氣候上の特質は、一年を通じて變化の乏しい事と、濕氣の極めて多いことである。

氣温は長く海上に突出する半島地帯であるだけに、最高温度も木蔭では三二度内外にして、海岸地方ではそれより一、二度も低く、他の熱帶地方に於けるが如く馬鹿げた高温に達せない事は頗る恵まれて居る。

新嘉坡の如きは赤道に近いから、定めて炎熱燒くが如くであらうとは誰もが想像する處であるが、實際は最高温度も三五度を越えず、夜は毛布を必要とする程で、東京や上海邊りの夏よりは遙に凌ぎよい。其の常夏の氣候は冬服も燃料も要らなくて甚だ結構の様であるが、之を四季の變化が極めて規則正しく循環する日本邊りと較べると、誠に單調至極で、永年此處に暮して居ると次第に根氣を失つて、心身共に活動力が著しく鈍つて来る。新嘉坡在留の各國民が進んでテニスやゴルフ等の戶外運動に興ずるのも、一つは保健上の絶對必要に基づくものであると云ふ。

(2) 産業

英領マレーの三大産物として擧ぐべきものは、護謨と錫とコブラである。



護謨は毎年の生産額五〇萬噸に近く、世界ゴム生産額の四五%を占めて世界第一である。若し之に蘭領印度の約三五%を加へる時は、東南アジアの一角から實に世界生産額の約八〇%を産出する譯けで、世は正に「ゴムと石油時代」と稱せられる今日、誠に羨むべき富源と云はねばならぬ。此の護謨栽培には我が國人の従事するものも多く、ジョホール州にある日新護謨園の如きは廣さ一千英町歩に餘り、多數の支那人、マレー人を使用して盛んに採取、製造が行はれて居る。

錫は生産額五萬三千噸にして、是れ亦世界生産額の三五%に當り、同じく世界第一で、マレーの景氣は右のゴムと錫の二商品の相場の騰落によつて左右されると云はれて居る。而して右の二品は共に米國を最大の顧客とするので、米國に於ける需要の増減は、直ちに馬來の經濟界に影響する現狀である。

コブラはコ、椰子の種子の胚乳を乾燥したるもので、約六〇%の油脂を含み、之から搾つた椰子油は食用又は石鹼製造用として重視される。英領マレーに於ける其の年産額はコブラ十一萬噸、椰子油三萬六千噸にして、是れ亦極めて重要な財源である。

其他米、珈琲、甘蔗、バインアップル等も産額が多く、殊に米は全人口の九割八歩を占める支那人、マレー人、印度人等の常食として需要が頗る大であるにも拘らず、其の生産額は僅に消費の半ばを充すに過ぎず、隨つて毎年多量の米をビルマ、タイ國等より輸入する現狀にして、近年政府では荐りに増産の計畫を樹て、之が栽培を奨励して居るから、將來の生産増加は期して俟つべきものがあらう。又バインアップルの如きも

生産頗る豊かにして、之が鑛詰の生産額は布哇に次いで世界第二位である。

鑛産物には錫の外に鐵・金等の産出あり、特に鐵は我が石原産業會社のスリメダン、日本鑛業會社のヅングン兩鑛山を主として、マレーの鐵山は殆んど完全に日本資本の獨占下にあり、今日日本では毎年消費する約四五〇萬噸の鐵の中、國內の産出額約一一〇萬噸を除いた残りの三四〇萬噸は、之を海外からの輸入に仰ぐが、其の三分の一は之等マレーの諸鑛山から供給して居るのであるから、之も鐵不足の日本にとつてはなかく馬鹿にならぬ存在である。

### 三、住民と政治

#### (1) 住民

英領マレーの總人口約五三〇萬の中、支那人は其の四二%を占めて第一位に居り、マレー人は約四一%にして之に次ぎ、右の二者を合せると總數の八三%に上る。即ち十人集まれば四人は支那人、四人はマレー人、僅に残りの二人が印度人、歐洲人、或は歐洲人と土人の混血兒と云ふ顔振れである。

遠く家郷を離れて幾百里、南洋の此の半島にさえ土人を凌駕する程の其の進出振りは、彼等華僑の發展の極めて根強さをハッキリと物語つて居る。事實首都の新嘉坡市の如きは人口五〇萬の中、三五萬は在留支那人で總數の約七割に當る上に、彼等は又經濟力や購買力では一人よく土人の五人に匹敵する實力を持つて居るので、其の勢力は全く壓倒的で、實に英領マレーは形式上からは英吉利の統治下と云ふ事になつて居る



が、實質的には支那人が開拓して支那人が經營する、支那の植民地と見ても差支へない程である。

日本人は支那事變前にはシンガポール市を中心として約四千人が在留し、漁業に従事する約一千人を第一として、其他銀行員、會社員、商店員、醫者、家事使用人、雜貨商、理髮業、旅館、寫眞業等を營むものが多く、又半島方面でも多數の日本人がゴム園、鑛山關係等に從事して、狭い天地の割合には相當の發展振りを示してゐたが、事變勃發後は華僑の猛烈なる排日運動に苦められて歸國するものが相踵ぎ、今では約三千餘人が辛辣なる其の壓迫下に孤軍奮闘の生活を續けて居る。

### 【素晴らしい華僑の勢力】

同じ南洋でも蘭領印度では、總人口七千萬の中華僑の数は約一五〇萬で、僅に總人口の五%を占むるに過ぎないのに反して、英領マレーでは支那人の数は總人口五三〇萬の中約二二〇餘萬に上り、實に四二%の多きを占めて居る。隨つて其の勢力は壓倒的で、シンガポールの如きは華僑排日の中心として、南洋六五〇萬の華僑に排日運動の指令を出して居る程の横暴振りで、之が我が國の南進發展を妨げる事が少くない。されば是處にマレーの華僑を中心として、南洋華僑の活躍を稍々詳かに語ることにする。

華僑の華は中華の華、僑は僑居の僑で、本來は一時的の在留支那人を意味するが、今では代々定住せるものをも包括する。元來支那人の民族的發展は誠に驚くべきもので、「若し人爲的の制限が設けられて居らぬとしたら、世界中は殆んど支那人の住居となるであらう」と云はれる位に、彼等は本國政府からは何等の保護も獎勵も受けて居ないにも拘らず、世界の各地にドシ／＼と進出して行く。殊に東南アジアの各地は南部支那の廣東や福建とは位置も割合に近接して

居るので、此の方面に於ける華僑の發展は誠に素晴らしい。

抑々廣東、福建の二省は天恵が甚だ菲薄であるにも拘らず、人口が頗る稠密にして、生活難が甚だしい結果必然の勢ひとして、古來海外移住の風を生ぜしめるに至つたのであるが、粘りの強い彼等が、距離の近い上に天産亦頗る豊かな此の樂土を見逃して居る筈がない。最初は土人よりも低い賃銀の勞働者として、農園や鑛山等の被備、雜役を働いて居たものが、次第に小作人から地主に、或は行商から小賣人に、仲買人から卸商や貿易商へと發展し、小金を貯めて土着すると、此の先住の華僑は荐りに故國の親戚や同郷人を呼び寄せる。呼ばれた同郷人は家族を引纏めて、大匹小匹ぞろ／＼と渡つて行く。勿論之等も最初は雜役被備から始めるが、ドン底低級の生活は平氣の平左であり、而も低利に甘んじて孜々汲々、努力してよく環境と相和し、歩一步と富を貯へるのであるから、之も間もなく小作から地主に、行商から卸商にと着々發展して行く。

斯くて今日東南アジアに發展せる華僑は、其の數實に六五〇萬人、其の本國への送金額は事變前には毎年二億圓を下らず、支那本國累年の輸入超過は概ね之によつて補はれ、支那を救ふものは華僑であると言はれた程で、本國に於ける諸事業への投資、國民政府の公債引受を始めとして、社會施設、教育施設にも幾多の功績を擧げて居る。現に厦門大學の如きは一華僑の手によつて建設されたもので、以て彼等の實力の程度を推知する事が出来るであらう。革命の父孫文をして支那再建の爲めに發足させたのも、彼等華僑の支援に依るものであり、又抗日蔣政權が廣東に軍を起し、北伐を完成して南京に其の政府を樹立し、遂に抗日戰の迷夢を結び、更に没落の現狀に至るまで、始終華僑の支援が其の推進力となつて居たのである。恐らく彼等が抗日政權に煽てられて、事變以來獻納したる軍費は幾億と云ふ巨額に達する事であらう。

支那事變と共に之等南洋華僑の排日ポイコットの猛烈さには、在留日本人も全く手を焼いて居る。苟くも日本製品で



あり、日本商人の手を経たる商品である以上、決して買はぬ。已に發した注文も取消す。一旦定めた契約も破棄する。又日本人に對しては何物も賣らぬ。貸さぬ。日本人は永年借りて居た借家さえ追ひ出される。甚だしきは日本人とあれば醫者にもかゝらぬ。床屋にも入らぬと云ふ實況で、在留同胞の受けつゝある打撃の甚大さは、誠に想像の外である。殊に英領マレーに於ける華僑の排日は頗る徹底的で、最初は日本人に直接危害を加へる様なテロ行爲もあつたが、次第に進んで來ると方法が餘程巧妙になつて、今では日本人に危害を加へる様なものは無くなつた代り、「日本商品を取扱ふな。日本の店と取引してはならぬ」と云ふ經濟的な壓迫を、極めて深刻に且つ徹底的に續ける様になつて來た。

例へば日本人の店の前には張番が立つ。其の店と取引したるものは勿論、足を一步でも日本商店に入れたものは、支那人である限り途中に待伏せして、殴る、蹴る、甚だしいのになると耳を切る、鼻を削ぐ、中には殺されたものもある位であるから、支那人は如何に日本人と商賣をしたくとも、絶対に出來ない譯けで、其の結果日本人は全く孤立の状態に陥り、購買力の貧弱な土人相手か、日本人同志の友喰ひ生活か、商賣の範圍は非常に狭められ、萎微沈衰し、目も當てられない非境に喘いで居る様な次第である。

然し此の華僑の徹底的な排日運動は、單に日本人計りが苦しめられて居るのではない。同時に彼等華僑も日本商品が取扱へないので、手痛い打撃を蒙り、大きな損害を受けて、破産するものが相踵ぐと云ふ状態であるから、誠に馬鹿げた話である。中には抗日テロの跋扈を恐れて、表面には排日を叫んで居るが、内心では一日も早く此の運動が緩和されて、儲かる日本商品を取扱ひたいと熱望して居るものも少くない。

最近等華僑と郷里を同じくする廣東生れの汪精衛氏が「和平救國」の大旗を掲げ、更生支那の新政權を率ひて起つに及んで、華僑の排日運動の陣容にも大きな動搖が生じて來た様である。南洋の華僑六五〇萬の中には、母國支那の興亡盛衰と全然没交渉のものもあれば、無感覺のものもあるが、併し少くとも其の半數の三〇〇萬乃至四〇〇萬人華僑に至

つては、或は故郷に家族を残して居る出稼人、又は異郷に成功して、支那の諸事業に投資せる商工業者である。彼等が祖國の和平と繁榮とを熱心に要望する事は云ふ迄もない。

此の際に汪精衛躍起の旗印たる「和平救國」は、之等華僑の容易に共鳴を得るに十分なる題目である。而して和平への道は、即ち抗日・排日政策の放棄を何よりも先決問題とする。之を唱へて起てるものは同郷の俊鷹にして、彼等華僑の敬愛する汪氏其人である。更に汪氏の夫人陳璧女子がピナンの華僑富豪の娘であることも、彼等にとつては一種の魅力である。

斯くて猛烈なる排日運動も、今や次第に緩和への曙光を示さんとする状態にあることは、誠に慶賀に堪へぬ。吾等是一日も早く明朝アジアの建設と、日支兩國の協調努力による共存共榮の實現を、東南アジアの天地に於ても深く期待するのであつて、久しく排日貨を強制されて惱まされた南洋華僑達が、醜然非を改め、正義の國日本の眞意をよく了解して、欣然新東亞協同體の確立に参加する日の、一日も早からんことを切望するものである。

## (2) 政治

マレー半島を最初に占領したのは葡萄牙人である。彼等は既に一五一一年の頃から、此の地に於て商業を營んで居た。爾來一〇〇年の間葡萄牙人は相當繁榮したが、一六一四年和蘭人によつて其の勢力は驅逐せられ、次いで一七九五年には和蘭人は英吉利人によつて、葡萄牙人と同様な運命に置かれる様になつた。

抑々英人のマレー半島進出は、最初は矢張り商業的意圖の下に行はれ、英人ライトのピナン島買収、ラッフルスのシンガポール島占領等、何れも通商の要路を扼する事を目的としたものであつたが、一八六七年マラッカ海峡の之等植民地が、東印度會社の管轄から英國の直轄に移されると同時に、マレー半島に對する



英國の政策は商略から政略へと轉向し、此處に英國のマレー半島回教國に對する内政干渉政策が實施され、執拗なる蠶食が進められた結果、遂に一九世紀末には面積一三萬六千方呎、人口約五〇〇萬、英國東洋艦隊の最大根據地として、極東のジブラルタルと呼ばれる要港新嘉坡を擁する此の要地も、事實上英國の領域化するに至つたのである。

現在英領マレーを統治するものは、シンガポールに駐在する海峽植民地の總督である。總督は英國皇帝の親任にかゝり、其の權限は頗る廣大にして、本國植民大臣の監督下に行政・司法の最高官であると同時に、軍の司令長官である。

海峽植民地は英國の領土にして、其の統治は全く總督の權限にあり、總督の諮問機關として行政參事院と立法參事院とが設置されて居るが、之を構成する議員は大部分が英人で、例へば立法參事院の如きは二十六名の議員中十三名は英國官吏、十一名は總督の指名による平議員であり、僅に残りの二名がシンガポール及びピナンの商業會議所から推薦されるのみで、實質的には全く總督の傀儡たる形式的な存在に過ぎない。

マレー聯邦州にも非聯邦州にも、各州には夫々國王が儼然として控へて居るが、之等は何れも名目計りの君主で、公式の出入りに禮砲を放つて喜ばせるのが關の山である。マレー聯邦に於ける行政上の最高支配權は、海峽植民地總督が兼任する統監が持つて居るが、實際の政治は其の下にある總務長官が之に當り、各州には夫々英國駐劄官が配置されて國王を輔佐して居る。又非聯邦州は各州相互間には何等の政治的聯邦は

有つて居ないが、各州は海峽植民地總督の支配を受け、夫々英國顧問が配置されて政治の監督に當つて居る。

#### 四、都 邑

##### 【シンガポール(新嘉坡)】

亞細亞大陸の最南部を占めたるマレー半島の尖端、支那・日本への航路の廻轉急カーブに當る處、同名の島上に發達せる港市にして、半島との間約一〇町のジョホール海峽は、幅約六〇呎、複線列車運轉の外、自動車及び車馬の交通自由なる一大陸橋を以て連絡されて居る。

一九世紀の始め頃迄は住民僅に一五〇人と云ふ見る影もなき一漁村に過ぎなかつたが、當時ピナンにあつたイギリス東印度會社の書記として來航したる英人ラッフルスは、次第に勃興しつゝあつた對東洋貿易の根據地として、半島の南端に位する此の島に着眼し、一八一九年對岸のジョホール王から長さ二七哩、幅一四哩、面積二二五方哩の本島を僅に六萬弗、只見た様な値で買收したのである。

其の位置が東洋、西洋、南洋を連結する咽喉首に當るを以て、夙に「シンガポールを握る者は太平洋を制す」の語あり、自由貿易港として毎年の出入船舶は約三千萬噸に上り、錫、ゴム、チーク材、米、コブラ、ガンリン、綿布等を主とする仲繼貿易は極めて盛んにして、貿易額は二億磅を超ゆ。六萬弗で買入れた此の小島が爾來僅々百餘年にして、斯程迄の大發展を遂げ様とは、流石にラッフルスの炯眼でも恐らく思ひ及ば



なかつた處であらう。

人口は約五〇萬、住民の種類は極めて多種多様で、支那人、マレー人、タイ人、印度人、ビルマ人、其他三〇餘國の民族が雜然と居住し、世界の「人種博覽會場」と云はれるが、中でも支那人は最も多くして總數の七割を占め、支那一流の黒塗金箔の看板や、赤地に白く抜いた廣告幟は街に氾濫し、往來するものも、物を賣るものも、俥に乗る人も之を曳く人も、其の悉くが支那人で、彼等は斷然經濟上の實力を握つて居る。市内には海峽植民地總督の駐在する政廳を始め、各國の領事館、あらゆる南洋の珍木奇草を集めた植物園、奇獸珍鳥を飼養せる動物園等見るべきもの多く、又港には船渠、棧橋、倉庫其他の諸設備皆完全して、實に東洋に於ける模範的港市のひと稱せられる。

殊にシンガポールの重要性は、英國の極東の權益を守る軍事的根據地たるにある。「位置の要樞」、「地形の險要」、相俟つて英國東洋艦隊の基地として、「東洋のジブラルタル」の名あり、彼の極東勢力の牙城として、全島殆んど要塞化されたる其の軍事的施設にある。

#### 【龍大なる軍港施設】

シンガポールの海軍根據地は昭和十一年以來一段と擴張を行ひ、島の北部市街を距る十二哩のジョホール海峡に沿つた、沼澤地を埋立て、作つた龍大な施設である。之が構築の爲めに、實に六〇〇萬立方呎の土が掘返へされたと云ふのであるから素晴らしい。或は山を裂き、川を移し、マンダロープの生ひ茂る沼澤地を埋め、之が完成の爲めには三億

圓からの巨費が投ぜられたと云ふのであるから、以て其の規模の壯大さが窺へるであらう。

即ち其の巨大な乾ドックは長さ一〇〇〇呎、幅は一三〇呎、深さは三五呎に及び、五萬噸級の戦艦を樂々と收容し得ると云ふ。又浮ドックは長さ九〇〇呎、幅二〇〇呎で、巨體の底部には六萬人の人間を收容する事が出来ると云ふ。規模廣大世界第三位で、五萬噸の軍艦を收容し得られる。之等のドックは實にシンガポールの城砦で、之が無ければいざ太平洋で開戦と云ふ場合、損傷した軍艦は一々八〇〇〇哩も離れたマルタ島迄運ばねばならぬ。それでは戦争も終つて仕舞ひ、新嘉坡の根據地も無用の長物となつて仕舞ふのである。

空軍根據地は海軍の東方の入江の奥にあり、軍用飛行場は三ヶ所に分れて居るが、更にマレーの本土にも根據地がある。新鋭飛行艇は三千餘軒の航続力を持つて、遠く支那海をも脅かさんとして居る。平時シンガポールが英・蘭兩國幹線航空路の中心點となつて、英本國、印度と連絡し、更に濠洲始め大洋洲諸島へ觸手を伸して居るのに鑑みても、戦時に於ける同島の空軍基地としての、重要性が認められるのである。其の他一〇〇萬噸の燃料を貯藏する白臘色に輝ける巨大なタンクの一群、高く雲を衝く三基の大無電塔、地下に設けられた龍大な火薬庫と彈藥庫等各種の施設を完備して、之が守備の爲めに約一萬餘名の各種砲隊が、島の東北部のチャンギに軍司令部を置いて駐屯して居るが、何分島全體が要塞であり砲臺であるから、其の兵力は兵數では計量出来ぬ。

極東の狀勢に怯えたる英國は、常に此處で軍事會議を開いて防備策の検討に餘念なく、随つて外國人の住民に對する取締りは殊に嚴重で、特に日本人に對する壓迫は甚だしく、從來屢々無實の罪で邦人の逮捕監禁されたるものあり、没落に喘ぐ英國の狂奔振りを如實に示して居るのである。

#### 【ピナン(坡南)】

マレー半島の西海岸に近く、マラッカ海峡の北部を扼したる一小島にして、西南は海峡を隔て、スマトラ



島と相對し、東は約二哩の水道で半島と相接す。面積約二八〇方軒、一七八六年英人ライト大佐が對岸のケダーの土侯から譲り受けた處で、市街はジョージタウンと云ひ、人口約一五萬、半島方面及びスマトラ島からゴム、コブラ、椰子油等の輸出物資が集り來るので、貿易盛んにして、マレー半島では新嘉坡に次ぐ繁榮振りである。住民の大部分は支那人で、市の經濟界も其の支配下にあり、又我が郵船歐洲航路の寄航地にして、日本人の在留者も多く、日本旅館も設けられて居る。

#### 第四節 ビルマ(緬甸)

##### 一、ビルマも南洋

著者はビルマも南洋に包含して考へて居る。第一ビルマは地形的には印度支那半島の西部を占めて、印度本部とは全然別個の存在である。

人種的には太古北方より移り來つた蒙古人種に屬するビルマ族が、前住民を驅逐してビルマの中原に居を占めたもので、西洋人種系のアリアン族である印度人とは根本から違ふ。歴史的にはビルマは今から約一〇〇年前迄は立派な獨立國であつた。唐代既に驃國の名を以て知られ、元代には今の泰國からラオスの一部をも其の版圖に收めて、強盛四近を壓したるものである。其後國力次第に衰へて、清朝時代には一時之に臣従したることあり、次いで英國の東洋侵略の犠牲となり、衰へたる古王國は全く其の鐵蹄下に蹂躪されて、印

度帝國の一州として統治されて居たが、元來人種も言語も、歴史も風俗習慣も社會組織も、ビルマ人と印度人とは根本的に違ふので、事毎に唾み合つて反目と抗争は次から次へと連續する。流石の英國人もビルマの統治には全く手を焼いて、揚句の果てに兩者を分離することの妥當なるに氣がつき、昭和十年に制定したる新憲法で、印度帝國が昭和十二年の四月から印度聯邦となるのを機會に、ビルマを完全に印度から分離して、獨立した植民地として統治することゝなつた程である。

要するにビルマは地形的にも產業的にも又文化的にも、印度半島とは大に趣を異にして、寧ろ泰國と相類似して居る。随つて泰國を南洋に包括するなれば、抗日蔣政権への輸血路滇緬ルートで日本と交渉繁きビルマをも、當然南洋の圏内に加ふべきものと思ふのである。

此の東亞共榮圏内に包括さるべきビルマ王國を、無理矢理に打つ潰して住民の幸福も繁榮も聊かのお構ひなく、ユニオン・ジャックの旗の下に押籠めた英吉利の辛辣さには全く呆れ返へる。

英吉利のビルマ侵略の第一歩は、ビルマの政治犯罪人が英領ベンガルに遁げ込んだのを、英國が其の引渡しを拒絶したことから始まる。之が爲めに、第一次ビルマ戦争が勃發し、一八二四年(文政七年)から二六年度印度の英軍とビルマ軍が攻戦したが、もとより平和好きなビルマ人は擦れつ枯らしの英吉利人の敵でない。一八二六年の講和によつて二〇〇萬磅の償金と、アッサム其他東隣の三州を捲き上げられて仕舞つた。第二回目はラングーンに在住する英國商人を、ビルマ政府が壓迫するとの理由で一八五一年(嘉永四年)



英吉利から戦争を仕掛けて来た。弱いビルマ軍は施す術もない。同年十二月の講和によつてラングーンを失ひ、國境に於てペーグ州を奪はれ、愈々露骨な侵略の魔手に、次第に手足を挽がれて行つた。

第三回目は佛蘭西がビルマに接近策を講じて居るのを知つた英國は、ビルマに對して英吉利の保護國となるべき事を強要し、國王が斷然之を撥ね付けると、一八八五年（明治十八年）には直ちにビルマに宣戦した。之から弱い者虐めの英國は、破竹の勢ひを以て進撃し、直ちに全土を簾捲して首都マンダレーに殺到し、國王シーボウを捕へて印度のボンベイ港附近のラッアギン島に流し、こゝに總面積六八萬方籽、人口一五〇〇萬のビルマ王國を完全に侵略の犠牲として了つたのである。さても白魔の飽くなき貪慾に禍され、仕掛けられた理不盡な戦争によつて、連綿こゝに二千餘年の祖國を失ひ去つたビルマ人こそは、誠に氣の毒千萬と云はねばならぬ。

### 一、國土の慈母イラワディ河

南北の延長約二〇〇〇籽、東西約一〇〇〇籽、面積凡そ六八萬方籽、我が日本の全面積と略ぼ匹敵するビルマの國は、南半部の平原地帯と北半部の高原地帯とから出來て居る。

國土の骨格をなせるものは西藏高原の東南部に於ける横斷山脈の餘派にして、北隣トナリの支那にある西康、雲南に近い邊りには、高峻な山や峯が重なり合ひ、人跡未踏の部分が少くない。此處から南北に走る數連の山脈となつて放射されるが、就中東部を南下するシャン山脈は、南に延びて佛印及び泰國との國境を作り、マ

レー半島頸部のテナセイン山脈となり、更に其の餘脈は蜿蜒南に伸びてマレー半島の骨格を構成する。又西方印度本部との境界をなして南西に走る山脈は、ベンガル灣頭に於て南東に轉向するアラカン山脈となり、一度はベンガル灣に姿を没するが、其の餘脈は再び海中に崛起してアンダマン、ニコバルの二列島となり、スマトラの大島と呼應して「碧玉の帯」へと連る。

以上の二大山脈と、兩者の中央部を南下するペグー山脈とが國土の三大骨格で、之等大山脈の間に發達したる縦に長い溪谷を、イラワディとサルウィン二大河の本支流が大動脈となつて灌漑する。共に上流では兩岸近く相迫る處、千古斧を入れたる事なき常緑の大密林の下を、清流恰も一連の白布を伸べたるが如く、岸を噛み、巖に激し、澗んでは深淵となり、奔つては急湍となり、物凄き虎豹の咆哮するを聞く外は絶えて人跡を見ざる奥地に、風光明媚の幽邃境を作るが、次第に流下する間に山側の水を集めて巨流となり、大河となり、ビルマの寶庫たる廣大な沃野を灌うしてマルタバン灣に注ぐ。

中にもイラワディ河は源を遠く西藏に發してビルマの中央部を南流し、下流は數條の支流に分岐し、廣大な三角洲を作つて海に入る。全長二一五〇籽、其上流地方は世界でも最も雨の多い地方であるだけに、水量は頗る豊かにして、舟運の便を通ずること約一六〇〇籽、河水に灌漑される約四三萬方籽の大沃野には、一望涯てなき良田が遠く展けて、米の産出が多く、誠に交通上からも産業上からもビルマの大動脈をなして居る。此の國對外貿易の大部分を吞吐する蘭貢港は、河口から三〇哩程溯つた地點にあるが、一萬噸級の大



汽船が自由に河岸の埠頭に横着けになると云ふのであるから、以て此の河が如何に水量が豊富であるかを察するべく、又一千噸級の汽船ならビルマの北端、支那の國境に近きバーモ迄溯航が出来ると云ふから、亦以て此の河が、如何に援蔭ビルマルート前衛の大動脈たる役割を演じて来たか判るのである。

又サルウィン河も泰國とビルマの國境近くを流れて、延長二千餘浬の中河口から六〇〇浬の間は舟楫の便あり、下流の沃野と相俟つて、國土の開発に貢獻する處が少くない。

### 一、曇天の無い國

北には高峻なヒマラヤ大山脈の餘派が蜿蜒として連亘し、南には赤道直下の熱海印度洋が蒼波渺茫として擴がつて居るので、此の特殊な水陸分布の關係から、ビルマの氣候は大體一年が雨期と乾期の二つに分けられるのである。

即ち北半球が太陽の直射を受ける夏には、ビルマでは赤道直下の印度洋を渡つて来る濕潤な南西の風が卓越して、多量の雨が降り續くが、之に反して太陽が次第に南に去つて、此の地方に所謂冬が訪れると、ビルマでは内陸から吹く北東風が卓越して乾燥期に入り、氣持のよい晴天が續く。毎年五月の始め頃から雨期に入り、十月末迄續いて、それから翌年の四月頃迄は殆んど雨が降らない。此の雨期の降雨と云ふのが、日本の梅雨の様な陰鬱なものではない。例の印度洋のモンスーンで、物凄い雷鳴と電光を伴つた爽快な夕立雨で、黒雲天を覆つたと思ふと、早くも土砂降りの猛雨が沛然と襲來し、通つて仕舞へば後はカラリと霽れて

見事な晴天となる。之が毎日二、三回から多い日には四、五回もやつて来るので、ビルマには雨天と晴天はあるが、曇天と云ふものは殆んど無いと云つてもよい。

降つては霽れ、霽れては降り、之が約四、五ヶ月も續く。何しろ一年中でも最も暑かるべき時期が、此の雨で支へられて居るのであるから、蒸暑い事は譬へるものがない。家具には黴が生える、悪い病が蔓延する、百蟲毒蛇が繁殖する。河水は悉く暴漲し、人は雨を避けて家に蟄居する。旅行者には以ての外の嫌な雨であるが、一方之が「土壤に生きる」ビルマ人の生活にとつては、何物にも代へ難き天來の慈雨で、エヂプトがナイルによつて生命づけられて居るのと同様に、ビルマでは印度と同様に毎年の此の降雨の多寡によつて、總てが支配されるのである。即ち此の季節風の訪れの無い場合とか、又は其の訪れの遅いか早いかは、直ちに此の國の經濟状態に重大な影響を及ぼし、或は飢饉を、或は凶作を惹き起す事さえ稀でないのである。

夏の眞盛りには、毎日の此の男性的な豪快な降雨で餘程救はれるが、ビルマで一番苦しい時は雨期と乾期の移り目で、四月の末から五月の始めにかけての時分には、寒暖計が攝氏の四〇度を超えることも珍らしくない。此の季節にはラングーンにあるビルマ政廳も、北部の高地にある夏期首府メーミョーに移る位で、在留邦人等も此の頃になると、酷暑に苦められて眠られぬ夜が幾日も續くと云ふ。乾期中の十二月、一月、二月頃は毎日晴天続きで、夜には時によつて二〇度位迄降ることあり、空には一片の雲影をも認める事なく、月の半分は燈火なしで夜行が出来る。此の季節こそは、ビルマの生活にも旅行にも絶好の季節なのである。



## 一、殆んど原始産業

ビルマは近代科學工業に缺くべからざる鑛産資源、及び熱帶資源に恵まれた天與の國土と云ふべき地方であるが、其の殆んど大部分は未開發の儘に遺棄されて、僅に交通便利にして開發の容易な一小部分のみが、着手されて居るに過ぎない状態である。

雨の多いビルマでは、雨期には諸川の下流は河水の氾濫によつて、其の兩岸二、三〇呎の間は深さが四、五寸から一尺四、五寸餘の一面の泥海となり、減水した跡には附近一帶に多量の肥土が堆積する。随つて之等河畔の沃土には農業が盛んに行はれ、住民の九五%は農民で、米、護謨、小麥、棉花、豆類、煙草、玉蜀黍等の産量甚だ豊かであるが、就中米はイラワディ河の下流、一望千里の廣漠たるデルタ地方を主産地として、年産額約六〇〇萬噸の巨額に上り、其の中の約一五〇萬噸は蘭貢米としてマレー、ジャヴァ、印度、スマトラ等海外の各地に輸出される。米の輸出國としてはビルマは世界第一であり、而も之等ラングーン米が右の諸地方に於ける住民の食料的死命を制して居ることは、策戦上最も注目すべき問題である。

尙は年産六〇〇萬噸は此の國の全生産力ではなく、現在の耕地面積からしても増收の可能性が多く、更に残されて居る廣大な未耕地を考へると、收量を増加することも敢て困難ではない程であるが、元來ビルマ人は熱帶人の通弊で貯蓄心、勤勞心に乏しく、且つ増收による價格低下の防止等からも、現在の生産量に止め置く状態である。

林業もビルマの主要産業の一つで、熱くて雨の多い北部の山地からはチークの良材が盛んに伐採される。國內の各地にある製材所では、大力の象を飼ひ馴らして材木の運搬に使つて居るが、人間なら五、六人掛りでも扱ひかねる様な大木を、軽々と鼻に引つけて河の中に突き落したり、運んだりする圖體の大きい此の動物を、馭者が槍一本で巧みに驅使して居る姿は、此の國でなければ見られぬ光景である。

鑛産物には石油、アンチモニー、錫、鉛、銀、亜鉛等があるが、就中石油はイラワディ河の流域一帯到る處油脈あり、近年其の産額が著しく増加し、盛んに鐵管を以てラングーンに近いシリヤム精油所に送り、此處で精製したる油は多く英領印度に向けて輸出されて居るが、其の産量は二〇〇萬噸前後に上る。其他アンチモニーは殆んど探掘に着手されて居らぬが、場所によつては厚さ三米、時には五、六米にも及び、長さ三、四百米に餘る大延べ板の如き露出層をなして居る處もあり、又タングステン<sup>サツアイン</sup>の原鑛ウォルフラムの産額は世界的のものであると稱せられるし、紅玉<sup>ルビ</sup>、青玉<sup>サツアイン</sup>、硬玉、琥珀、翡翠等の寶石類もビルマは世界屈指の産地である。

何しろビルマは國の大きさが日本の全面積と匹敵するにも拘らず、人口は頗る稀薄で僅に一六〇〇萬に過ぎず、今でも上ビルマ地方では鐵道沿線から二、三哩入ると人跡未踏の地が多く、象の大群が濶歩し、猛獸が横行して居ると云ふ有様であるから、住民の生業も農業、林業、鑛業等の原始産業が殆んど全部で、工業の如きは精米と製材の特別なるを除けば、紡績、精油、精糖或は金屬精煉等、今日まだ發達の初期にある状態である。



態である。

外國貿易は英領印度、海峽植民地、蘭領印度、日本、支那、英國を主要對手國として、米、チーク材、鉛、錫、棉花等を輸出し、綿製品、機械類、鐵等を輸入するが、年々四億圓程度の輸出超過である。又日本との貿易は棉花、鉛、豆類等を日本に輸出し、綿製品、人絹製品、毛及び絹織物、陶磁器、硝子製品等を日本から輸入するが、毎年輸入が超過して、從來は日本にとつては結構なお得意様であつた。

#### 一、信心深いビルマ人

ビルマの住民はモンゴリヤン系で、支那方面から南下して來たものが大部分であるが、此の外山嶽地帯や邊疆地域にはシャン、アラカン、ガチン等の先住民族が住み、又外國人には印度人が一二〇萬、支那人が三〇萬、歐羅巴人及び其の混血種が三萬五千位住んで居る。

ビルマ人は蒙古人種であるだけに、支那人や日本人と酷似して居る。明瞭な黄色人種で、デルタ地方の農民中には熱帶の強烈な日光に曝された爲めに、日本の農民や漁師の如く赤銅色のものも居るが、一般には寧ろ日本人よりも色が白い位で、印度人の様に眞黒ではない。頭には帽子の代りに絹を纏ひ、支那服によく似た上衣を着けて居るが、下の方はマレー人と同様にロンギと云ふ腰巻の様な、幅の廣い布を巻いて居るのがビルマ人の服装である。米食を主とし、野菜や魚類、果實等を用ひるが、獸肉は餘り好きでない。シャン高原には日本の様に蒟蒻や納豆もあり、彼等は好んで食すると云ふ。右手の三本指で飯や菜を掴んで口に運ぶ

ことは、マレー人や印度人と全く同様である。

ビルマの社會には華族や平民等の特殊階級はなく、大臣も農民も悉く平等であるが、唯だ古くからの佛敎國であるだけに、僧侶の數が非常に多く、住民の信仰が篤い關係から、僧侶は一般大衆に對する指導者として重んぜられて居る。國民の大部分は佛敎徒で、而も其の盲信振りたるや、ビルマ人の思想や生活から佛敎を除いたら、殆んど後には何物も残るまいと云はれる程の激しさである。

男子は生れて八、九歳になると、其の地の僧院に通學して僧侶から初步の教育を受ける。そして十三、四歳に達すると、親の同意の下に僧院に入つて髪を剃り、必ず僧侶の生活を送らねばならぬ。僧侶の修行を終つたものが、初めて社會の一員として活動し得るのであつて、此の點はタイ國と頗る相似て居る。尤も近年は此の風習も頗る形式化して、一週間位の僧院生活で還俗するものもあるが、大抵は數ヶ月乃至數年に及ぶ。

随つてビルマ人は佛寺の建立程尊い奉仕はないと考へて居るのである。其の建立者は聖者を以て目せられ、其の死後は必ず極樂往生が出來ると信ぜられて居る程で、之がために貧富共に贖金を惜まず、一般民家の粗惡なのに較べて、寺院佛塔は實に立派である。それにビルマでは古來王族の建立したる佛塔は、功德の歸着が混亂するとの考へから庶民の修葺を許さなかつた事や、又庶民の階級間にあつても後人が、先人の建立せるものを修葺せんとする場合には、先人又は其の後裔の承諾を得なければならぬ等の關係から、古寺の



修理よりも新寺院の建立へと志すものが多く、随つて此の國には新舊佛寺の數が實に夥しい。全土到る處に民度と不似合な壯麗な佛寺のそゞり立てる光景は、誠にビルマ名物の一つである。

佛教の影響からまた此の國では上下を問はず一般に慈善の風が甚だ盛んで、僧侶や寺院に喜んで喜捨をすることは勿論、旅行の道中には到る處に旅人の爲めの休息の家が建てられてあり、又水瓶には水を充して誰でも自由に渴を醫する事が出来る様にしてあるが、之等も信心深いビルマ人の施こしの精神から出た、偉大な社會施設の一つと見る事が出来るのである。一般にビルマ人は佛教の感化で、極端な殺生嫌ひである。例へば身を蝨されたり作物を損つたりする害蟲でも、捕殺するのを忌むと云ふ位で、嘗つてラングーン市で街路樹に非常に澤山な印度鳥が巢を營み、繁殖して附近を荒し廻るので鳥退治の相談が持上つた所、佛教徒の反對で遂に沙汰止みになつたと云ふ話さえある。誠に温順で平和な、思ひやりの深い愛すべき民族であるが、唯だ弱者の常として稍々陰險で、猜疑心が強く、而も御自分は一向勤勉でないと云ふ、餘り感心の出来ない通性を持つて居ることは、國民性の大きな短所である。

蓋し國內にある大小各種の會社から年々配當される莫大な利益金は、其の總てが英人の懐にはいつて仕舞ふ。そして之等の金は一部分は彼等の豪華な生活の元手となり、其の残りは遅かれ早かれ皆本國に持ち去られて仕舞ふ。天然資源の豊富な國に生れ乍ら、働いても一向自分達の懐が温にならぬ。外國貿易では年四億圓からの受取勘定になつて居るにも拘らず、ビルマ人は單に之等輸出品の生産過程に於ける僅少の勞

働賃金を得るに止まり、利潤の大部分は英人を主として、其他支那人や印度人に壟斷せられて、單なる筋肉勞働の領域に於て、僅に蠢動して居ると云ふ有様では働く氣にもなれず、貯蓄心も出て來ないのは無理ない事かも知れぬ。

ビルマ人を犠牲にして、自分達だけが巨富を獲得して贅澤三昧の日を送り、氣儘放題に振舞ふのを一種の特權の如くに考へて居る英人が相手では、何年待たうと先方から進んで好意的に、自分達の事を考へて其の幸福を増進して呉れる事などは絶対に望まれない。矢張り自分達のことは自分達の考へと力で、しつかりやらねばならぬと云ふ意氣込が、近來目覺めたるビルマ人の頭に燃え出したのも亦無理なき次第である。

### 一、弱肉強食の政治

ビルマ人は英吉利から仕掛けられた三回の戦争で祖國を失ひ、爾來今日迄英國の支配下にあるのである。即ち一八二三年に起つた第一回英緬戦争で、二〇〇萬磅の償金と共に海岸通りの下ビルマ地方、即ち國土の約三分の一を奪はれて仕舞つた。一八五二年に起つた第二回英緬戦争で、ビルマは残りの半分を奪はれた。更に一八八五年に起つた第三回英緬戦争で、全土英國の領有に歸し、佛教の傳來以後だけでも正に二千五百年と云はれる、古い歴史を有するビルマ王國は完全に滅亡して、永久に東亞の天地から姿を消して仕舞つたのである。

英國はビルマ攻略の理由を、自國商人に對するビルマ國王タイバウの虐待を罰したるものであると、如何